

はら 原 ま 間 遺 跡

－中部横断自動車道建設事業に伴う発掘調査報告－

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第二七九集

原
間
遺
跡

二〇一・三



2011.3

山梨県教育委員会
国土交通省関東地方整備局

はら 原 間 遺 跡

- 中部横断自動車道建設事業に伴う発掘調査報告 -

2011.3

山梨県教育委員会
国土交通省関東地方整備局



発掘調査前の全体風景 写真中央が原間遺跡
原間遺跡を北から南へ望む 右奥の高い山は篠井山 左手に見えるのは富士川



斜めに横断する道路の上手はA区、道路の下手右側はB区、左手の広い場所はC区



原間遺跡A区の調査風景



原間遺跡C区の調査風景（中央は2号住居跡）

あらまし

南部町は、平成15年3月1日に富沢町と旧南部町が合併して誕生した町で、山梨県の最南端に位置しています。県庁所在地の甲府からは南へ約60kmの所にあり、標高は170m前後で平均気温は15度と高く、温暖でとても過ごしやすい町です。

旧南部町では、52カ所の遺跡が周知されており、旧富沢町では、山梨県の遺跡台帳によると51カ所あります。ですから、南部町全体では103カ所の遺跡が存在していることになります。

この町には、県内の旧石器時代を代表する万沢地内の天神堂（てんじんどう）遺跡を始めとして、中世では旧富沢町の福士にある真籬城（まじのじょう）跡があります。

天神堂遺跡から出土した旧石器時代の遺物は、県の考古資料として平成16年5月6日、1034点が指定を受け、真籬城跡は戦国時代の城郭として県の史跡、平成12年3月2日に指定されています。

原間遺跡は、本郷地区ではもちろんのこと町内でも有名な周知された縄文時代の遺跡で、この地区に広がるお茶畑の中に存在しています。

さて、本書の原間遺跡ですが、南部町から市川三郷町までの約28kmが国土交通省と山梨県による「新直轄方式区間」で、中部横断自動車道建設に先立ち平成20年11月19日から12月2日まで事業地内約12,000m²を対象として試掘確認調査を実施し、縄文時代後期前半を中心とした遺跡で土坑が確認され、黒色土中から多量の土器片や石器などが見つかり、多数の縄文時代後期の住居跡の存在が想定されました。その結果、約6,000m²が調査対象となり、平成21年6月から発掘調査が始められ、同年11月まで行われました。

その結果、掘り窪めた穴（土坑）や平安時代の家の跡、多量の土器片や石器片（矢じり、石の斧、石の錘（おもり）、



試掘調査で確認された土坑



試掘確認調査の作業



試掘確認調査の作業景

石棒（せきばう）など）が発見されました。出土した遺物の中には、一点ではありますが旧石器時代につくられた石器が見つかっています。この遺物は、今からおよそ2万6000年前のものと推定されています。

さて、今回の発掘調査成果ですが、縄文時代の土坑が約100基と、地面が焼かれた跡（焼土遺構）1基、平安時代の家の跡1軒などが発見されました。

多数見つかった土坑では、小さな穴（30cm前後）から1m前後の大きな穴があります。小さな穴は、柱のようなものを建てたと考えられます。大きな穴では、底の方

が広がる袋のような形をしたものがありました。この穴は、食料などをためていたものと思われます。

このような穴のほかに、石を積めたものも見つかりました。石のほとんどのものはこの土地に転がっている石ですが、この石に混ざって周辺にないようなものが4ヶ（写真中の赤丸：残り1点は石の下です）ありました。図面を作成した後、この4ヶの破片となった石を取り上げてみると割れ口で合わせり、石棒となりました。太い箇所でも割れた面がありましたので、未調査地区にあるものと思われます。

この石棒のほかに、4点の石棒が出土しました。いずれも土坑などの遺構に伴わず、お祭りのあと廃棄されたのではないかと思われる状況で見つかりました。

石錘（石のおもり）については、A区、C区から出土しています。遺跡のすぐ南側には船山川が西から東へ流れています。河川に近いということもあり、この石器が出土したのではないかと考えられます。

石錐（矢じり）については、75点が見つかりました。現在でもこの遺跡や周辺では、シカやイノシシ、サルといった動物が畑を荒らしたりしています。縄文時代でも多数の動物がいたと思われます。

石皿や磨石、凹み石といった木の実などを粉にする道具も出土していますので、山にも近いので木の実などを採集したりしていたのでしょうか。

発掘体験事業や課外授業などの開催では、事業主体者の方のご理解を得て実施しました。

原間遺跡の終了に伴い埋蔵文化財の啓発事業も開催しました。



9月1日 瞳合小学校の課外授業風景



11月23日 埋蔵文化財の啓発事業風景

序

本書は、国土交通省と山梨県による「新直轄方式区間」約28km（南部町から市川三郷町まで）の中部横断自動車道建設事業に伴う「原間遺跡」の調査成果をまとめたものです。

旧南部町内で初めて本格的な発掘調査が行われたのは、平成20年10月南部インター建設事業に伴い中野地区で実施された寺前遺跡です。第2回目の調査が原間遺跡となります。

発掘調査は、平成21年6月から表土掘削が行われました。その後、人力による遺構確認が実施され同年11月まで調査いたしました。調査区は、道路や谷によって区画されていたことから、北からA区、B区、C区と名称を付し、廃土の移動や作業工程などから順次北から調査を進めてきました。

発掘調査の結果、打製石斧、石棒、石鏃、石錘、石皿等の石製品や、縄文土器片、平安時代の土器片などを見つかりました。遺構については、縄文時代の土坑約100基、地面が焼かれた焼土遺構1基、平安時代の住居跡1軒などを調査しました。

このような遺物・遺構から考えてみると、発見されたこの遺跡は縄文時代を中心とするものでした。土器から見ると、縄文時代前期後半、中期中頃から後半、後期前半の時期にあたります。これらの時期の土器は見つかってはいるものの、生活の場を示す住居跡は確認されていません。今回の調査区では、原間遺跡がつくられた大規模な集落の縁辺部にあたり、遺跡の本体、または中心部は西側に存在しているものと思われます。

また、壊された石棒や注口土器片などから、祭祀がなされた場、祭祀が終わった後の廃棄行為などが想定されます。

南部町には周知の遺跡が数多くあり、今後も予定路線地内では遺跡の有無を確認するための試掘調査等が実施されることだと思います。そのため、今後新たに発見される遺跡の数も増加することが予想されます。

こうした発掘調査の成果が、南部町の歴史を解き明かすことに貢献できれば幸いです。

最後に、発掘調査及び報告書作成にあたり、さまざまご協力をいただいた関係者や関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成23年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 小野正文

例　言

1. 本書は、山梨県南巨摩郡南部町本郷字原間地内に所在する原間遺跡の発掘調査報告書である。
2. 書籍名は「原間遺跡」であり、副題は「中部横断自動車道建設に伴う発掘調査報告書」である。
3. 「原間遺跡」は、平成20年11月から12月に山梨県埋蔵文化財センター（以下、「埋文センター」という）が実施した試掘確認調査によって範囲が確定され、発掘調査が行われたものである。
4. 本書掲載内容は、原間遺跡の経緯と中部横断自動車道建設に伴い埋文センターが平成21年度に実施した発掘調査成果をまとめたものである。
5. 調査及び報告書刊行までの作業は、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所からの委託を山梨県教育委員会が受け、埋文センターが担当した。
6. 原間遺跡に関わる発掘調査は、平成21年6月8日～11月25日の期間に発掘調査を実施した。また、基礎的整理作業は、平成22年1月12日から平成22年3月9日まで実施した。
7. 本書刊行までの作業は、平成22年10月4日～平成23年3月15日までの期間に埋文センター内にて実施した。
8. 本書に掲載した遺構・遺物・作業状況写真は、山本茂樹・稻垣自由・三田村美彦が撮影した。
9. 本書に掲載した遺跡空中写真・図化作業は株式会社シン技術コンサルに委託した。
10. 発掘調査に関わる世界測地系座標・グリッド設定・基準標高測量は、株式会社一瀬調査設計に委託した。
11. 打製石斧（66点）、石鏃（61点）については、（株）テクノプラニングに委託した。
12. 調査に関わる写真・記録類は埋文センター、遺物は山梨県立考古博物館で保管・活用している。
13. 第5節の執筆及び第16図の作成については保坂康夫が行なった。
14. 本書の執筆及び編集は、山本・稻垣・三田村がおこなった。
15. 発掘調査から本書刊行まで南部町教育委員会の協力を戴いた。記して謝意を表する。

凡　例

1. 本書中に記載されている遺構名は、本調査時の名称を用いている。
2. 掲載した図面の縮尺は、原則として以下の通りである。
遺跡関連：中部横断自動車道路線図など 1/50,000 遺跡位置図 1/25,000 工事図面 1/1,000
グリッド設定図 1/200 グリッド杭 5 m メッシュ
遺構図：住居跡平面図 1/40 断面図 1/40 かまと平面及び断面図 1/20
土坑平面・断面図 1/20 挖立柱 1/40
遺物関連：土器類 1/3を基本としているが、大きさにより縮尺を変え図版中に明記した。
石器類 1/3を基本としているが、大きさにより縮尺を変え図版中に明記した。
3. 遺構図に示した方位（N）は磁北で、全体図に示した方位（N）は、世界測地系座標による真北である。
4. 遺構図版中のトーンは、焼土検出範囲を示す。
5. 遺構全休図（第3図）に示した等高線の間隔は、10cmである。
6. 土層及び遺物などに記載した色調は、「農林水産省農林水産技術会議事務局監修 2001.1『新版 標準土色帖』」を参考にした。
7. 遺物の重さはグラム（g）で、小数点第2位以下を四捨五入した。

目 次

口絵

あらまし

序

例言・凡例

第1章 調査の経緯と経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査までの協議と調査経過.....	1
第3節 調査組織.....	3
第2章 地理的環境と歴史的環境.....	4
第1節 地理的環境.....	4
第2節 歴史的環境.....	4
第3章 調査.....	8
第1節 調査方法.....	8
第2節 整理作業.....	8
第4章 検出された遺構と遺物.....	15
第1節 住居跡.....	15
第2節 土坑.....	16
第3節 焼土遺構.....	16
第4節 捜立柱.....	16
第5節 原問遺跡出土の石器について.....	29
ま と め.....	57
写真図版.....	65

挿図目次

第1図 中部横断自動車道路線図.....	5-6	第11図 土坑 (4).....	24
第2図 原問遺跡位置図.....	10	第12図 土坑 (5)・掘立柱.....	25
第3図 遺構全体図.....	11-12	第13図 土坑 (6)・A-焼土遺構.....	26
第4図 原問遺跡区域図及び全体図.....	13	第14図 土坑 (7).....	27
第5図 原問遺跡区域図及び全体図.....	14	第15図 土坑 (8).....	28
第6図 住居跡.....	17	第16図 旧石器時代及び縄文時代の出土石器.....	31
第7図 住居跡カマド・出土遺物.....	18	第17図 打製石斧 (1).....	36
第8図 土坑 (1).....	21	第18図 打製石斧 (2).....	37
第9図 土坑 (2).....	22	第19図 打製石斧 (3).....	38
第10図 土坑 (3).....	23	第20図 打製石斧 (4).....	39

第21図 打製石斧 (5).....	40	第29図 出土土器 (1).....	51
第22図 石鏃.....	41	第30図 出土土器 (2).....	52
第23図 磨製石斧・丸石.....	42	第31図 出土土器 (3).....	53
第24図 石棒.....	43	第32図 出土土器 (4).....	54
第25図 磨り石・砥石.....	44	第33図 出土土器 (5).....	55
第26図 凹み石・石皿.....	45	第34図 出土土器 (6).....	56
第27図 石鍤 (1).....	46	第35図 原間遺跡グリッド番号図.....	59
第28図 石鍤 (2)・土鍤.....	47		

表目次

第1表 遺跡地名一覧表.....	7	第4表 原間遺跡出土石器観察表.....	32
第2表 土坑計測表 (1).....	19	第5表 原間遺跡出土土器観察表.....	48
第3表 土坑計測表 (2)・土層説明.....	20	第6表 原間遺跡出土石器分類表.....	60

写真図版目次

図版1 土坑 (1).....	67	図版11 石器 (4).....	77
図版2 土坑 (2).....	68	図版12 土器 (1).....	78
図版3 土坑 (3).....	69	図版13 土器 (2).....	79
図版4 土坑 (4).....	70	図版14 調査風景 (1).....	80
図版5 土坑 (5).....	71	図版15 調査風景 (2).....	81
図版6 土坑 (6)・住居跡 (1).....	72	図版16 調査風景 (3).....	82
図版7 住居跡 (2)・遺跡調査前風景.....	73	図版17 遺物出土状況.....	83
図版8 石器 (1).....	74	図版18 啓発事業など.....	84
図版9 石器 (2).....	75	図版19 調査風景と試掘確認調査風景.....	85
図版10 石器 (3).....	76	図版20 原間遺跡全体写真.....	86

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

中部横断自動車道は、国土交通省の「新直轄方式区間」約28km（南部町を起点として市川三郷町の旧六郷町宮原地区まで）と中日本高速道路株式会社の「有料道路方式区間」（宮原地区から双葉ジャンクションまでの区間）によって計画が進められてきた。有料道路区間については、既に双葉ジャンクションから増穂町インターまで完成されており、増穂インターから宮原地区までが計画及び建設が行われている。

新直轄方式区間である市川三郷町から南部町については、平成19年2月に計画路線内の現地踏査を実施した。区内では、トンネルや切り盛り土、高架橋などが建設予定されているため、路線内をほぼ忠実に踏査を行った。しかし、山林がほとんどであったため落ち葉などが多く、遺物などの発見には至っていない。

現地踏査は、このような状況であったため、遺跡分布図及び地形等を考慮しながら実施し、試掘調査を必要とする場所については、報告書を県学術文化財課経由で国土交通省へ提出した。南部町地内では、平成20年から南部センター建設事業が実施され、国土交通省による用地の取得後、学術文化財課に試掘調査が依頼された。

平成20年11月19日から12月3日にかけて、南部町内の本郷字原間地内で約12,000m²の試掘調査を実施した結果、縄文時代後期前半の遺跡が約6,000m²にわたって存在していることが明らかにされた。

このことにより原間遺跡の発掘調査は、平成21年6月8日から同年11月25日まで行われた。

第2節 調査までの協議と調査経過

事業主体者と県学術文化財課による中部横断自動車道建設に伴う事前協議がもたれた。道路建設という事業内容から、工事に当たって埋蔵文化財が壊されることになり、原間遺跡の範囲確認、遺跡の時代を把握するための試掘確認調査を実施する運びとなった。

このことにより埋蔵文化財センター（以下埋文センターという）は、平成20年11月19日から12月3日までの間、中部横断自動車道建設予定地である約12,000m²を対象に試掘確認調査を実施した。道路建設ということもあって、長い区間であったことから2ヶ所の周知の埋蔵文化財包蔵地が存在しており、試掘確認調査を実施することとなった。一ヶ所は「原間遺跡」、もう一ヶ所は「大神遺跡」である。その結果、大神遺跡では遺構は確認されなかったが、未取得地もあるため今後取得された場合には試掘確認調査を実施する旨を報告した。

原間遺跡では、約12,000m²に試掘溝を12本設定するとともに、23ヶ所の升堀を行った。また、調査区内には既存の道路や谷などもあったため、A区、B区、C区と3区画に別けて行った。それぞれの調査区では、重機掘削を行う前に遺構確認面までの深さを調べるために、人力掘削による升堀を採用し掘削を行った。その結果、A区では、表土下40cm以下で土器片の出土量が多かったため、特にこの地区では重機掘削することなく、本調査の時期に重機を投入することで対応した。B区及びC区については、調査区が連続していること、試掘調査範囲が広いこともあって人力掘削だけでは対応しきれない箇所もあるため、重機を導入して調査に当たった。C区の南端では大神遺跡が存在していたが、発見された遺物は少なく遺構は検出されなかったことから調査範囲を縮小した。なお、この大神遺跡では、表土下わずか10cm～20cm程度で地山が確認され、礫層を伴う層であったことから試掘調査を実施した範囲においては集落を営むに適さない場所であることが明らかにされた。

以下、調査経過を記載する。

原間遺跡発掘調査の経過

平成20年

- 11月19日 周知の埋蔵文化財包蔵地「原間遺跡」において、遺跡の範囲および時代などを確認するため試掘確認調査を12月3日まで実施。(対象面積約12,000m²)
教理文第614号にて試掘結果報告提出

平成21年

- 5月1日 原間遺跡にて、事業主体者、学術文化財課、埋文センターを交えて現地での打ち合わせ実施 発掘調査のための諸手続及び準備
- 6月3日 中部横断自動車道の敷地内において未試掘箇所であった「大神遺跡」及び「原間遺跡」隣接箇所の試掘調査実施。特に「原間遺跡」隣接箇所については、谷部であることから水辺遺構も想定されるので試掘調査を実施。結果として、遺構及び遺物は確認されなかった旨を教理文第305号にて試掘結果報告提出。
- 6月8日 A区表土掘削開始
- 6月9日 プレハブなどを設置
- 6月10日 B区表土掘削開始 教理文第191号にて99条提出 発掘調査着手報告及び南部町教育委員会へ協力依頼文書提出
- 6月12日 C区表土掘削開始 作業員面接
- 6月15日 器材の搬入
- 6月22日 作業員による遺構確認作業開始
- 6月26日 重機による表土掘削全て終了
- 7月1日 バックホー、クローラーダンプ、ベルトコンベア、発電機搬入 A区で遺構確認作業実施
- 7月2日 測量杭打設
- 7月3日 測量杭打設終了
- 7月23日 安全管理点検日
- 8月9日 発掘体験セミナー開催
- 9月1日 瞳合小学校の課外授業の受け入れ
- 9月8日 ラジコンヘリコプターによるA、B区の空中撮影実施。C区の調査開始
- 10月8日 台風
- 10月21日 安全管理点検日
- 10月27日 ベルトコンベア、発電機の撤収
- 10月28日 C区の通路部分を拡張
- 11月11日 器材の一部を撤収
- 11月12日 引き続き器材の一部を撤収
- 11月13日 空撮に備えて遺跡内の清掃
- 11月16日 前々日雨天であったため、再度遺跡内および遺構内の清掃
- 11月17日 天候不順であったが、第2回目の空中撮影実施。その後、器材の洗浄作業実施。
- 11月19日 17日の空中撮影の残りを実施
- 11月23日 埋蔵文化財の啓発事業（現地説明会）の実施
- 11月24日 器材の撤収
- 12月2日 教理文第644号にて埋蔵文化財発見の通知提出
- 12月3日 教理文第653号にて原間遺跡発掘調査の終了報告を提出
- 12月4日から25日まで 発掘調査担当者による基礎的整理開始、遺物台帳作成、写真整理、遺構カード作成、実測

および拓本遺物の選別

平成22年

1月12日から3月10日まで 作業員投入 基礎的整理作業を開始 注記作業および一部遺物の洗浄、遺物台帳作成、遺物の選別、遺物の接合作業を実施 石器実測委託のための遺物選別作業を実施

3月 原問遺跡の実績報告書提出

6月4日から打製石斧（66点）、石礫（61点）を同年9月15日まで石器実測を委託

10月4日から平成22年12月24日まで 本格的整理作業および報告書作成

10月4日から作業員投入

11月10日まで出土石器の実測、トレース作業及び図版作成

11月10日から12月24日まで 土器実測、拓本作業、トレース作業及び図版作成 各作業の終了後、土器・石器の写真撮影を実施

平成23年

1月6日から30日まで 写真図版および原稿作成

1月21日 入校

2月1日から3月15日まで校正

3月25日 『原問遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第279集 刊行

第3節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 小野正文 調査研究課長 出月洋文

調査担当者 山本茂樹（副主幹文化財主事）、福垣自由（非常勤嘱託職員）

発掘調査作業員 佐野欣二、坂主範子、遠藤重子、萩原富子、菊池佳子、市川和子、土屋藤平、望月晶、望月秋夫、寺田正美、小澤利一、仲澤清祥、大庭良子、大庭保男、早川祥子、小澤恵喜子、遠藤洋子、杉山直子、池田明宏、池田明美、佐野正之、望月久夫、望月広子、佐野尚美、大庭好子、渡辺三三恵、深沢祐子、芦川栄、渡辺守之、佐野貞光（順不同）

基礎的整理作業 山本茂樹、福垣自由

小林としみ、広瀬ありさ、新谷和美、土屋清美

本格的整理作業 山本茂樹、三田村美彦

土井みさは、森奈奈

第2章 地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境

原間遺跡は、山梨県の南端に位置する南巨摩郡南部町本郷地内に所在し、標高は170m前後である。県庁所在地の甲府からは南へ約60kmの所にあり、平均気温は15度と温暖で降水量が多く、お茶の産地としても有名で風光明媚な場所である。町の西側には、標高1,719mを測る十枚山や1,394mの篠井山などの山梨県南西部と静岡県北部をまたがる身延山地、東に1,030mの思親山などの天子山地に挟まれる。そして、そのほぼ中央に富士川が流れ、山に囲まれた南部町は、町の約9割が森林地帯である。

JR身延線は、富士山と赤石山脈に挟まれた富士川の左岸を走り、南部町区間は特に山岳の路線である。そして、身延町を過ぎ市川三郷町へと続きここまで富士川の左岸を通過することとなる。中部横断自動車道の新直轄区間は、南部町から市川三郷町の約28kmである。特に、南部町から富士川を横切り、身延町に入つてからは山岳であるため、トンネルや切り土などの工法で検討がなされている。

第2節 歴史的環境

南部町は、平成15年に南部町と富沢町が合併してできた町名であり、県内ではこの地域を含めて峠南と呼ばれている。本遺跡のある南部町は、国道52号線やJR身延線が通る町で、山梨県と静岡県とを結ぶ交通の要衝となっている。往時は富士川舟運の港町として、また駿州往還の宿場町として山梨県と静岡県の各地との交流が行われる中で繁栄を極めた。南部は、鰐沢へは9里、岩淵へは9里の中継地点にあり、富士川舟運上の要地として栄えてきた町でもある。本町は、奥州に勢力を誇り一時代を榮えた南部氏発祥の地として歴史のある町でもある。

旧南部町内での遺跡は、現行の遺跡台帳で52遺跡となっており、その内訳は、旧石器時代が1、縄文時代が18、古墳時代が1、奈良・平安時代が2、中世・近世が35となっている。そして平成20年度に寺前遺跡が新たに加わり52遺跡となった。また、旧富沢町内では県の遺跡台帳によると51遺跡が明らかとなっており、その内容については、旧石器時代が7、縄文時代が36、弥生時代が3、古墳時代が2、古代から中世にかけては18、近世が7となっている。これらの内で時代が重複する遺跡もあるが、南部町全体での遺跡総数は、103となった。

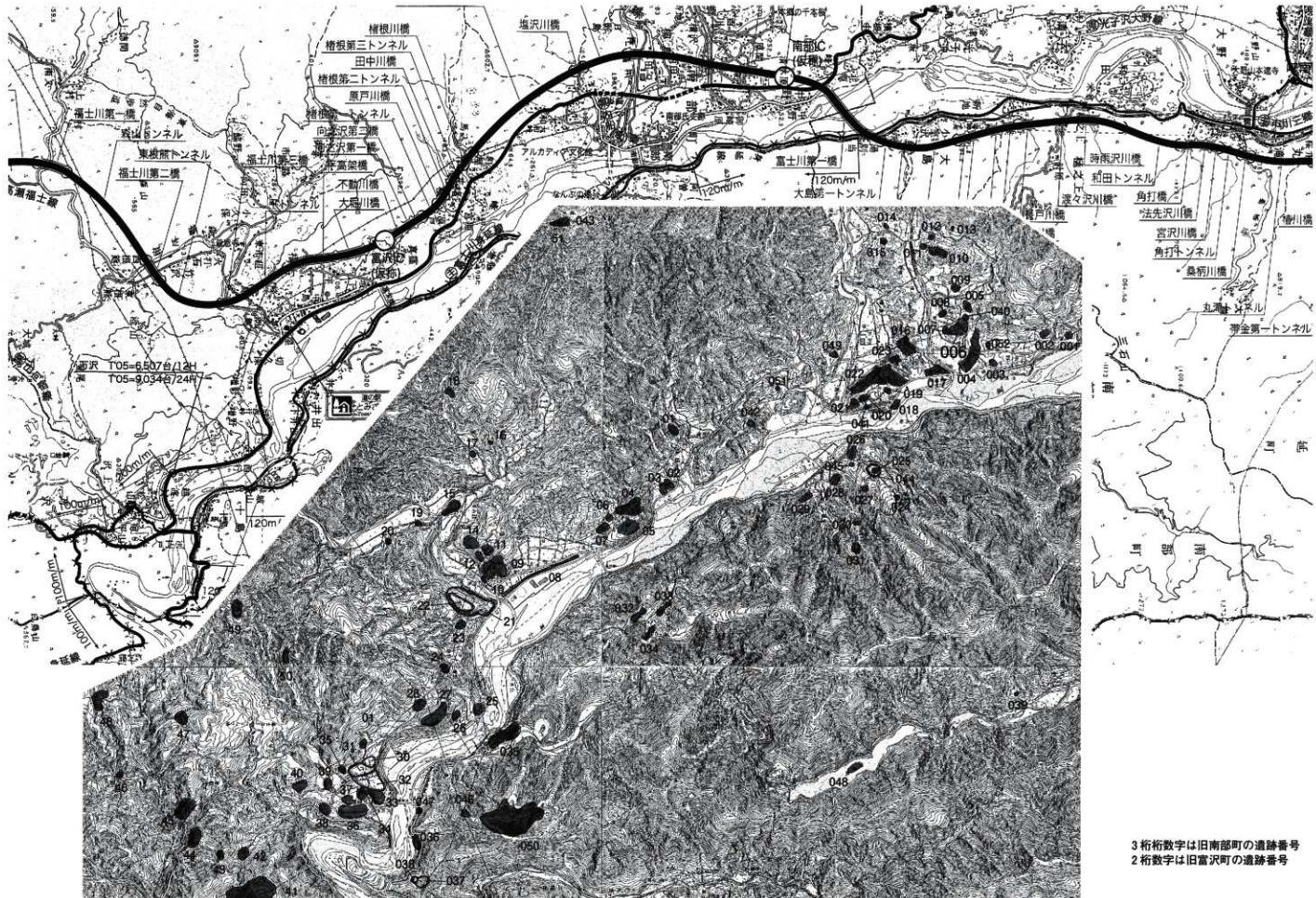
本遺跡が存在する本郷地区では、10遺跡が周知化されており、谷を挟んだ北の台地には中・近世の清水原遺跡が、更に北には縄文時代の北原遺跡、和田原遺跡がある。また、平成20年度に発掘調査された寺前遺跡（注1）は、本遺跡から北方向の台地にあり、土坑と溝状遺構、焼土遺構などが調査された（第1図052）。特に、本遺跡の本郷地区では、縄文時代を中心とした大集落が想定される原間遺跡の西に旧石器及び縄文時代の上原間遺跡が、南に隣接して縄文時代の大神遺跡が存在している。多くの遺物が表採され地元でも有名なこの遺跡は、現在お茶畑となっている。

遺跡が分布している場所は、富士川沿岸とその支流に面する地域で河岸段丘上に存在する。

南部町福士にある真籬城跡は、戦国時代の城郭で県史跡に指定されている。また、万沢地内には天神堂遺跡が存在しており、旧石器時代の遺物も確認され、町の史跡として指定されている。平成15年（注2）には、この地域で農道建設事業に伴う発掘調査が実施され、縄文時代早期から後期にかけての住居跡が10軒、土坑50基が見つかっている（第1図31）。

(注1) 山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第264集 「寺前遺跡」

(注2) 山梨県峠南地域振興局農務部 南部町教育委員会（財）山梨文化財研究所「天神堂遺跡」 2004年11月



第1図 中部横断自動車道路線図（平成22年3月）及び南部町内の遺跡分布図（1/50,000）

第1表 遺跡地名一覧表

南部町の遺跡地名一覧表(南部町誌より)

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
001	北原	中野字北原1301他	縄文・近世	
002	和田原	中野字和田原1575—1他	縄文	
003	石塚	中野字古林2881他	近世	
004	清水原	中野字清水原4812他	中世・近世	
005	上原間	本郷字上原間1341他	旧石器・縄文	
006	原間	本郷字原間309他	縄文・古墳・平安	H21年度調査
007	大神	本郷字大神366他	縄文	
008	泊山廬寺	本郷字泊山366他	近世	
009	妙見寺跡	本郷字妙見1410他	近世	
010	家の城跡	本郷字矢下7768他	中世	
011	法泉寺	本郷字下杉尾8062他	近世	
012	上杉尾	本郷字上杉尾970—2他	経塚?	
013	矢下	本郷字矢下7365他	石塚	
014	高ヶ谷	成崎字高ヶ谷3406他	近世	
015	上の山	成崎字上の山9323他	縄文	
016	坂本	南部字坂本6019他	中世・近世	埴輪群
017	御崎原	南部字御崎原7521他	縄文・中世・近世	
018	南部氏館跡	南部字老瀬8245—2他	中世	
019	上ノ山	南部字上ノ山16847他	中世	
020	追平窓跡	南部字上の山8832—1他	中世・近世	
021	追平	南部字平9030他	縄文	消滅
022	城山	南部字城山118899他	中世	
023	古城山	南部字古城116218他	中世	
024	高岡	内船字高岡3379他	近世	
025	寺巣り	内船字寺巣3599他	縄文	
026	馬場道上	内船字馬場道上—他	縄文	
027	宝生	内船字宝生5580他	近世	
028	宇上	内船字宇上7227他	縄文	
029	中元	内船字中元9911他	中世・近世	
030	倉ヶ平	内船字下倉ヶ平6045他	中世?	
031	倉ヶ平東	内船字上倉ヶ平5859他	近世	
032	札鳥	井出字札鳥2278他	縄文	
033	東八木沢	内船字東八木沢12907他	縄文	八木沢A
034	東堀	井出字東堀2611他	縄文	八木沢B
035	井出城山	井出字城山12960他	中世	烽火台
036	上の段	十島字上の段2285他	縄文	
037	葛谷登	十島字登2329他	中世	消滅
038	葛谷峠絆塚	十島字嶺1868他	近世	一字・石絆塚
039	大越山	上佐野字大越山1610他	中世	
040	原間絆塚	本郷字原間329—5他	近世	
041	木戸跡	南部字西町8491他		
042	跡・森	大和字跡・森2804他		
043	森井山絆塚	成崎字大塔4654他		
044	四条氏堀	内船字寺崎3599他		
045	地頭跡	内船字欠木5359他		
046	東の遠見・西の遠見	十島字木久保1499他		
047	十島口留番所跡	十島字の場341他		
048	佐野氏堀	下佐野字東山940他	天子洞内	
049	後原	塙字後原681他	縄文	
050	鳥金山	十島字圓瀬之内2007他		
051	原戸	大和字吉井1165他	縄文	
052	寺前	中野字寺前4137他	縄文・中世	H20年・調査:消滅

南部町の遺跡地名一覧表(山梨県遺跡台帳より)

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
01	神之木	椿根字神之木	縄文	
02	原戸北	椿根字幡谷戸	縄文	
03	原戸南	椿根字原原	縄文	
04	真籠城跡	福士字真籠	中世	城郭
05	真籠	福士字真籠	縄文	
06	前田	福士字真籠	縄文	
07	仲間	福士字真籠	縄文・中世	
08	平田堤防跡	福七字平	近世・近代	堤防
09	峯	福士字峯	縄文	
10	龟崩	福士字矢島	縄文・弥生・古墳	
11	木代	福士字峯	旧石器・縄文	
12	天来山	福士字峯	旧石器・縄文・弥生・平安	
13	八幡平	福士字峯	旧石器・縄文	
14	峯絆塚	福士字峯	中世?	塚
15	金毘羅山岩跡	福士字宮部	中世	城郭
16	市小路	福士字市小路山	縄文	
17	町田	福士字町田	中世・近世	
18	鶴野	福士字鶴野	中世・近世	
19	火打石	福士字火打石	中世・近世	
20	竹の沢	福士字竹之沢	中世・近世	
21	切り久保耕扶	福士字切り久保原・矢島	中世	城郭?
22	向島	福士字切り久保原	縄文	
23	切り久保	福士字切り久保	旧石器・縄文	
24	増野	万沢字増野	縄文	
25	上平	万沢字上平	縄文	
26	西行	万沢字西行山	縄文	
27	天木	万沢字天木	縄文	
28	赤坂	万沢字赤坂	縄文	
29	横沢	万沢字横沢	縄文	
30	猪原	万沢字猪之原	縄文	
31	天神堂	万沢字天神堂	旧石器・縄文・古墳・平安	
32	轟の久保	万沢字轟の久保	縄文	
33	北原	万沢字北原ほか	縄文	
34	御厨敷	万沢字御厨敷	縄文・中世	
35	金毘羅神社	万沢字松山	旧石器・縄文	
36	中尾	万沢字中尾	縄文・平安	
37	古御所	万沢字古御所	縄文・中世	
38	平山	万沢字下平山	縄文	
39	朝久保	万沢字朝久保	縄文	
40	権現堂	万沢字権現堂	旧石器・縄文	
41	白鳥山廬跡	万沢字白鳥山	中世	城郭
42	下柳沢	万沢字境川	弥生・中世	
43	境川	万沢字境川	縄文	
44	鳥居屋脇定地	万沢字境川	中世?	城郭?
45	鳥居屋脇定地	万沢字境川	中世?	城郭?
46	日向	万沢字日向	縄文	
47	杉山	万沢字杉山	縄文	
48	中沢	万沢字中沢	縄文	
49	大城	万沢字大城沢	縄文	
50	登尾	万沢字登尾	縄文	
51	森井山絆塚群	福士	平安・謙倉・近世	絆塚

第3章 調査

第1節 調査方法

1 調査区の規模と調査手順

発掘調査は、東西40m、南北155mほどを測る約6,000m²が調査対象区域である。調査区は、北からA区、B区、C区とし、A区とB区は既存の道路によって分断される。B区とC区の間は、自然地形による谷によって分かれるため、それぞれ調査区を分けて発掘調査を実施した。また、調査手順によりA区とB区が終了した時点で空中撮影を実施し、その後、A区は道路付け替え工事が行われ、B区はC区の廃土置き場の一部として調査を進めた。

2 調査グリッドの設定

発掘調査の実施に際し、世界測地系座標に基づく5mグリッドを設定した。基準杭については、北東隅の杭から東へA、B、Cの順に付し、直行する南北ラインの北から1、2、3の順に番号を付した。なお、グリッドの呼称については、4点の基準杭で囲われたグリッド南西の基準杭の名称を充てた。

3 表土層の除去

調査区域及びその周辺は、主にお茶畠として利用されていた土地であり、A区では畑の耕作土は約40cmであった。調査中ではあるが、旧地権者の方から話を伺ったところ、「このあたりの畑は、お茶を植えるときに約1m掘り返した」とのことであった。試掘確認調査時には不明であったが、このA区では、人力により約40cm掘削したところ多量の土器片が出土したため、試掘確認調査では重機による掘削を行わず、全て人力で行ない本調査の段階で約40cmを重機による表土掘削を実施した。

B区ではA区よりも浅く、地山層が確認された。C区では、樹木や桑などが植えられており、そのための擾乱が著しい。また、この地区においても表土層は浅く、南へ行くにつれて躑躅が多く地山から飛び出している状態であった。

4 表土層除去後の調査

遺物包含層からの掘り下げは人力で行ない、遺構や遺物の検出に努めた。黒褐色土中から土器片や石器などが多量に出土したA区では、遺物の位置図を作成しながら掘り下げを行ない、黒褐色土中において遺構の重複のための対応策として実施した。また、各遺構については土層断面図、平面図、エレベーション図を作成し、遺跡全体図の作成では航空写真測量を実施した。

調査区域は、全体に西から東（富士川の方角）への傾斜をともない、調査区の北側では谷が形成される。また、調査区の東端では、崖線が南北に伸びている。

第2節 整理作業

1 出土遺物の洗浄および注記作業

発掘調査の中において、雨天日にできる限り遺物の洗浄作業を実施し、その後、注記作業を行った。これらの作業は埋蔵文化財の啓発事業（現地説明会）を実施し、参加される方々に遺物を手に取ってもらえるよう作業を進めると共に、作業員の方々にも実際の遺物を見てもらい発掘調査の一助とした。また、調査終了後の整理作業の短縮もかねた。洗浄できなかった遺物については、基礎的整理作業で実施した。

2 遺物の選別

調査終了後の基礎的整理作業において、遺物の種類別を行い、点数の把握に努めた。この作業により、石器の実測委託についても選別を実施し、特に実測に時間を要すると思われる打製石斧と石鎌を抜き出し、委託する遺物の

選別を行った。

3 作成図面等の整理

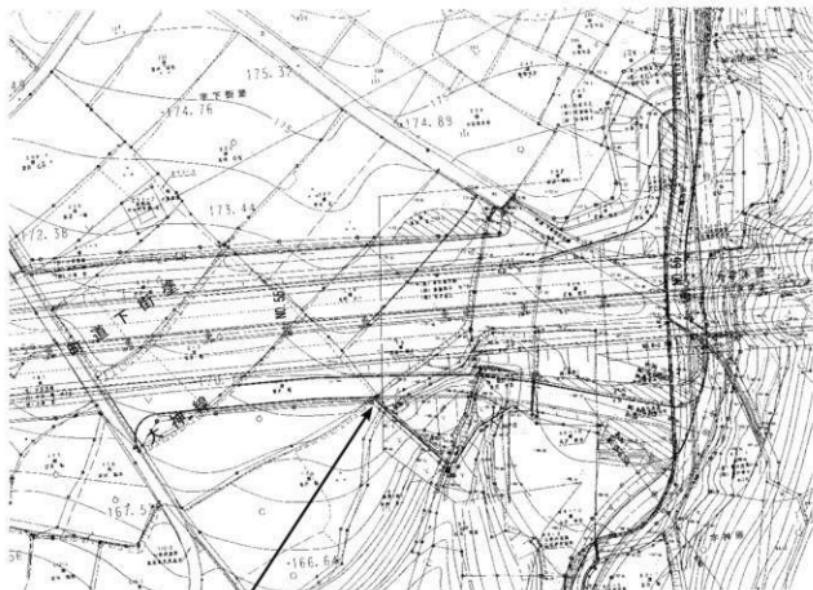
グリッド単位で調査を進めていた関係で、遺物の出土番号は各グリッド番号（例 A-3GはA-3グリッド）を付け、その後ろに遺物出土番号（Pナンバー）を付した。住居跡については、1から付して調査を実施したが1号住居跡は搅乱であったため欠番とした。土坑については1から順に付したが、調査途中からグリッド（例 H-15G土-1はH-15グリッド土坑-1）で対応も行った。

4 実測及びトレース作業

遺構のトレース作業を先行させ、その後、遺物の実測及び拓本作業を進めた。委託外の石器実測では、一器種別作業の実測が終了した段階でトレース作業を行い、図版の作成を行った。

5 遺物観察表

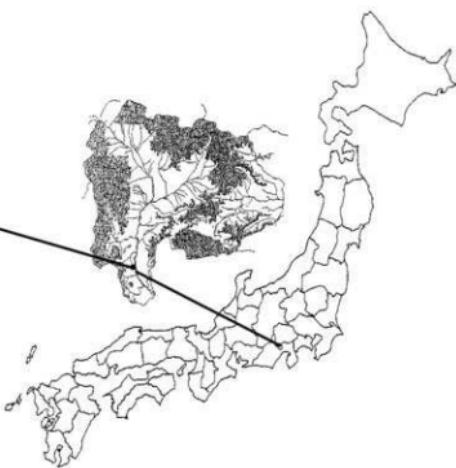
遺物図版作成終了後に、図版に沿って表を作成した。



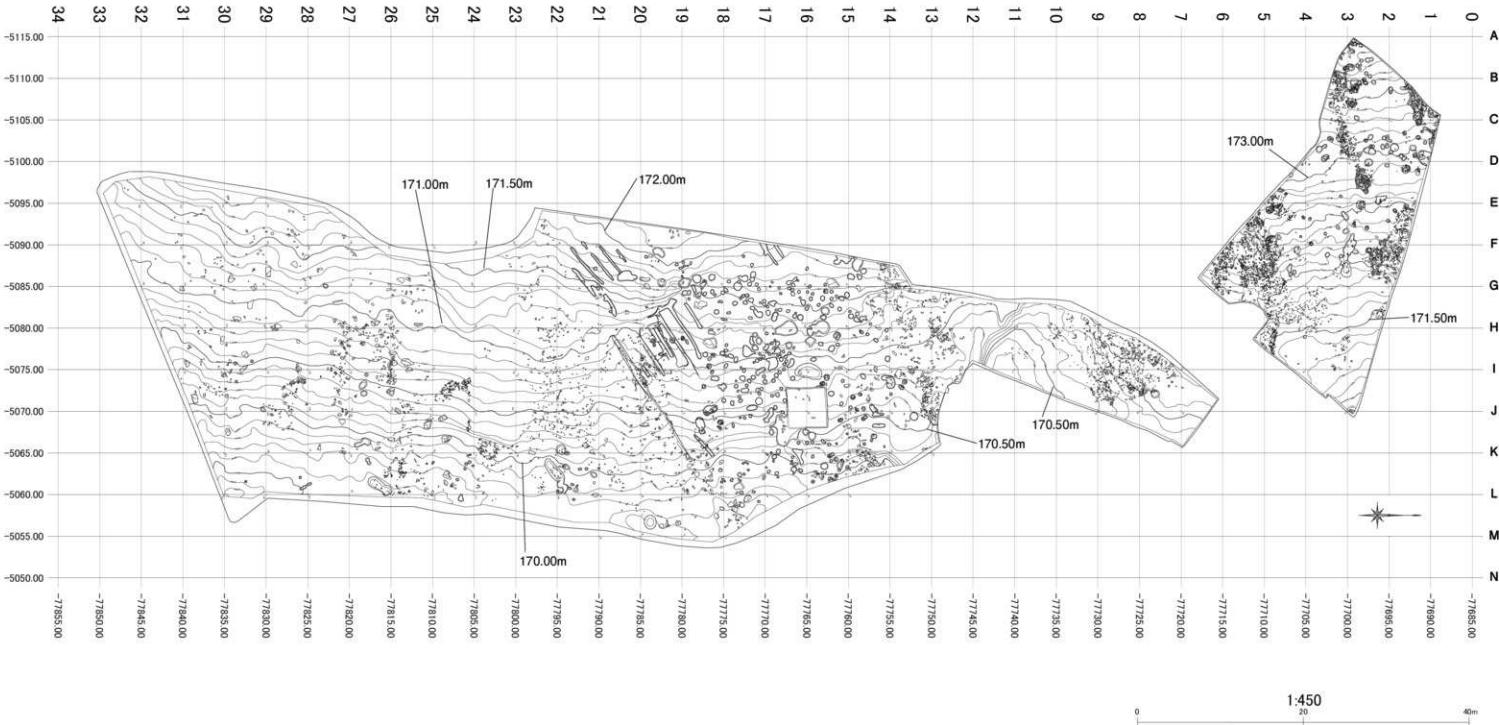
(1/1,200)



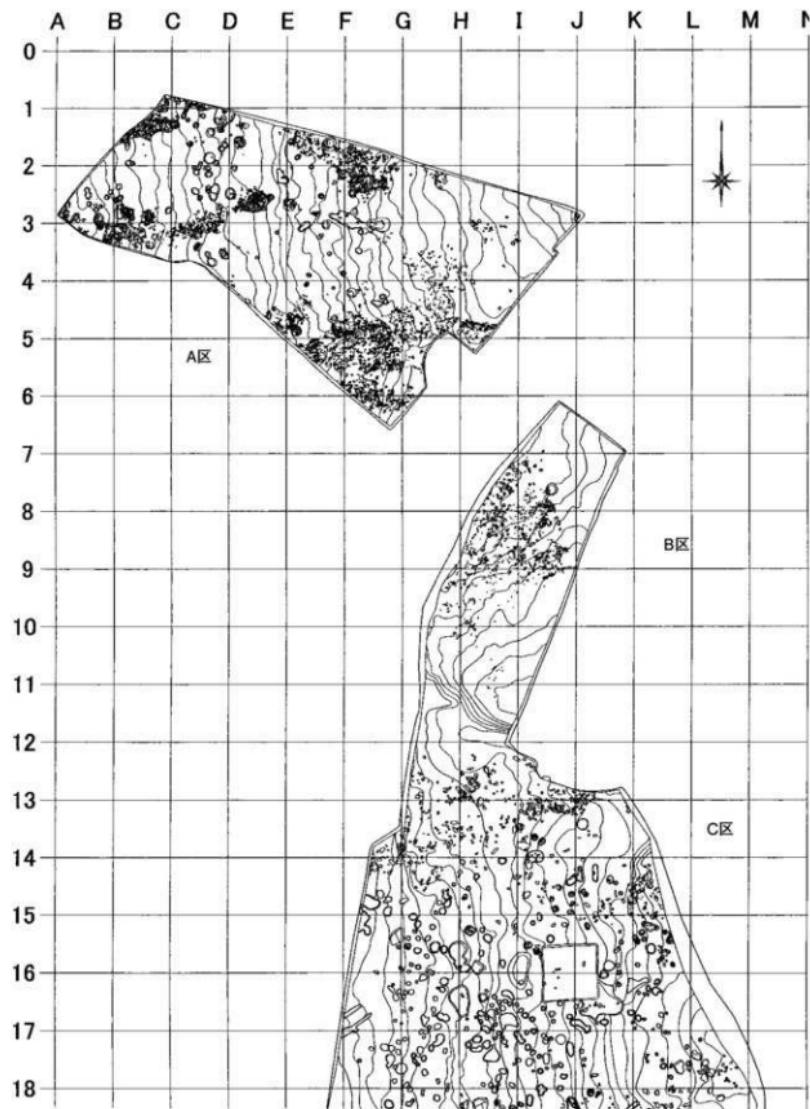
(1/25,000)



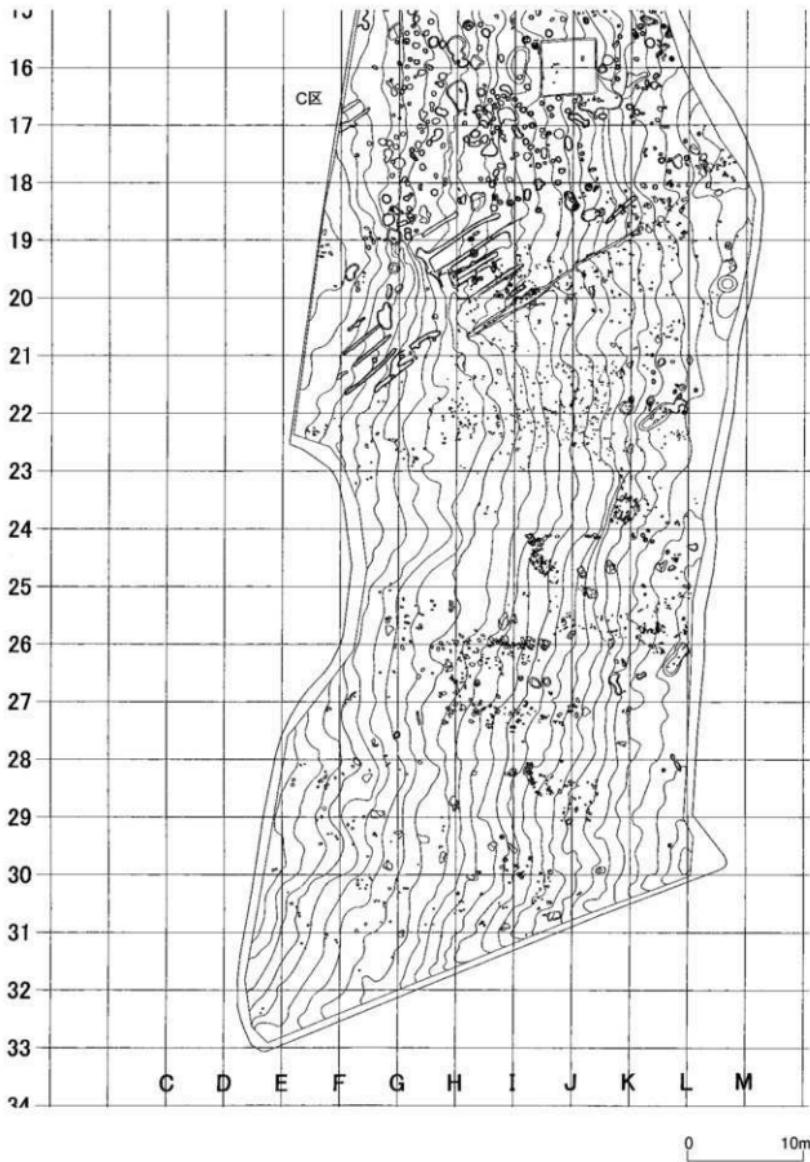
第2図 原間遺跡位置図 (地形図1/25,000)・工事図面



第3図 遺構全体図（グリッド枠は5m四方。等高線の間隔は50cm）



第4図 原間遺跡区域図及び全体図 (1/400)



第5図 原間遺跡区域図及び全体図 (1/400)

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 住居跡

2号住居跡（第6・7図、図版6・7）

位 置 I-15・16グリッドからJ-15・16グリッドにかけて位置する。

主 軸 ほぼ東西方向にある。

経 緯 遺構プラン確認時に、すでにカマドを構成する礫の一部や焼土が露呈していた。そして、カマド西側には、部分的にはあるが黄褐色土をブロック状に含む黒色土の遺構プランが確認されたため、当初は西カマドの堅穴住居跡（1号住居跡、後に風倒木痕）であると考えられた。調査を進めていく中で、カマド東側部分を掘り下げたところ、方形を呈する黄褐色土の落ち込みが西側に広がっていることが確認された。

このことにより、先に確認されたカマドは本堅穴住居跡（2号住居跡）に伴う、東にカマドを有する住居であることが明らかとなった。よって、1号住居跡は、調査の進行上欠番とした。

カマド南側で確認された遺構プランは、遺構の切り合いや基盤層下に黒色土が入り込んでいるといった土層の堆積状況の特徴から、本堅穴住居跡に後行する風倒木痕であると考えられる。

形 態 東西4.9m、南北4.85mの方形を呈する。

覆 土 深さ約20cmでカマド付近以外はおおよそ2層に分けられる。東西方向に傾斜する地形の影響を受け、西方向から東方向へと床面が傾いている。耕作に伴う擾乱も確認され、そのほとんどが床面にまで達しており、土層に乱れも認められる。

カマド 東カマドで、東壁の南寄りに設置される。両袖は、礫を芯として北側では1個、南側では東西方向に2個の礫を立てている。両袖の間には24cm程度の支脚石が直立する。カマドの南半部は風倒木によって破壊されているため、煙道は確認されなかった。

周 溝 周溝は全周せず、南壁東側の一部と北壁側の一部、及び北西隅部で途切れている。また、西壁側中央部に存在する周溝の底面には、径20cm~15cm程度の小ピットが狭く等間隔に存在し、特に西壁側に多く確認された。南壁側でも小ピットが存在しているが、西側に比較して間隔は広い。

溝の幅は20cm~78cm、深さは床面から1.3cm~6.7cmを計測する。

柱 穴 北西側、北東側にそれぞれ認められるが、深さは8cm~17cmと浅く、この2本以外には確認されなかった。

また、北西側の隅部及び北東側の溝中の隅部には小ピットが認められ、柱穴とも考えられる。

このように見ていくと、南西方向の隅では周溝の幅が広く、この箇所では深さ6.7cmを計測し、この場所に柱穴が存在していた可能性も考えられる。

その後、床面を剥いて掘り方を確認したが、柱穴はこれ以外には確認されなかった。

P1の深さは床面から14cm、北隣では8cm、P2は26cm、P3は10.8cm、P4は13.6cmである。

床 面 全体的に硬くしまっており、特に床面中央より南側に一部ではあるが非常に硬い面が存在していた（第6図中の点線部分）。

掘り方 全体的に10cm~20cm程度掘り込まれている。床下遺構および遺物は、確認されなかった。

遺物出土状況 カマド内及びその周辺を中心に土師器焼片が少數出土している。また、西壁の南よりの地点から床面より若干浮いた状態で鉄製錠が出土している。

時 期 出土した土師器から9世紀後半と考えられる。遺物の出土は少なく、図化できるものは3点だけである。

1は壺の口縁部である。口径は、推定で14.6cm、現存する高さは6.5cmを計測する。土器の焼成は良好である。器面には、内外面ともに刷毛による調整が施される。遺物は、カマドの前面から出土する。2は、口縁部を欠損する壺か瓶であろうか。外面には、刷毛による調整が施され、内面は目の粗い刷毛で調整される。住居跡の確認中で出土したもので、焼成は良好である。3は壺の底部で、外面の底には木葉痕が認められ、葉脈まできれいに残っている。この遺物は、5地点から出土し接合される。

住居跡の西側壁のほぼ中央付近で鉄製の鎌4が出土した。形状は、湾曲した三日月状を呈し、現存する長さは12.8cm、厚さは0.2cm、幅は3.2cmをそれぞれ計測する。鎌の付け根は欠損し、錯が全体に広がっている。実測は、保存処理後に実施した。

第2節 土坑（第8～15図、図版1～6）

調査された土坑については、図化した遺構は大小を含めると100基を超えるが、計測表では番号を付した100基を掲載した。土坑は、調査区のA区とC区に集中する。特にC区では調査区の中央から北側に広がりが認められ、この地点は周囲よりやや高い場所にある。B区とC区の間には、規模は小さいながらも西から東へ谷が延びている。

調査の進行上、調査区を3区画設定しているが、全体を見通すとA区とB区は同一の広がりとして捉えることができる。試掘確認調査においてB区の東側には遺跡の存在が認められていないこと、B区には1基の土坑が存在していることから、この地点が東側の遺跡の範囲であり末端部と考えられる。C区については、調査区の東側では傾斜がきつくなり、調査区の東側の末端部と考えられる。また、C区の南ではほとんど遺構の存在が認められないことから、中央から北側及び西側にかけて遺跡の広がりを想定することができる。

よって、集落の中心は、本遺跡から西側に大きく広がりを持つ遺跡と考えられる。

各土坑については、土坑一覧表に記したが、主な遺構を取り上げ図化した。

特殊な土坑としては、A-2土（A区2号土坑）の集石土坑である。土坑の中に礫が入れられ、その中に4分割に破壊された石棒が混入していた（第8図）。

4分割された石棒は、すべて接合される（第24図1）。頭部は丸くつくられ、2分割される。胴部は丸みを持っているが、断面は三角形に近い。また胴部は、基部の整形されている箇所で分割される。

C-1土、C-2土（第13図）は、袋状を呈する土坑である。本遺跡においては、数少ない土坑の形態である。

また、C-14土（第15図）は、礫を伴う集石土坑である。

A区からC区では、遺構確認面から十数cm掘り下げるとき層が存在する。土坑などを掘削した場合は、礫層を掘り抜いてつくられるものが多いため、土坑の壁には礫が飛び出しているものもある。土坑の覆土中には、これらの礫が土坑に混入したり、或いは土坑の中に土を埋め戻した際に礫が入り込んだりしたものも存在している可能性がある。

特にA区では、遺構確認面で礫が帯状に流れている箇所もあり、土石流があったものと思われる。状況としては、土石流などが起こり、その後、土壤が堆積し、遺跡が構成されていったものと考えられる。

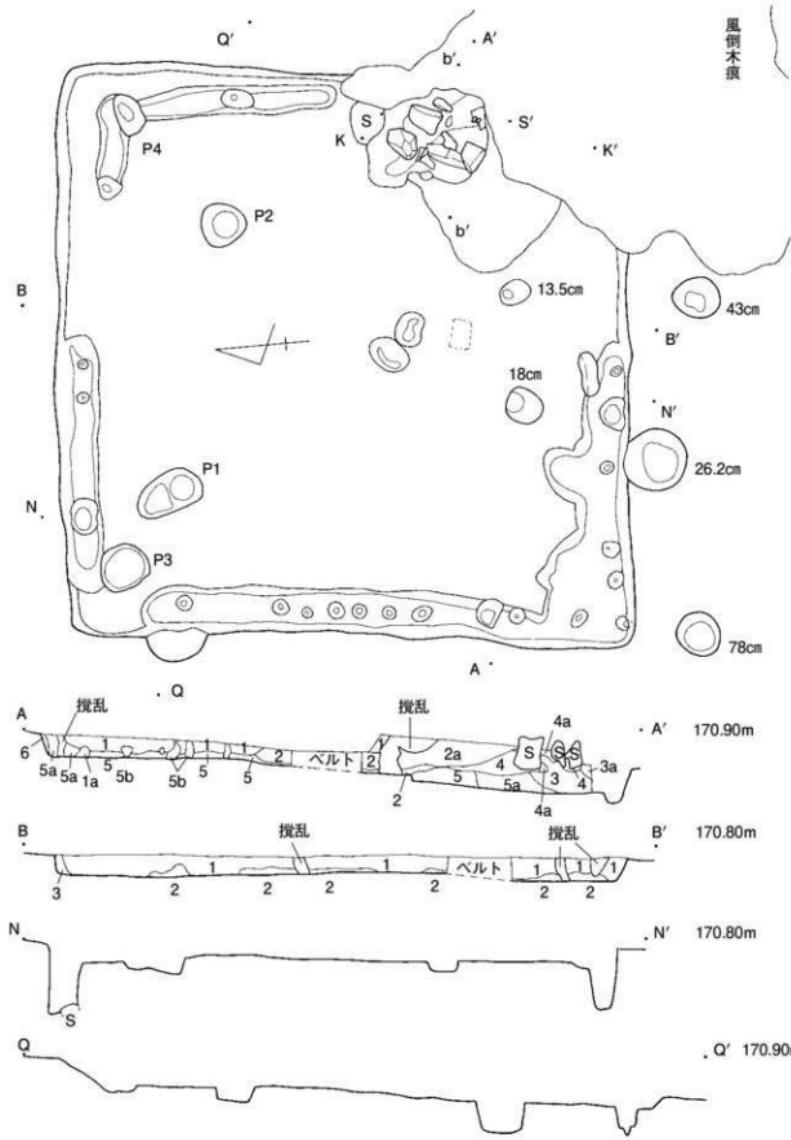
第3節 焼土遺構（第13図、図版4）

焼土遺構は、A-2・3G（グリッド）に位置し、A区の西隅に確認された1基のみである。形状は不整円形を呈し、長径は1.5m、短径0.67m、深さ18cmを計測する。主軸は、ほぼ南北方向にある。出土した土器は、土坑の中心より南に埋設され、口縁部から胴部を欠損する底部だけが残存する。土層の堆積状況を見ると、焼土遺構を壊して北側に新しい土坑が掘られたと考えられる。

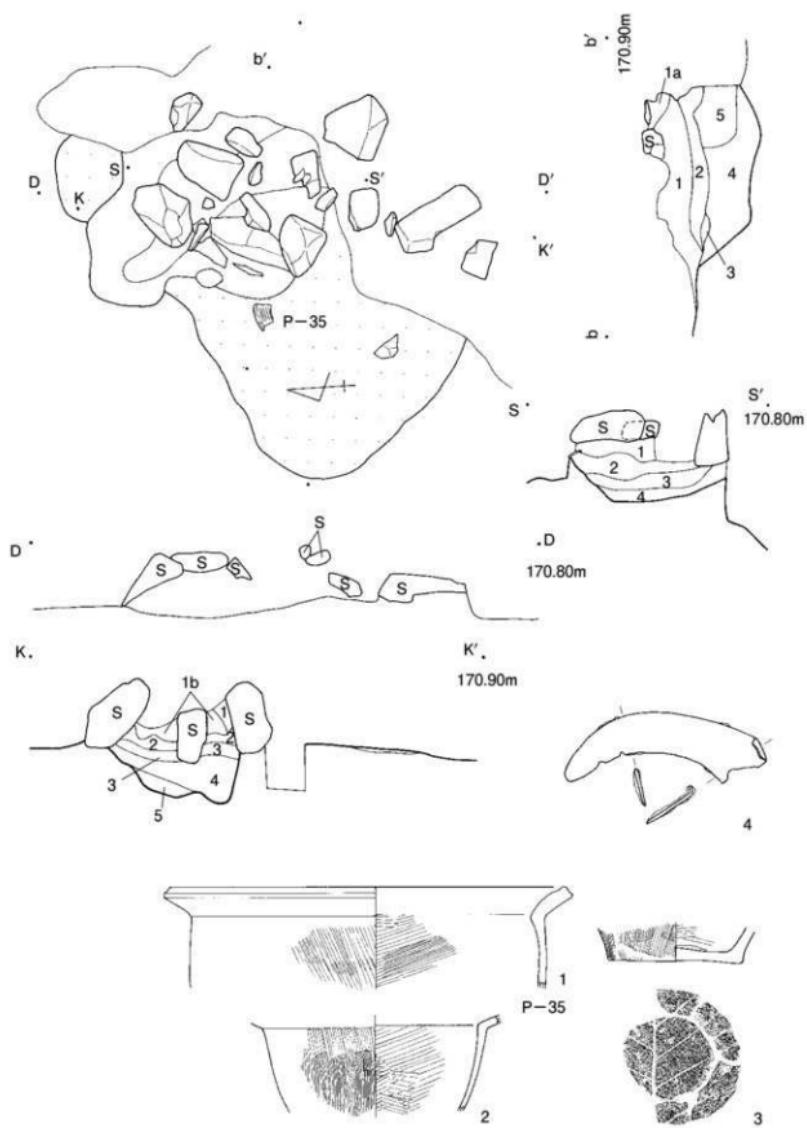
出土遺物は、縄文時代後期の堀之内式土器である。底部には網代痕が認められる。底部から胴部に向かって外反する。焼成を受けているため胎土は良好とはいえない。外面は赤みを帯びており、ざらつきを感じる（第34図114、図版13（底部・右から2番目））。

第4節 掘立柱建物跡（第12図）

掘立柱建物跡は、C-2G（グリッド）に位置し、A区の中央より北西側で確認され、他の調査区では見つかっていない。穴の中心からの規模は、長軸3.40m～3.66m、短軸1.7m～1.84mを計測する。東側の長軸と南側の短軸は、他の軸より長い。主軸は、ほぼ北東から南西方向にある。南西の柱穴（A-24土）からは、弥生時代末から古墳時代初頭の高坏の脚部が1点出土しており、唯一時期が判明する遺物（第34図126、図版13左下）が見つかっている。



第6図 住居跡 (1/40)



第7図 住居跡カマド (1/40)・出土遺物 (1/3)

第2表 土坑計測表

AIK	名称	グリッド名	形状	長(m)	短(m)	深さ(m)	形態	坑底	長軸方向	備考	種図番号
1	号土坑		調査の結果、複数のため抹消								
2	号土坑	C. D-2	楕円	1.05	0.83	11.2	集石土坑	皿状	ほぼ南北方向	壙された石棒出土。(4点接合)	第8回
3	号土坑	D-1	楕円	1.06	0.93	37	柱穴か	平坦	ほぼ南北方向	縄を掘り抜いてつくられる	第8回
4	号土坑	C-1	楕円	0.84	0.72	50	柱穴か	平坦	北東~南北方向	縄を掘り抜いてつくられる	第8回
5	号土坑	C-1	楕円	0.51	0.48	29	柱穴か	凹凸	ほぼ南北方向	縄を掘り抜いてつくられる	第8回
6	号土坑	C-1	円	0.34	0.32	30	柱穴か	凹む	ほぼ南北方向	縄を掘り抜いてつくられる	第8回
7	号土坑	C-1	楕円	0.49	0.41	28	柱穴か	平坦	北東~南北方向	縄を掘り抜いてつくられる	第8回
8	号土坑	C-1	円	0.59	0.51	37	柱穴か	平坦	北東~南北方向	縄を掘り抜いてつくられる	第8回
9	号土坑	B-1	楕円	0.83	0.48	10~30	柱穴か	平坦	南北方向	坑底に落ち込みあり	第8回
10	号土坑	A-2	円	0.82~0.85	0.44~0.46	13~24	柱穴か	平坦	南北方向	重複するが新旧関係は不明	第8回
11	号土坑	C-3	楕円	1.0	0.72	53	柱穴か	凹む	北西~南北方向	土坑の中央が深い	第9回
12	号土坑	E. F-12.13	楕円	不明	1.5	46	13上と重複	凹む	不明	重複する	第9回
13	号土坑	E. F-12.13	楕円	不明	1.4	43	12上と重複	すり鉢状	ほぼ東西方向	新旧関係は不明	第9回
14	号土坑	B-2	楕円	0.6	0.48	20	柱穴か	傾斜する	北東~南北方向	新旧関係は不明	第9回
15	号土坑	A-2	円	0.46	0.43	13	柱穴か	平坦	ほぼ東西方向	新旧関係は不明	第9回
16	号土坑	A-2	円	0.42	0.4	22	柱穴か	凹む	北東~南北方向	新旧関係は不明	第9回
17	号土坑	A-2	楕円	0.33	0.28	8	柱穴か	平坦	南北方向	新旧関係は不明	第10回
18	号土坑	A-2	楕円	0.5	0.4	16	柱穴か	平坦	南北方向	新旧関係は不明	第10回
19	号土坑	B-2	円	0.53	不明	23	20上と重複	平坦	ほぼ南北方向	新旧関係は不明	第10回
20	号土坑	B-2	円	不明	0.42	29	19上と重複	平坦	ほぼ南北方向	新旧関係は不明	第10回
21	号土坑	A-2	円	0.36	0.35	21.7	柱穴か				
22	号土坑	A-2	円	0.46	0.44	16	柱穴か				
23	号土坑	A-2	楕円	0.72	0.55	32	柱穴か				
24	号土坑	C-2	楕円	0.56	0.52	36	楕円柱	凹む	南北方向		第12回
25	号土坑	C-2	楕円	1.5	0.82	21					
26	号土坑	C-2	楕円	0.7	不明	21	柱穴か			坑底に小穴あり	
27	号土坑	C-2	楕円	0.57	0.47	22.2	柱穴か				
28	号土坑	C-2	楕円	0.66	0.45	20.2	柱穴か				
29	号土坑	C-2	楕円	0.55	0.47	35	柱穴か				
30	号土坑	F-2	円	1.47	1.3	50		平坦	ほぼ北西~南東		第10回
31	号土坑	H. I-2	楕円	1.0	不明	27 (II) 31上	平坦	新) 31上	ほぼ東西方向	新) 31上	第10回
32	号土坑	H. I-2	楕円	1.35	1.14	30 (新) 32上	新) 32上	新) 32上	新) 32上	新) 32上	第10回
33	号土坑	H-2	不明	不明	不明	35		平坦	不明	新) 32上	第11回
34	号土坑	H-2	椭円	1.52	1.17	35		平坦	ほぼ南北方向	新) 32上	第11回
35	号土坑	F-2	楕円	(1.4)	1.15	35	37上と重複	平坦	ほぼ東西方向	新) 32上	第11回
36	号土坑	G-2	円	不明	1.55	23~54		平坦	ほぼ北東~南西	新) 32上	第11回
37	号土坑	G-2	円	1.17	1.04	30		平坦	ほぼ北東~南西	新) 32上	第11回
38	号土坑	F-2, 3	方形	0.58	0.54	53	柱穴か	平坦	ほぼ北東~南西	新) 32上	第11回
39	号土坑	F-2	円	0.72	0.69	9	集石土坑	平坦	南北方向	浅い土壌である	第12回
40	号土坑	F-2	楕円	0.64	0.44	51	柱穴か	平坦	南北方向	新) 32上	第12回
41	号土坑	F-4	不整円	0.9	0.74	40		平坦	南北方向	新) 32上	第12回
42	号土坑	E-1, 2	円	0.46	0.38	27	柱穴か				
	燒土道構	A-2, 3	不整円	1.5	0.67	18		凹凸	ほぼ南北方向	土壌の底部あり	第13回
	掘立柱										第12回
BIS	名稱	グリッド名	形 状	長(m)	短(m)	深さ(m)	形態	坑底	長軸方向	備考	種図番号
1	号土坑	I-7	円	1.12	1.02	25		平坦	ほぼ北西~南東		第13回
CIS	名稱	グリッド名	形 状	長(m)	短(m)	深さ(m)	形態	坑底	長軸方向	備考	種図番号
1	号土坑	F-20	不整円	1.82	1.3	74	一部空状	平坦	ほぼ南北方向		第13回
2	号土坑	F-19	不整円	0.94	0.94	65	集石土坑	平坦	ほぼ南北方向	縄を掘り抜いてつくられる	第13回
3	号土坑	G. H-16	不整円	不整円	不整円	34	柱穴か	凹凸	ほぼ南北方向	小さな穴だけが造構か	第14回
4	号土坑	G-16	不整円	0.8	0.7	26		凹む	ほぼ南北方向	すり鉢状	第14回
5	号土坑	I-14	楕円	0.67	0.53	52	柱穴か	傾斜する	ほぼ東西方向	複数の上層から柱穴と考えられる	第14回
6	号土坑	I-13, 14	方形か	1.38	1.0	23		柱穴か	ほぼ東西方向	複数が激しく新旧関係は不明	第14回
7	号土坑	I-13	楕円	0.67	0.6	30	柱穴か	凹凸	ほぼ南北方向		第14回
8	号土坑	J-13	円	1.0	0.9	35		平坦	ほぼ北西~南東		第14回
9	号土坑	H-14	楕円	0.73	0.55	33	柱穴か	平坦	ほぼ北西~南東	坑底に段差が認められる	第14回
10	号土坑	J-18	楕円	1.29	1.03	48		平坦	ほぼ東西方向	長輪はほぼ東西方向	第14回
11	号土坑	K-15	円	0.83	0.83	37		平坦	南北方向	坑底は平坦	第15回
12	号土坑	H. J-15, 16	楕円	3.2	1.84	64		すり鉢状	南北方向		第15回
13	号土坑	F-18	楕円	1.23	1.02	28		平坦	南北方向		第15回
14	号土坑	F-18, 19	楕円	1.4	1.2	37	集石土坑	平坦	ほぼ北西~南東	土壌中位から底まで壁が詰まっている	第15回
L-19G	L-19~I-1	円	1.71	1.5	55		平坦	ほぼ東西方向		第15回	
F-16G	I-1	楕円	0.32	0.23	19.2						
F-17G	I-1	楕円	0.8	0.73	27.8						
F-17G	I-2	楕円	0.86	0.8	32.5						
F-18G	I-1	楕円	0.48	0.25	10.9						
F-18G	I-2	円	0.35	0.27	14.9						
F-18G	I-3	円	0.22	0.19	14.7						
G-14G	I-1	円	0.36	0.34	16.8						
G-14G	I-2	円	0.68	0.64	16.1						
G-14G	I-3	楕円	0.74	0.56	20.9						
G-14G	I-4	楕円	0.73	0.67	28.5						
G-14G	I-5	円	0.45	0.42	14.3						
G-14G	I-6	円	0.38	0.37	13.5						
G-14G	I-7	円	0.22	0.2	12.4						
G-15G	I-1	楕円	0.63	0.56	27.2						

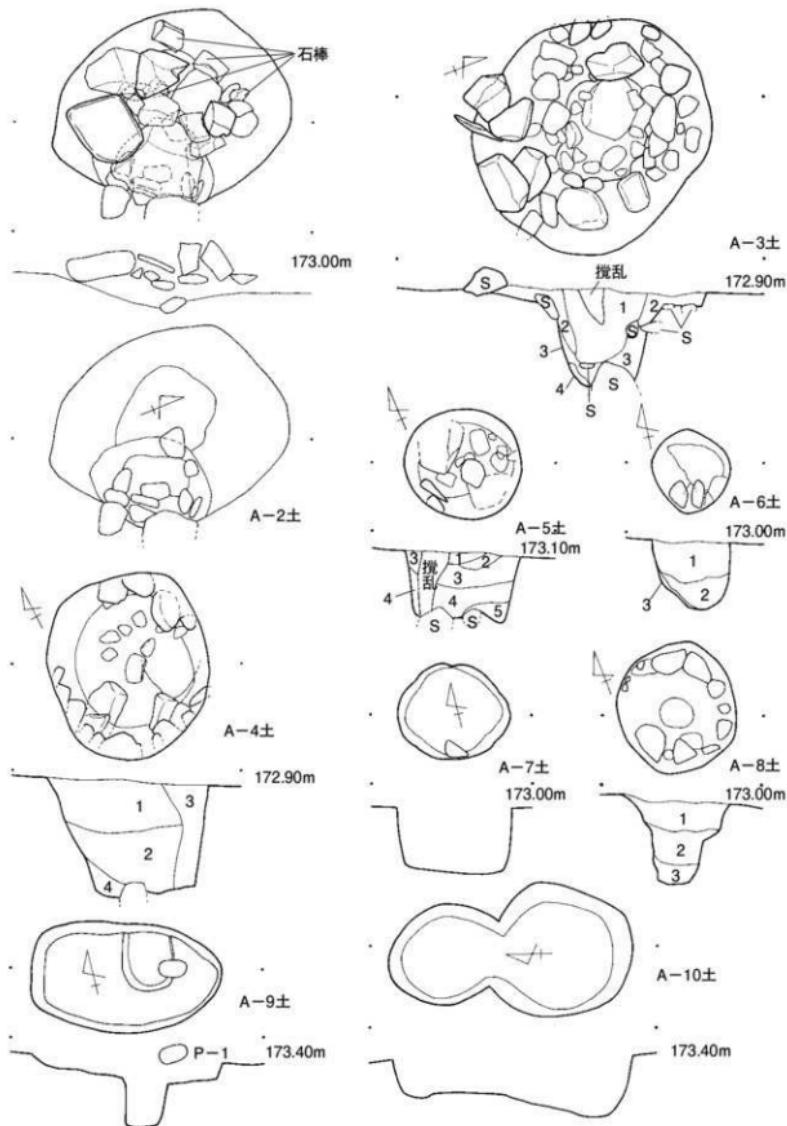
G-15G	±-2	円	1.02	0.93	26.2
G-15G	±-3	椭円	0.62	0.43	20.2
G-15G	±-4	円	0.44	0.44	26.2
G-15G	±-5	椭円	0.4	0.38	14.2
G-15G	±-6	椭円	0.62	0.55	24.1
G-15G	±-7	椭円	0.56	0.41	17.2
G-15G	±-8	不整円	0.73	0.42~0.8	20
G-15G	±-9	円	0.56	0.46	20
G-15G	±-10	椭円	0.36	0.32	43.5
G-15G	±-11	椭円	0.35	0.32	18
G-15G	±-12	椭円	0.44	0.35	16.8
G-15G	±-13	円	0.56	0.5	35.6
G-15G	±-14	椭円	0.75	0.53	12.5
G-15G	±-15	円	0.4	0.37	16.5
G-15G	±-16	椭円	0.3	0.2	15.2
G-16G	±-1	椭円	0.6	0.53	26.6
G-16G	±-2	椭円	0.43	0.31	24.3
G-16G	±-3	円	0.68	0.61	19.6
G-16G	±-4	椭円	0.62	0.53	16.0
G-17G	±-1	椭円	0.6	0.48	18
G-17G	±-2	円	0.3	0.3	29.3
H-14G	±-1	円	0.37	0.37	16.6
H-15G	±-1	椭円	0.84	0.6	26
H-15G	±-2	椭円	0.55	0.38	34.9
H-15G	±-3	不整円	1.0	0.9	30.4
H-15G	±-4	不整形	1.26	不明	34
H-15G	±-5	不整形	1.25	不明	25

第3表 土坑計測表・土層説明およびレベル

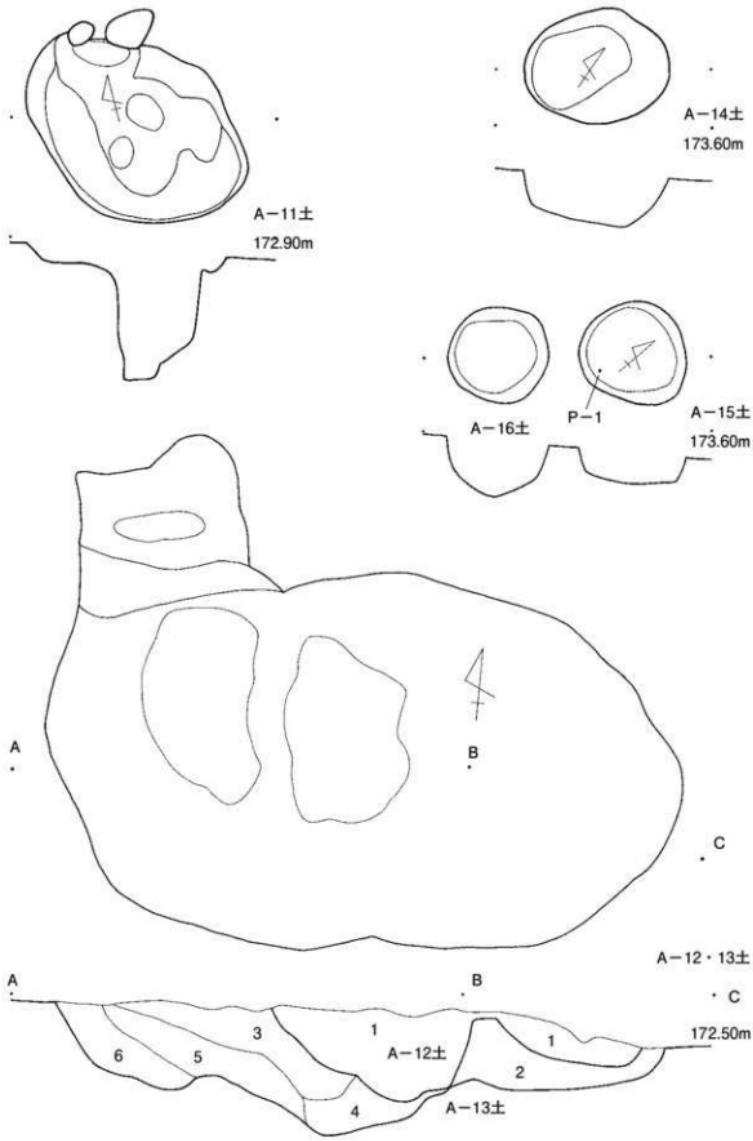
A区	土層説明およびレベル					
2 号土坑	水系レベル=173.00m 4分割された石碑					
3 号土坑	1:10YR3/4 2:10YR4/6 3:10YR5/4 4:10YR5/6 水系レベル=172.90m					
4 号土坑	1:10YR5/4 2:10YR5/4 3:10YR4/4 4:10YR5/4 水系レベル=172.90m					
5 号土坑	1:10YR4/4 2:10YR4/3 3:10YR5/8 4:10YR6/8 5:10YR3/3 水系レベル=173.10m					
6 号土坑	1:10YR3/4 2:10YR4/2 3:10YR5/6 水系レベル=173.00m					
7 号土坑	水系レベル=173.00m					
8 号土坑	1:7.5YR4/2 2:7.5YR4/3 3:7.5YR4/6 水系レベル=173.00m					
9 号土坑	1:10YR4/2 2:10YR5/6 水系レベル=173.40m					
10 号土坑	1:10YR5/4 2:10YR6/8 水系レベル=173.40m					
11 号土坑	1:10YR3/1 2:10YR5/8 3:10YR3/3 4:10YR4/3 5:10YR4/2 6:10YR3/4 水系レベル=172.90m					
12・13 号土坑	1:10YR2/3 2:10YR3/4 3:10YR3/3 4:10YR4/4 5:10YR3/4 6:10YR4/4 水系レベル=172.50m					
14 号土坑	水系レベル=173.60m					
15 号土坑	水系レベル=173.60m					
16 号土坑	水系レベル=173.60m					
17 号土坑	水系レベル=173.80m					
18 号土坑	水系レベル=173.80m					
19 号土坑	水系レベル=173.60m					
20 号土坑	水系レベル=173.60m					
24 号土坑	水系レベル=173.60m					

B区	土層説明およびレベル					
1 号土坑	水系レベル=171.20m					

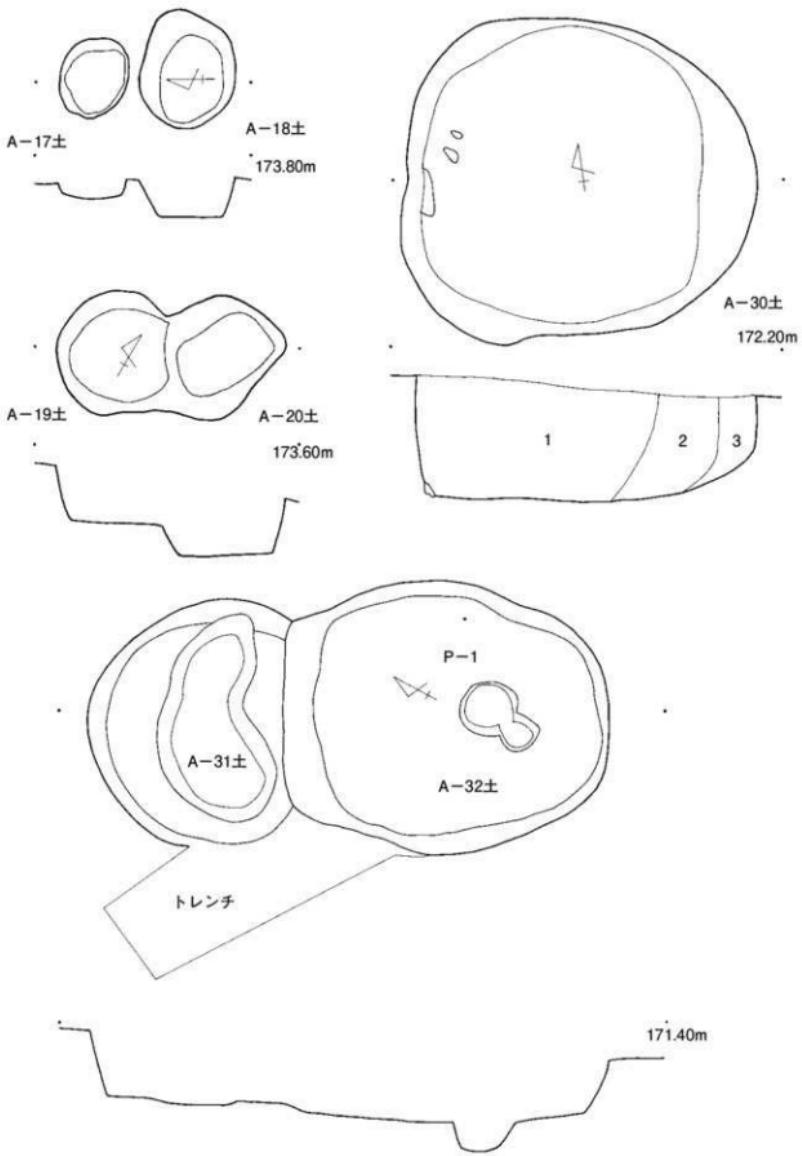
C区	土層説明およびレベル					
1 号土坑	1:10YR3/1, 白色粒子少量混入 2:10YR3/1, 1層より暗い、白色粒子極めて少ない 3:10YR3/1, 暗色土ブロック混入、白色粒子少量混入 4:10YR4/4 (しまりあり) 5:10YR4/1 水系レベル=172.00m 掘立柱					
2 号土坑	1:10YR3/1 白色粒子少 量混入、人、2:10YR3/1 1 層より明るい、白色 粒子が1層より多 量混入 3:10YR3/1 暗 色土、ブロ ック混入、白色粒子少 量混入 4:10YR3/1 白 色粒子極めてない 水系レベル=171.80m					
3 号土坑	1:7.5YR2/1 2:10YR4/3 3:7.5YR2/1 水系レベル=171.40m					
4 号土坑	1:7.5YR2/1 白色粒子多 量混入 2:7.5YR2/1 白 色粒子少量 水系レベル=171.60m					
5 号土坑	1:7.5YR3/1 2:7.5YR4/5 3:7.5YR4/4 水系レベル=170.90m					
7 号土坑	水系レベル=170.90m					
8 号土坑	水系レベル=170.50m					
9 号土坑	水系レベル=171.00m					
10 号土坑	1:10YR2/2 (しまりあり) 2:10YR2/3 (しまりあり) 3:10YR2/3 (しまりあり) 4:10YR3/4 (しまりあり) 5:10YR4/4 (しまりあり) 水系レベル=170.70m					
11 号土坑	1:10YR3/3 (しまりなし) 2:10YR2/3 (しまりあり) 3:10YR3/3 (しまりあり) 4:10YR4/4 (しまりあり) 5:10YR4/4 (しまりあり) 水系レベル=170.30m					
12 号土坑	1:7.5YR3/1 (しま りなし) 2:7.5YR3/2 3:7.5YR2/3 (白色粒子少 量 しまり無い) 水系レベル=171.10m					
13 号土坑	水系レベル=171.90m					
14 号土坑	水系レベル=171.70m					
L-19G	水系レベル=169.80m					



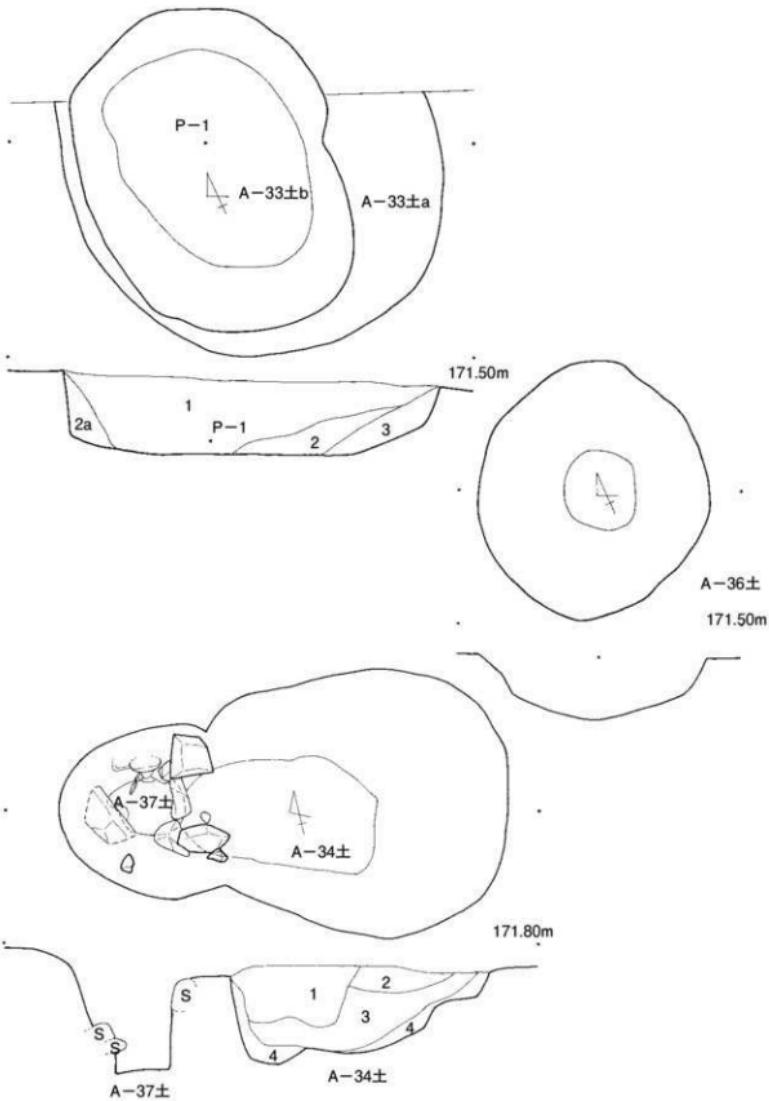
第8図 土坑(1) (1/20)



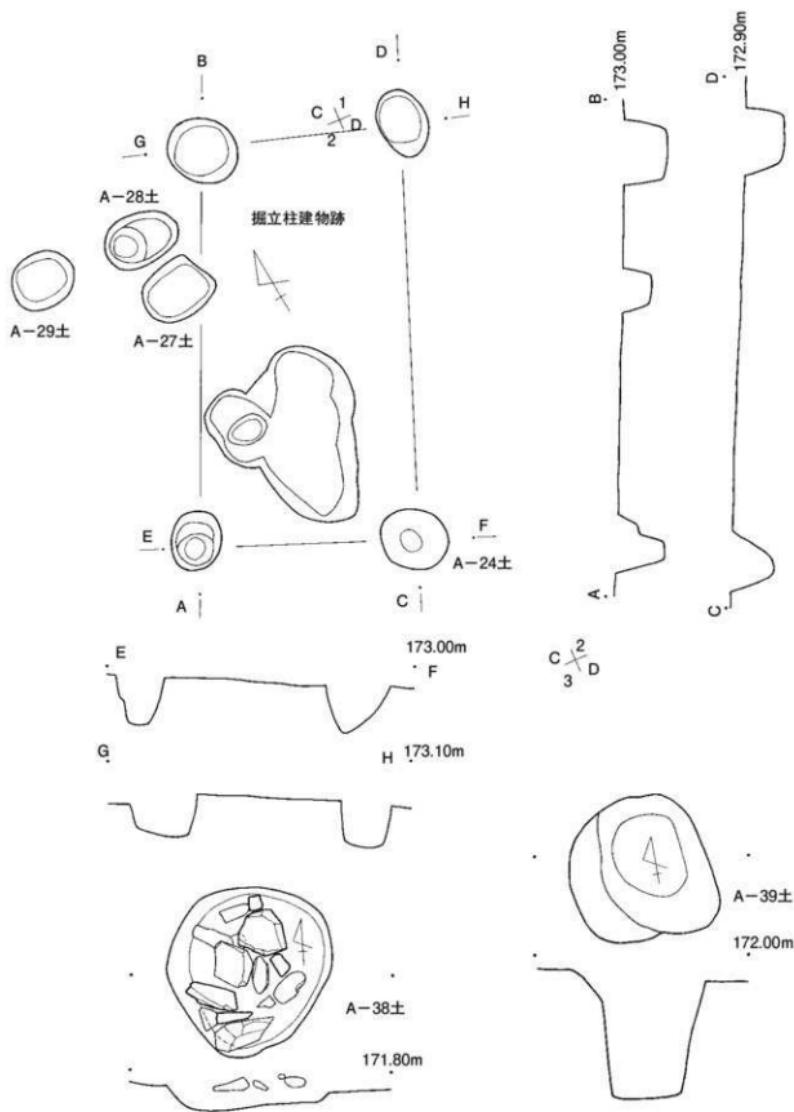
第9図 土坑(2) (1/20)



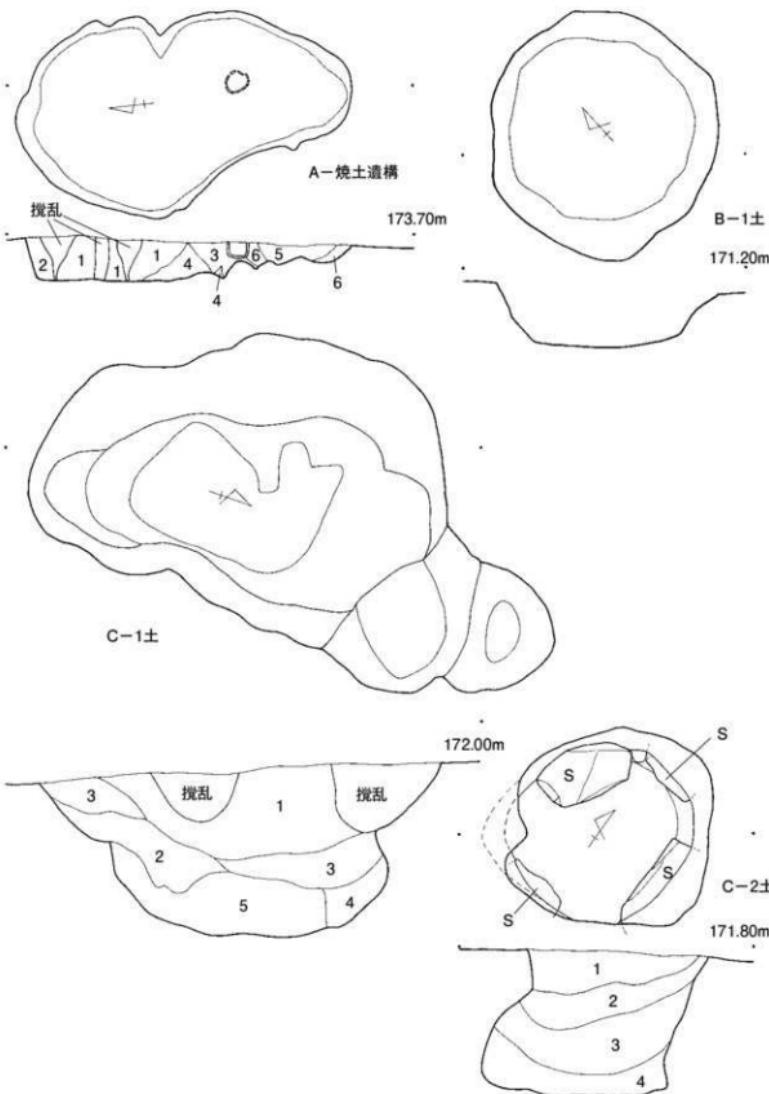
第10図 土坑 (3) (1/20)



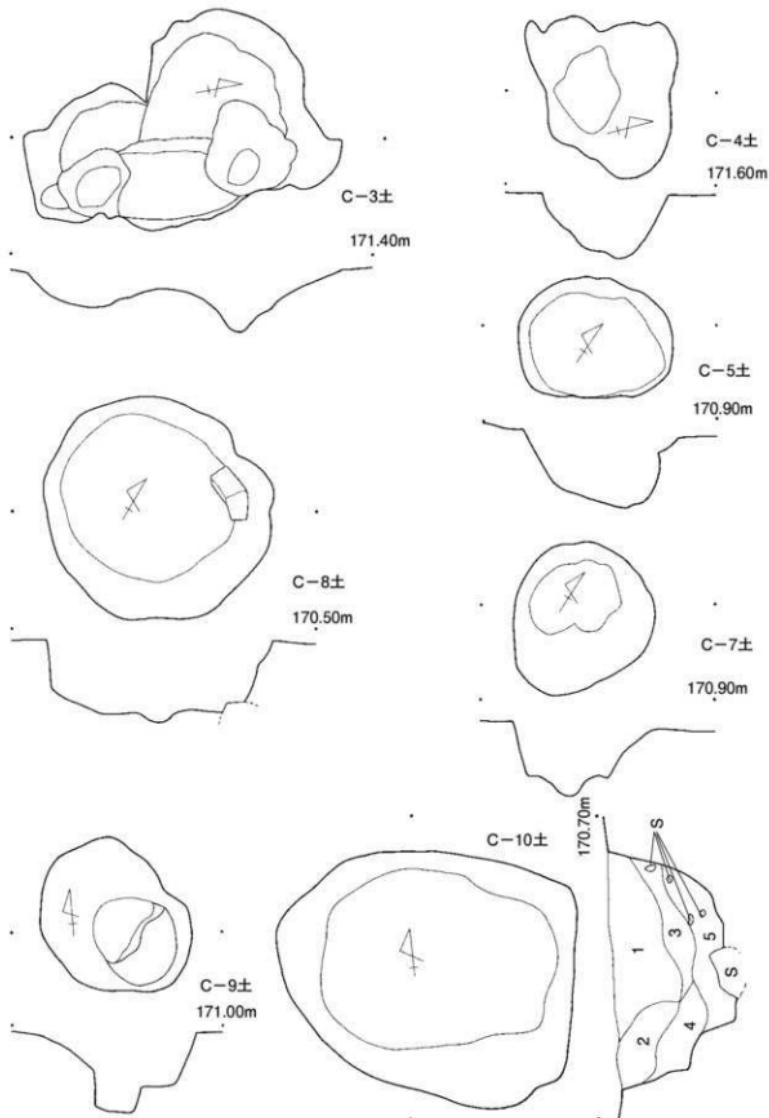
第11図 土坑(4) (1/20)



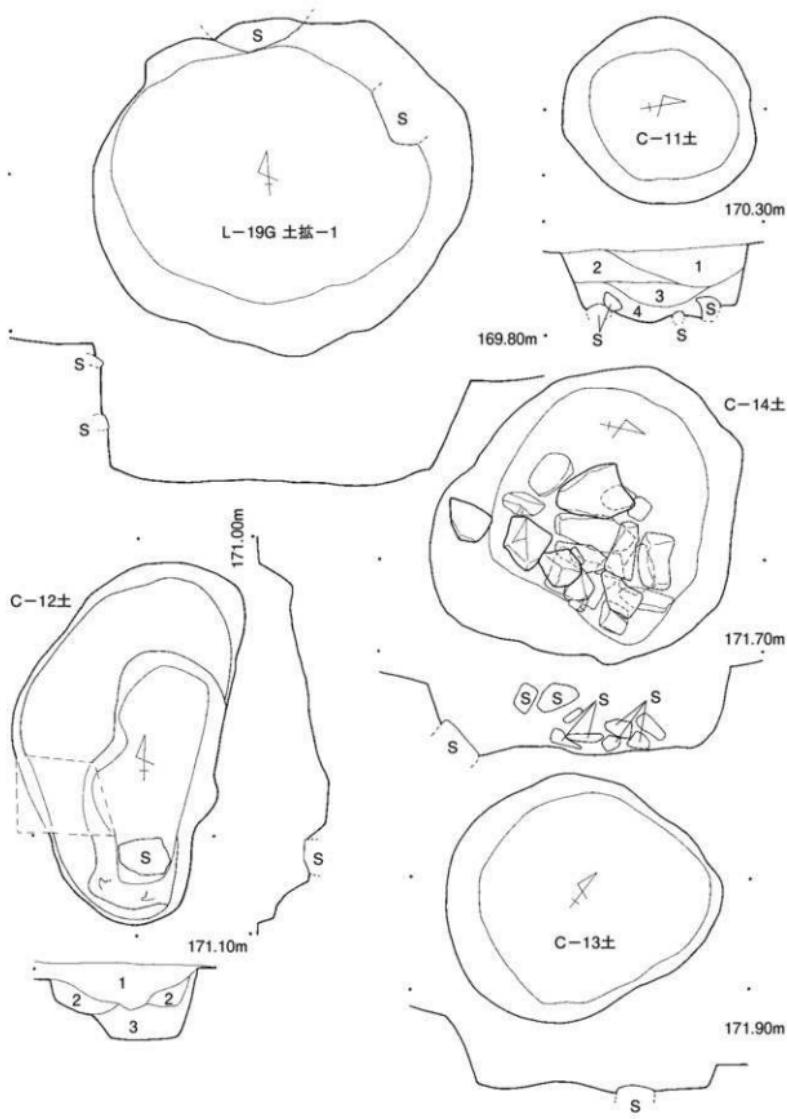
第12図 土坑(5) (1/20)・掘立柱建物跡 (1/40)



第13図 土坑 (6) (1/20) · A-焼土造構



第14図 土坑 (7) (1/20)



第15図 土坑 (8) (1/20)

第5節 原間遺跡出土の石器について

旧石器時代の石器1（第16図、図版8）

原間A区のD-3グリッドより、他の縄文時代遺物と混在する形で旧石器時代石器が1点出土した。黒曜石製の石刃を利用した削器である。石刃素材の黒曜石は、顆粒状の夾雜物が多量に入り、おそらく冷山系の黒曜石と思われる。素材となった石刃は大形で、縦9.7cm、最大幅4.5cm、厚さ1.2cmを計る。背面には主要剥離面の打撃方向と同一の剥離面が6枚みられる。内3枚は本石刃と同等以上の大きさの石刃を剥離した痕跡と思われ、中央に1本の稜線を形成している。右側縁中央部に1枚、左側縁部の削器刃部を形成する二次加工剥離群の下端部に1枚とそれを取り閉むように1枚の合計3枚小規模な剥離がある。素材端部は折損しており、段状に一端が飛び出すフィニアルが発達していることから、人力による折り取りの可能性も考えられる。折り取り面の周辺に微細剥離が見られるが、折り取り時に二次的に発生した事故剥離の可能性もある。素材打面は正面右側に大きく傾いているが、中央稜線に向かって右側の背面剥離の後に打面細部調整剥離が打面右側になされ、さらに稜線左側の背面剥離の後に、打面右側の打面細部調整によって背面の打面部分が取り除かれている。石刃の剥離のたびに、念入りに打面調整がなされている状況が把握できる。

削器の刃部調整剥離は、素材石刃の左側縁の中央部に長さ4cmにわたって、主要剥離面側からの打撃によって形成されている。最大厚6mmで、やや凹刃の刃部で、刃部角度が 68° ～ 73° と急角度である。刃縁部に微細剥離が連続し、やや堅い素材をスクラービングするような動作に使用されたと思われる。その両端には背面側からの剥離が、上端部には主要剥離面側からながら折り取るような剥離もみられる。中央刃部以前に背面・腹面の両面に微細剥離が出現するような刃部（刃縁部に沿って上下させるようなソーアイジングの動きによる使用）などが存在し、その刃部を除去するよう新たに削器刃部が形成されたものと考えられる。

石器背面の下半部に擦痕が著しく、稜線も摩耗している。擦痕の方向は一定せず、多方向である。擦痕は裏面の主要剥離面側にはまったく見られないが、背面側では微細剥離にもおよんでおり、主要剥離面の剥離後に、背面下部に限定的に働くような擦痕付着原因を考えねばならない。

素材となった石刃は特に大形であり、こうした大形石刃を特徴とする石器群は、長野県の茶臼山遺跡（藤森栄一、戸沢充則1962「茶臼山石器文化」「考古学集刊」第4冊）と向尾根遺跡（平井一治・五味一郎・高見俊樹1980「長野県原村向尾根遺跡緊急発掘調査概報」「長野県考古学会誌」38）があげられる。特に、向尾根遺跡では冷山系の黒曜石が使用されている。いずれもAT下位の石器群と考えられており、武藏野台地のⅤ層段階と位置づけられている（須藤隆司2006「中部地方の地域編年」「旧石器時代の地域編年の研究」同成社）。本資料も同様な位置づけが可能かもしれない。（保坂康夫）

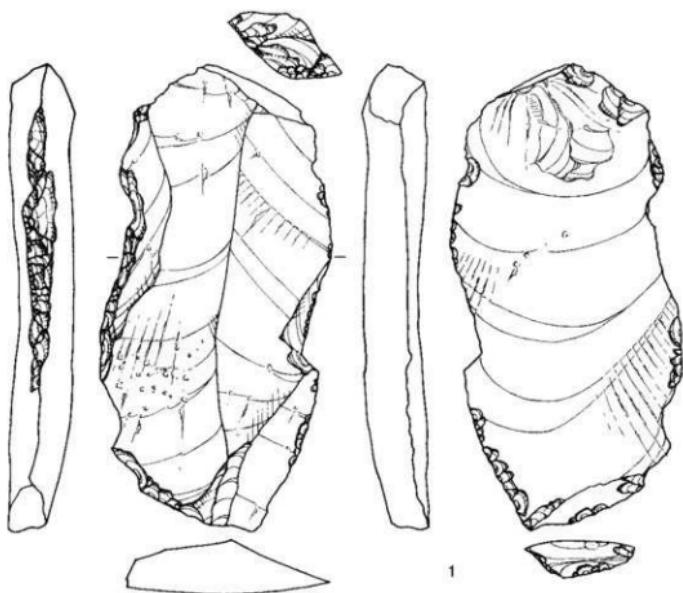
縄文時代のヘラ状石器 2（第16図、図版8）

縄文時代の石錐状の基部をもつヘラ状石器である。H-15グリッドから出土した。黄色風化泥岩を石材とする。素材は横長洞片であり、裏面に素材主要剥離面を広く残す。正面には素材主要剥離の方向と同一で、比較的規模の大きい剥離が1枚みられ、定型的な横長剥片を量産する剥離手法の存在を推定させる。

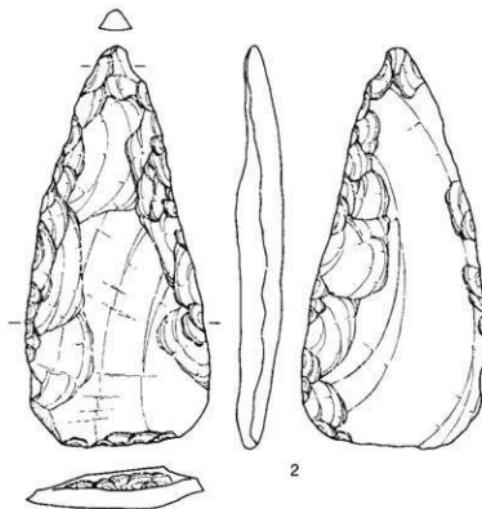
石器の調整剥離は、左右両辺と刃部である短辺にみられる。正面左側縁は、フェザーエンドの比較的大規模で深い平坦剥離の後に、中央部に中規模のステップエンドの平坦剥離、さらに基部側には比較的急傾斜の剥離を施している。正面右側縁には、中規模のステップエンドの平坦剥離が施されるが、基部端側と刃部側には調整剥離を施していない。裏面は右側縁に、やや角度のあるフェザーエンドの平坦剥離が、基部端を除く全体に施され、基部端部には比較的急角度の剥離がみられる。裏面右側縁では、まとまった調整剥離はないが、中央部に数枚のステップエンドの剥離がみられる。両辺とも、基部端側に比較的急角度の剥離が錯交的に施され、尖端部を銳利に作り出そうという意図は見いだされない。基部端の錐状の尖頭部は、まず正面側に両辺から平坦な剥離が施され、それを打面として両辺に1枚ずつ抉り込むように急角度剥離がなされて作出されている。こうした、調整剥離のあり方をみると、尖頭器を製作しようとする意図は見いだしがたく、ヘラ状石器に石錐状の機能部を追加したと考えた方が理解できる。

短辺に設定された刃部には、その中央部を中心で急角度剥離が、正面側のみに施されている。角度は65°程度と搔器を思わせる角度であるが、剥離は浅く直線的で、搔器とすることはできない。

南部町（旧富沢町）の縄文時代中期から晩期の土器が採集されている峯遺跡から横長洞片が多量に採集されており、まったく同様なヘラ状石器も確認されている（保坂康夫2002「縄文時代の石器」『富沢町誌』上巻）。時期の特定はできないものの、富士川流域の縄文時代に特徴的な石器である可能性がある。（保坂康夫）



1



2

第16図 旧石器時代及び縄文時代の出土石器（1/1）

第4表 原間遺跡出土石器觀察表

No	グリッド名	遺物番号	品名	備考	形状	完形	欠損	重さ g	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	石材	種別番号
1	A -	2	30	打製石斧	分銅形	○	169	13.37	7.66	1.45	粘板岩	第174	
2	B -	1	8	打製石斧	刃部欠損、長さは現存長	短縦形	○	73	8.00	4.28	1.58	硬質砂岩	第174
3	B -	1	-柄	打製石斧	繪形	○	166	13.53	5.97	2.07	硬質砂岩	第174	
4	B -	2	27	打製石斧	斜刃?	繪形	○	151	11.30	5.76	2.15	頁岩	第174
5	B -	2	51	柄付型石斧	石芯?	○	57	3.80	11.40	1.23	頁岩	第174	
6	B -	2	-柄	打製石斧	横刃形? 長さは現存長	○	233	7.03	11.18	2.63	頁岩	第174	
7	B -	3	7	打製石斧	繪形	○	154	10.83	7.27	1.92	硬質砂岩	第174	
8	B -	3	-柄	打製石斧	短縦形	○	85	10.37	4.85	1.30	粘板岩	第174	
9	C -	1	2	打製石斧	刃部欠損	短縦形	○	110	9.35	5.83	1.99	頁岩	第174
10	C -	2	56	打製石斧	繪形	○	174	13.90	5.65	2.23	硬質砂岩	第174	
11	C -	2	69	打製石斧	断面の再利用か? 重さは現存	短縦形	○	111	11.30	3.83	2.22	硬質砂岩	第174
12	C -	2	70	打製石斧	刃部・基部欠損	短縦形	○	379	15.20	6.90	2.73	硬質砂岩	第174
13	C -	2	117	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	繪形	○	102	7.80	6.30	2.06	硬質砂岩	第174
14	D -	2	-柄	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは鈎背長	繪形	○	102	7.36	6.95	1.65	頁岩	第174
15	D -	3	29	打製石斧	分銅形を直したか?	短縦形	○	137	12.65	5.90	1.60	頁岩	第174
16	D -	3	131	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	繪形	○	446	13.90	8.75	4.85	硬質砂岩	第184
17	E -	1	51	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	117	7.30	6.40	1.55	砂岩	第184
18	E -	1	148	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	77	9.00	5.45	1.40	硬質砂岩	第184
19	E -	2	11	打製石斧	分銅形を直したか?	短縦形	○	148	9.10	7.90	2.05	硬質砂岩	第184
20	E -	2	11	打製石斧	刃部欠損	短縦形	○	78	10.35	4.60	1.46	硬質砂岩	第184
21	E -	2	12	打製石斧	刃部欠損	短縦形	○	118	12.50	5.32	1.97	硬質砂岩	第184
22	E -	2	46	打製石斧	刃部欠損、長さは現存計測	繪形	○	126	8.67	5.27	2.52	硬質砂岩	第184
23	E -	2	98	打製石斧	短縦形?	○	140	13.20	6.50	1.55	硬質砂岩	第184	
24	E -	3	45	打製石斧	短縦形	○	209	14.50	6.50	1.97	頁岩	第184	
25	E -	3	-柄	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	203	14.50	7.50	2.60	硬質砂岩	第184
26	F -	1	3	打製石斧	短縦形	○	171	13.44	6.00	2.10	硬質砂岩	第184	
27	F -	1	-柄	打製石斧	繪形	○	51	6.52	4.90	1.75	硬質砂岩	第184	
28	F -	1	-柄	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	繪形	○	101	7.90	6.85	1.65	粘板岩	第184
29	F -	2	19	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	124	8.38	6.17	1.52	硬質砂岩	第184
30	F -	3	134	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	150	8.84	5.40	2.76	硬質砂岩	第184
31	F -	3	-柄	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	分銅形	○	96	7.6	6.26	1.70	粘板岩	第194
32	F -	3	-柄	打製石斧	石斧? 亂れは現存長	短縦形	○	144	10.08	5.76	2.42	頁岩	第194
33	G -	4	53	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	162	13.00	4.85	2.07	硬質砂岩	第194
34	G -	2	11	打製石斧	刃部欠損	繪形	○	139	11.20	7.00	1.62	粘板岩	第194
35	G -	2	87	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	繪形	○	273	10.74	7.52	2.90	硬質砂岩	第194
36	G -	3,4	153	打製石斧	不明	分銅形	○	281	8.85	9.68	2.60	硬質砂岩	第194
37	G -	20	-柄	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	220	10.30	9.15	2.40	頁岩	第194
38	G -	12	-柄	打製石斧	左半分弧形。幅は現存長	短縦形	○	63	11.38	4.47	1.15	千枚岩	第194
39	H -	4	18	打製石斧	真刀面が磨かれ、長さは現存長	短縦形	○	132	14.20	6.28	1.55	粘板岩	第194
40	H -	4	139	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	繪形	○	120	9.80	6.03	1.61	砂岩	第194
41	H -	11	1	打製石斧	斜刃?	繪形	○	265	12.29	7.70	2.27	頁岩	第194
42	H -	11	-柄	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	85	9.22	4.88	1.50	粘板岩	第194
43	H -	12	-柄	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	117	10.80	4.70	2.04	頁岩	第194
44	H -	15	7	打製石斧	分銅形の折損? 長さは現存長	分銅形	○	135	8.00	7.33	2.18	硬質砂岩	第204
45	H -	15	24	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	繪形	○	107	8.40	5.84	1.73	砂質頁岩	第204
46	H -	16	3	打製石斧	刃部欠損	短縦形	○	113	10.10	5.07	1.87	硬質砂岩	第204
47	H -	15	-柄	打製石斧	不明。幅は現存長	短縦形	○	334	12.82	9.98	2.50	硬質砂岩	第204
48	H -	16	12	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	129	7.23	6.54	2.03	砂岩	第204
49	H -	16	-柄	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	118	9.65	6.47	1.54	頁岩	第204
50	I -	3	11	打製石斧	基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	75	10.58	4.15	1.78	頁岩	第204
51	I -	3	53	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	104	13.50	4.96	1.20	頁岩	第204
52	I -	13	1	打製石斧	刃部欠損、長さは現存長	繪形	○	145	8.29	5.87	2.25	頁岩	第204
53	I -	14	7	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	156	9.20	6.94	2.37	硬質砂岩	第204
54	J -	12	-柄	打製石斧	基部欠損	短縦形	○	99	7.76	6.00	1.94	綠色凝灰岩	第204
55	J -	14	-柄	打製石斧	短縦形	○	132	12.07	5.20	2.00	硬質砂岩	第204	
56	J -	16	7	打製石斧	刃部・一部欠損	繪形	○	184	8.85	7.73	2.62	頁岩	第204
57	J -	15	11	打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	130	14.72	5.27	1.20	千枚岩	第204
58	K -	16	13	打製石斧	刃部・一部欠損	繪形	○	124	11.95	6.48	1.60	頁岩	第204
59	AIX	41	土壤	打製石斧	刃部・一部欠損、磨れた痕	短縦形	○	192	13.00	5.27	2.43	硬質砂岩	第204
60	AIX 表採			打製石斧	刃部・基部欠損	短縦形	○	132	12.36	5.52	1.75	頁岩	第204
61	AIX 表採			打製石斧	基部欠損	分銅形	○	309	10.43	9.50	3.30	砂岩	第214
62	BIX 表採			打製石斧	刃部・基部欠損、長さは現存長	短縦形	○	94	9.00	4.45	1.65	粘板岩	第214
63	CIX 表採			打製石斧	短縦形	○	141	10.00	4.30	2.50	硬質砂岩	第214	

No	グリッド名	遺物番号	品名	備考	形状	完形	欠損	重さg	長さcm	幅cm	厚さcm	石材	神岡番号
64	AIK	表採	打製石斧	刃部・基部欠損。長さは現存長 扇形		○		67	7.00	6.47	1.35	千枚岩	第21回
65	AIK	表採	打製石斧	基部欠損。長さ幅は現存長 扇形		○		221	9.91	7.36	2.77	硬質砂岩	第21回
66	原間遺跡表採		打製石斧	刃部欠損。長さ幅は現存長 短冊形		○		93	11.80	4.60	1.74	頁岩	第21回
67	D	- 3 56	打製石斧	大型	短冊形	○		1110	24.8	9.3	3.6		第21回
68	F	- 3 71	打製石斧		扇形	○		463	23.0	8.6	2.3		第21回
69	D	- 1 63	打製石斧		短冊形	○		710	14.9	10.2	3.0		第21回

No	グリッド名	遺物番号	品名	備考	形状	完形	欠損	重さg	長さcm	幅cm	厚さcm	神岡番号
1	A	- 2	一柄 石鎌	左脚部一部欠損。長さ幅は現存長		○		0.28	1.3	1.0	0.3	第22回
2	B	- 1	表採 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長		○		0.39	1.6	1.15	0.3	第22回
3	B	- 2	一柄 石鎌	大型	平基	○		2.20	2.6	1.7	0.6	第22回
4	B	- 3 50-1	石鎌			○		0.30	1.5	1.3	0.2	第22回
5	B	- 3 50-2	石鎌	先端部欠損		○		0.27	(1.3)	1.2	0.3	第22回
6	C	- 2 一柄2 石鎌	左脚部欠損。長さ幅は現存長			○		0.78	1.8	1.4	0.5	第22回
7	C	- 2 一柄1 石鎌	両脚部欠損?、長さ幅は現存長			○		1.37	2.0	1.5	0.6	第22回
8	C	- 2 一柄 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.38	1.3	1.2	0.4	第22回
9	C	- 3 一柄 石鎌	両脚部欠損。長さ幅は現存長			○		0.16	1.25	0.9	0.2	第22回
10	C	- 3 76	石鎌	先端欠損。長さは現存長		○		0.33	1.45	1.5	0.3	第22回
11	D	- 1 一柄 石鎌	右脚部、先端欠損。長さ幅は現存長			○		0.31	1.7	0.9	0.3	第22回
12	D	- 1 一柄 石鎌	左脚部欠損。長さ幅は現存長			○		0.26	1.5	1.0	0.3	第22回
13	D	- 1 一柄 石鎌	脚部欠損。長さ幅は現存長			○		1.38	1.7	1.45	0.8	第22回
14	D	- 2 70	石鎌			○		0.25	1.45	1.0	0.3	第22回
15	D	- 2 一柄 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.16	0.9	1.1	0.25	第22回
16	D	- 2 一柄1 石鎌				○		0.27	1.65	1.0	0.3	第22回
17	D	- 2 一柄2 石鎌	品名不明【石鎌?右脚部欠損?】、長さ幅は現存長			○		0.34	1.7	1.0	0.3	第22回
18	D	- 3 一柄 石鎌				○		0.36	1.4	1.2	0.35	第22回
19	D	- 4 一柄 石鎌				○		0.32	1.9	1.1	0.3	第22回
20	E	- 3 一柄1 石鎌			平基	○		0.38	1.5	1.0	0.3	第22回
21	E	- 3 一柄2 石鎌	両脚部欠損。長さ幅は現存長			○		0.42	1.5	1.3	0.35	第22回
22	E	- 3 表採 石鎌				○		0.23	1.6	1.4	0.2	第22回
23	E	- 5 1 石鎌	大型	平基		○		1.52	2.6	1.75	0.5	第22回
24	F	- 2 一柄 石鎌				○		0.35	1.4	1.25	0.3	第22回
25	F	- 4 29 石鎌				○		0.39	1.5	1.0	0.4	第22回
26	G	- 2 一柄 石鎌	右側面欠損			○		0.34	1.4	1.3	0.3	第22回
27	G	- 3 一柄 石鎌				○		0.57	1.9	1.4	0.4	第22回
28	G	- 3,4 109 石鎌	先端部欠損。長さは現存長			○		0.37	1.6	1.15	0.3	第22回
29	G	- 16 8 石鎌				○		0.29	1.8	1.3	0.25	第22回
30	H	- 2 4 石鎌	小型			○		0.12	1.2	1.0	0.2	第22回
31	H	- 3 一柄 石鎌				○		0.25	1.3	1.0	0.2	第22回
32	H	- 4 9 石鎌				○		0.21	1.05	1.35	0.25	第22回
33	H	- 4 121 石鎌	両脚部、先端欠損。長さ幅は現存長			○		0.39	1.95	1.2	0.3	第22回
34	H	- 16 30 石鎌	左脚部一部欠損。長さ幅は現存長			○		0.31	1.5	1.1	0.3	第22回
35	H	- 16 - 柄 石鎌			平基	○		1.60	1.85	1.6	0.6	第22回
36	H	- 17 一柄 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.54	1.9	1.3	0.3	第22回
37	I	- 2 3 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.17	1.4	1.1	0.2	第22回
38	I	- 16 9 石鎌	右脚部欠損。長さ幅は現存長			○		0.25	1.5	1.0	0.3	第22回
39	I	- 16 10 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.20	1.3	1.2	0.2	第22回
40	I	- 17 一柄 石鎌				○		0.42	1.5	1.2	0.35	第22回
41	I	- 18 一柄 石鎌			平基	○		0.38	1.4	1.1	0.4	第22回
42	J	- 12 1 石鎌				○		0.26	1.6	1.25	0.2	第22回
43	J	- 15 12 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.47	1.3	1.0	0.3	第22回
44	J	- 16 4 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.25	0.9	1.0	0.3	第22回
45	AIK	表採1 石鎌				○		0.25	1.4	1.2	0.3	第22回
46	AIK	表採2 石鎌	右脚部、先端部欠損			○		0.22	1.35	1.05	0.25	第22回
47	AIK	表採3 石鎌	右半分欠損。幅は現存長	平基		○		1.19	2.4	1.45	0.6	第22回
48	AIK	表採4 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.41	1.8	1.3	0.35	第22回
49	AIK	表採5 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.27	1.2	1.0	0.3	第22回
50	AIK	表採6 石鎌	[両]脚部? 長さ幅は現存長			○		0.87	1.5	1.6	0.5	第22回
51	AIK	表採7 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.26	1.5	1.0	0.3	第22回
52	AIK	表採8 石鎌	左脚部欠損。長さ幅は現存長			○		0.56	1.6	1.4	0.3	第22回
53	AIK	表採9 石鎌	先端部欠損。長さ幅は現存長			○		0.32	1.0	1.4	0.3	第22回
54	AIK	表採 石鎌				○		1.44	2.1	1.5	0.6	第22回

No	グリッド名	遺物番号	品名	備考	形状	完形	欠損	重さg	長さcm	幅cm	厚さcm	補題番号
55	BI区	1上	一括	石獅		○		0.34	1.8	0.9	0.4	第224
56	C区	表採	表採1	石獅	先端、脚部欠損、長さ幅は現存長	○		0.36	1.2	1.1	0.3	第224
57	C区	表採	表採2	石獅	右半分欠損、長さ幅は現存長	○		0.19	1.5	0.7	0.2	第224
58	C区	表採	表採4	石獅	左のみ欠損?、長さ幅は現存長	○		0.63	1.7	1.2	0.4	第224
59	C区	表採	表採5	石獅		○		0.27	1.3	1.35	0.2	第224
60	原間	表採	表採1	石獅	右脚部欠損、長さ幅は現存長	○		0.36	1.9	1.4	0.3	第224
61	原間	表採	表採2	石獅		○		0.28	1.6	1.0	0.35	第224

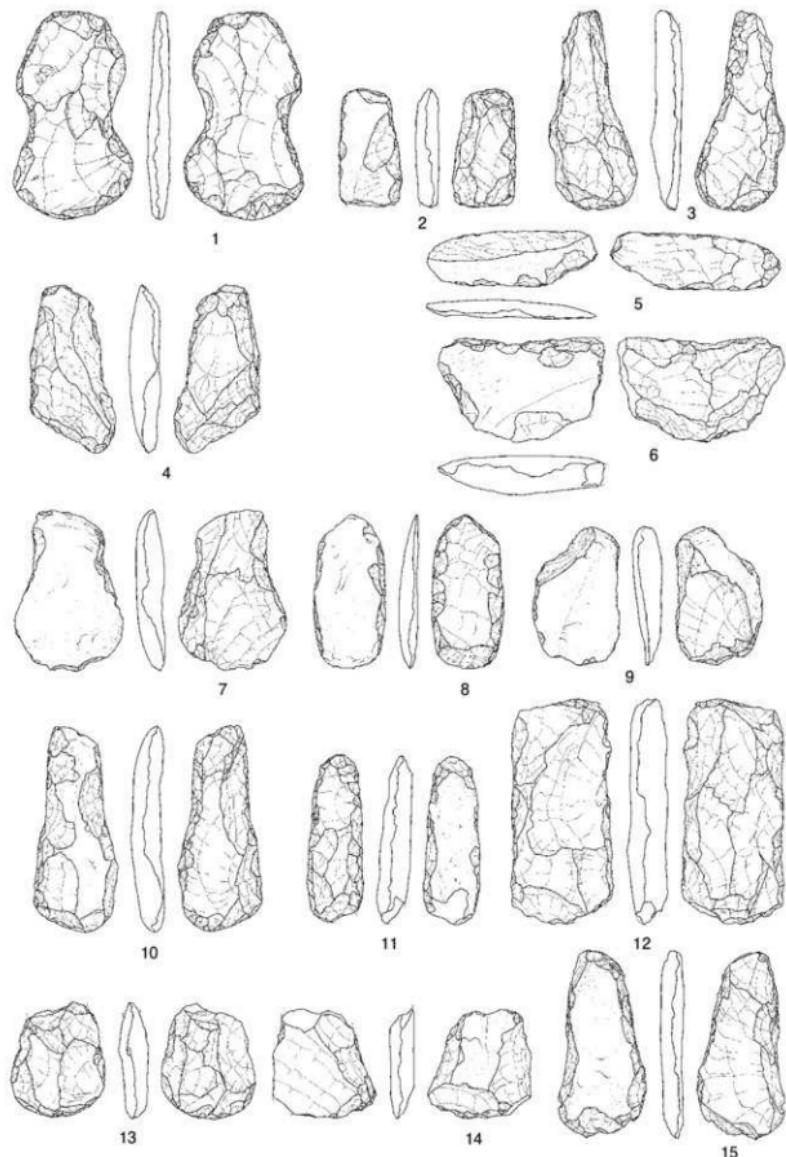
1	B	-	1	一括	磨製石斧	刃部欠損	○	81	8.3	3.3	1.9	第234	
2	C	-	2	103-1	磨製石斧	刃部・基部欠損	乳棒状	○	122	7.2	4.9	2.6	第234
3	E	-	4	26	磨製石斧	刃部欠損	定角か?	○	251	83	5.1	3.6	第234
4	H	-	3	38	磨製石斧	刃部欠損	定角	○	80	8.2	4.0	1.5	第234
5	H	-	3	87	磨製石斧	刃部欠損	定角	○	241	10.1	5.2	1.7	第234
6	H	-	4	138	磨製石斧	基部欠損		○	216	11.9	5.3	2.4	第234
7	H	-	15	1	磨製石斧	刃部欠損	乳棒状	○	132	10.5	3.0	2.5	第234
8	H	-	15	15	磨製石斧	刃部欠損	定角	○	401	12.9	5.9	3.4	第234
9	原間	表採	5	トレ	磨製石斧	基部欠損 (縮尺1/1)	小型定角	○	10	3.0	2.0	0.9	第234

10	B	-	1	一括	丸石	外面なめらか	卵形	○	31	4.4	2.1	2.0	第234
11	B	-	2	一括	丸石	外面なめらか	卵形	○	32	4.1	3.1	1.9	第234
12	B	-	3	36	丸石	丸形外面なめらか	○	71	4.0	3.8	3.1	第234	
13	C	-	1	25	丸石	外面なめらか	丸形扁平	○	144	5.5	5.6	3.2	第234
14	E	-	2	65	丸石	外面なめらか	丸形扁平	○	212	6.8	6.0	4.2	第234
15	C	-	2	27	丸石	外面なめらか	長丸形扁平	○	85	5.8	4.1	2.3	第234
16	E	-	1	123	丸石	外面なめらか	卵形	○	45	4.6	3.5	2.0	第234
17	E	-	2	17	丸石	外面なめらか	卵形扁平	○	172	6.3	5.4	3.4	第234
18	E	-	2	31	丸石	外面なめらか	卵形	○	98	4.4	4.5	3.1	第234
19	A区		表採	丸石	外面なめらか	卵形	○	69	4.2	3.5	2.3	第234	
20	F	-	3	62	丸石	外面なめらか	卵形	○	123	5.1	4.6	3.6	第234
21	G	-	3,4	90	丸石	材質のためざつき感あり	丸形扁平	○	111	5.0	4.1	3.1	第234
22	G	-	3,4	189	丸石	外面なめらか	卵形	○	227	7.1	5.3	4.4	第234
23	H	-	15	31	丸石	外面なめらか	丸形	○	169	5.1	5.3	4.5	第234

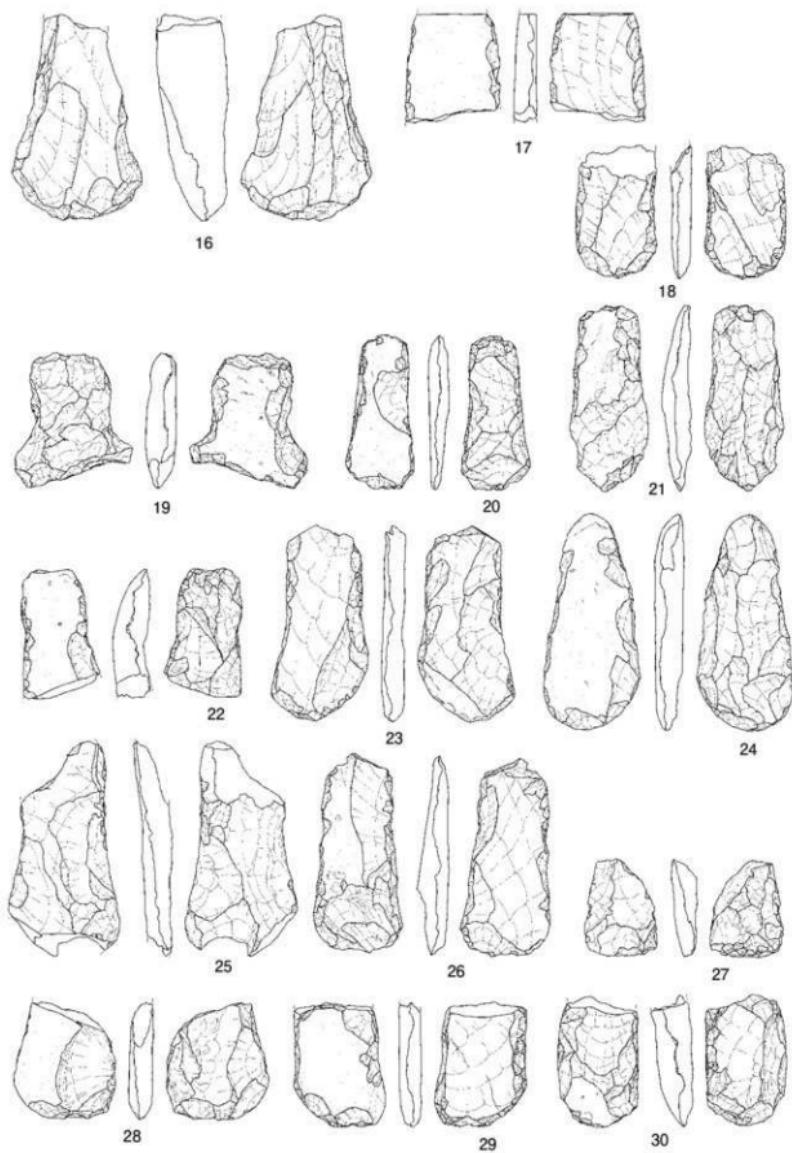
1	A区		2土	石棒	4つの破片	成形痕あり	○	6,500	35.0	14.0	9.6	第244	
2	B	-	2	135	石棒	制作途中か	成形痕あり	○	6120	16.0	16.5	1.0	第244
3	G	-	15	12	石棒			○	4008	23.3	11.8	10.1	第244
4	H	-	4	125	石棒	8K以上再度計測		○	9,000	28.5	17.0	17.0	第244
5	E	-	2	71	石棒	頭部	段差あり	○	207	6.5	7.5	4.5	第244

1	A	-	3	11	磨り石		丸形扁平	○	570	9.5	8.0	5.1	第254
2	C	-	3	180	磨り石	なめらか	丸形扁平	○	913	12.2	9.9	5.0	第254
3	C	-	3	96	磨り石	なめらか	丸形扁平	○	728	10.5	8.9	5.2	第254
4	D	-	2	42	磨り石	なめらか	楕円形	○	418	8.7	6.9	4.9	第254
5	E	-	2	4	磨り石	なめらか	丸形扁平	○	468	10.6	9.0	3.2	第254
6	A区		表採	磨り石		長丸形	○	573	11.4	7.1	4.9	第254	
7	A区	12土坑	3	磨り石			○	941	10.2	10.4	6.7	第254	
8	B	-	2	33	磨り石	一部欠損	丸形扁平	○	189	9.0	8.6	2.0	第254
9	F	-	1	6	磨り石	3/4欠損	扁平丸形	○	71	4.5	6.6	1.9	第254
10	J	-	14	20	磨り石		丸形扁平	○	435	10.3	8.9	3.3	第254
11	I	-	15	22	磨り石	歯き痕あり	楕円形	○	360	10.3	5.9	4.4	第254
12	F	-	2	一括	磨り石	外面なめらか	丸形	○	296	4.4	7.9	6.6	第254
13	J	-	14	20	磨り石		卵形扁平	○	558	9.9	8.0	4.3	第254
14	G	-	15	2土	磨り石	磨り石か	楕円形, 扁平	○	146	9.9	6.6	2.2	第254
15	G	-	20	一括	紙石	表面に傷跡あり	長方形	○	168	7.9	4.0	3.6	第254

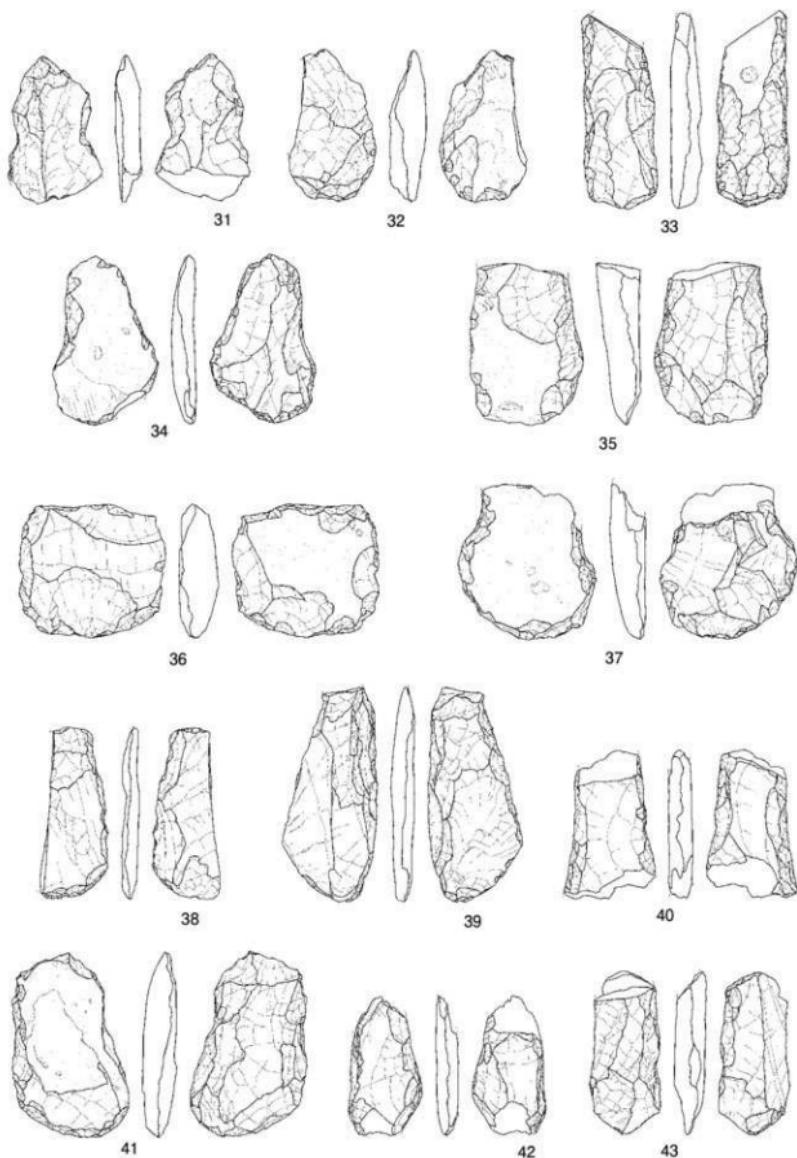
No	グリッド名	遺物番号	品名	備考	形状	完形	欠損	重さg	長さcm	幅cm	厚さcm	神社番号
1	AIK	9土	凹み石	P-1 裏面に2箇所あり	○	694	11.7	8.2	4.7	第26回		
2	B	-	3 76	凹み石 裏面に凹あり	○	824	11.1	9.5	6.1	第26回		
3	G	-	3.4 129	凹み石 凹み2カ所あり、裏に凹あり	○	267	8.1	6.6	3.8	第26回		
4	G	-	3.4 87	凹み石 楕円形扁平手欠	○	431	9.8	8.0	5.7	第26回		
5	H	-	3 76	凹み石 5箇所凹みあり（裏3箇所）	○	570	12.4	6.8	4.9	第26回		
6	B	-	3 74	石鍼		○	3200	23.8	16.6	7.0	第26回	
7	H	-	15 39	石鍼 裏面に凹み有り	○	3040	16.9	23.0	5.8	第26回		
8	H	-	15 28	石鍼	○	503	12.5	9.1	3.1	第26回		
9	H	-	4 38	石鍼 約1/4残存	○	1014	11.5	18.0	3.7	第26回		
10	I	-	4 6	石鍼 欠損が著しい	○	1387	1.4	12.0	7.2	第26回		
11	C	-	2 52	石鍼 切目か、長さ厚さは現存長	角形	○	38	6.2	4.6	1.0	第27回	
2	C	-	2 一柄	石鍼 打欠	長丸形	○	48	6.3	3.5	1.4	第27回	
3	C	-	2 一柄	石鍼 打欠	長丸形	○	38	6.4	3.7	1.5	第27回	
4	D	-	2 9	石鍼 打欠	丸形	○	59	6.1	4.6	1.2	第27回	
5	D	-	2 28	石鍼 打欠	丸形	○	29	4.9	4.0	1.1	第27回	
6	D	-	2 34	石鍼 (打欠)、計測値は現存値	長丸形	○	39	6.9	5.1	1.3	第27回	
7	D	-	2 51	石鍼 打欠	丸形	○	32	5.2	3.9	1.2	第27回	
8	D	-	2 79	石鍼 (打欠)、厚さは現存値	長丸	○	26	5.8	4.0	0.9	第27回	
9	D	-	2 一柄	石鍼 打欠	長方形	○	40	5.0	3.7	1.5	第27回	
10	E	-	2 5	石鍼 (打欠)、計測値は現存値	長方形	○	34	5.3	4.1	1.3	第27回	
11	E	-	2 69	石鍼 (打欠)、長さ厚さは現存長	長丸形	○	22	4.6	4.3	0.6	第27回	
12	E	-	4 14	石鍼 (打欠)	長丸形	○	43	7.6	3.9	1.0	第27回	
13	F	-	3 76-1	石鍼 打欠	長丸形	○	73	7.5	5.0	1.2	第27回	
14	F	-	3 76-2	石鍼 切目	長丸形	○	39	6.0	3.1	1.1	第27回	
15	F	-	3 98	石鍼 切目	半丸形	○	127	8.7	5.5	1.85	第27回	
16	F	-	3 一柄	石鍼 打欠、厚さは現存値	丸形	○	36	5.4	4.8	0.9	第27回	
17	F	-	4 30	石鍼 切目	丸形	○	44	5.3	4.1	1.3	第27回	
18	F	-	4 一柄	石鍼 打欠	四角形	○	34	5.3	3.6	1.2	第27回	
19	G	-	3 一柄	石鍼 打欠	長方形	○	89	7.0	3.8	1.8	第27回	
20	G	-	19 一柄	石鍼 切目(半面欠損)	丸形	○	25	5.8	4.2	0.5	第27回	
21	H	-	2 一柄	石鍼 打欠	長方形	○	43	5.6	4.4	1.2	第27回	
22	H	-	2 一柄	石鍼 打欠	丸形	○	38	4.7	4.6	1.1	第27回	
23	H	-	3 31	石鍼 打欠、長さは現存値	丸形	○	27	4.3	3.8	1.0	第27回	
24	H	-	4 103	石鍼 打欠	長方形	○	62	8.2	3.4	1.7	第27回	
25	H	-	4 一柄	石鍼 切目(尖りを作り出す)	長丸形	○	35	5.9	3.4	1.2	第27回	
26	H	-	17 一柄	石鍼 切目	長丸形	○	38	7.0	4.0	0.9	第28回	
27	I	-	15 1	石鍼 切目	丸形	○	57	5.8	4.1	1.7	第28回	
28	I	-	15 23	石鍼 切目	長方形	○	56	8.3	3.3	1.3	第28回	
29	J	-	14 19	石鍼 切目、長さ幅は現存値	丸形	○	31	3.2	5.3	1.45	第28回	
30	J	-	15 17	石鍼 切目(磨かれる)	丸形	○	43	5.4	3.6	1.3	第28回	
31	K	-	14 5	石鍼 切目	丸形	○	25	5.0	4.0	0.7	第28回	
32	K	-	14 12	石鍼 切目	丸形	○	34	4.7	4.4	1.3	第28回	
33	K	-	15 31	石鍼 打欠	丸形	○	47	5.3	4.3	1.2	第28回	
34	K	-	15 表採	石鍼 切目、長さは現存値	丸形	○	25	4.8	3.8	0.9	第28回	
35	AIK	12.13土	一柄	石鍼 打欠	丸形	○	23	4.6	3.7	1.0	第28回	
36	AIK	サブトレ3	石鍼	打欠	長丸形	○	47	6.9	3.9	1.3	第28回	
37	AIK	試掘	表採	石鍼 打欠	四角形	○	24	4.9	3.3	1.1	第28回	
38	BIK		表採	石鍼 打欠	丸形	○	60	6.6	5.1	1.1	第28回	
39	CIK		表採	石鍼 切目	長方形	○	12	5.7	1.9	0.7	第28回	
40	原開	表採	表採	石鍼 打欠	丸形	○	37	7.6	5.1	0.8	第28回	
41	原開	表採	表採	石鍼 打欠	長方形	○	37	5.0	4.0	1.1	第28回	
42	C	-	3 168	土鍼 切目	長方形	○	43	5.9	4.3	1.3	第28回	



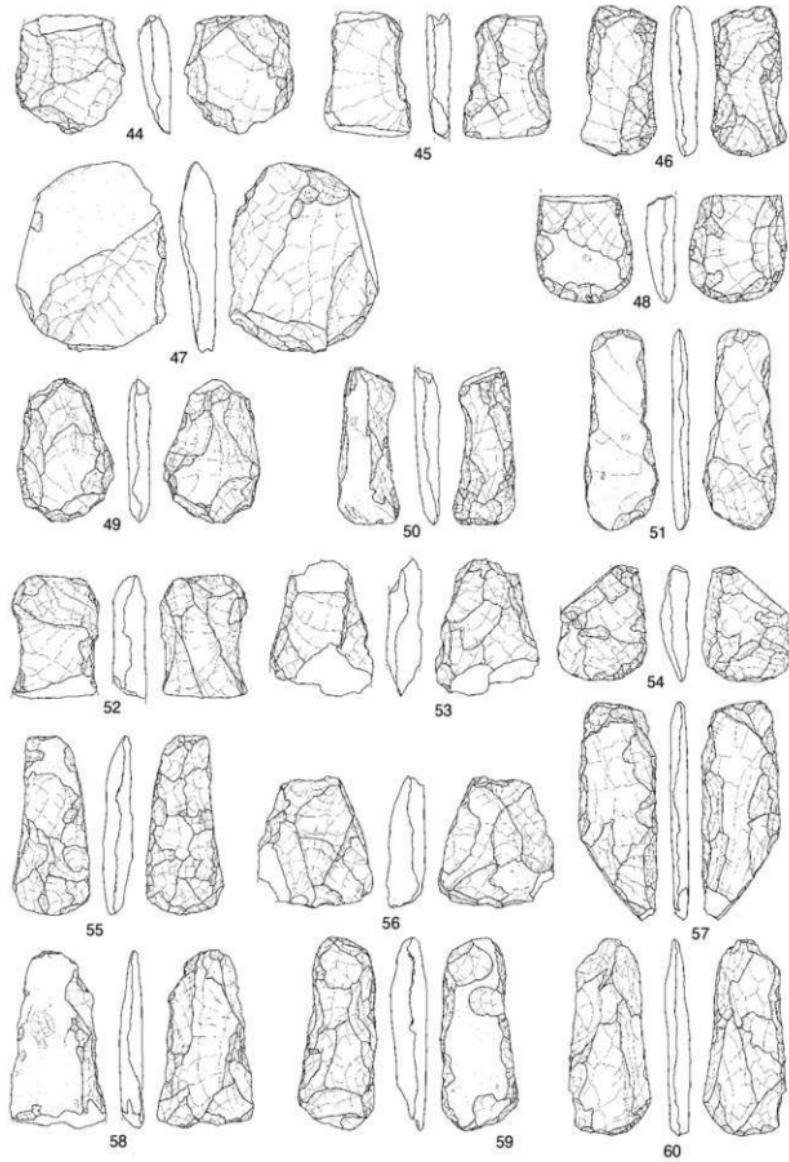
第17図 打製石斧 (1) (1/3)



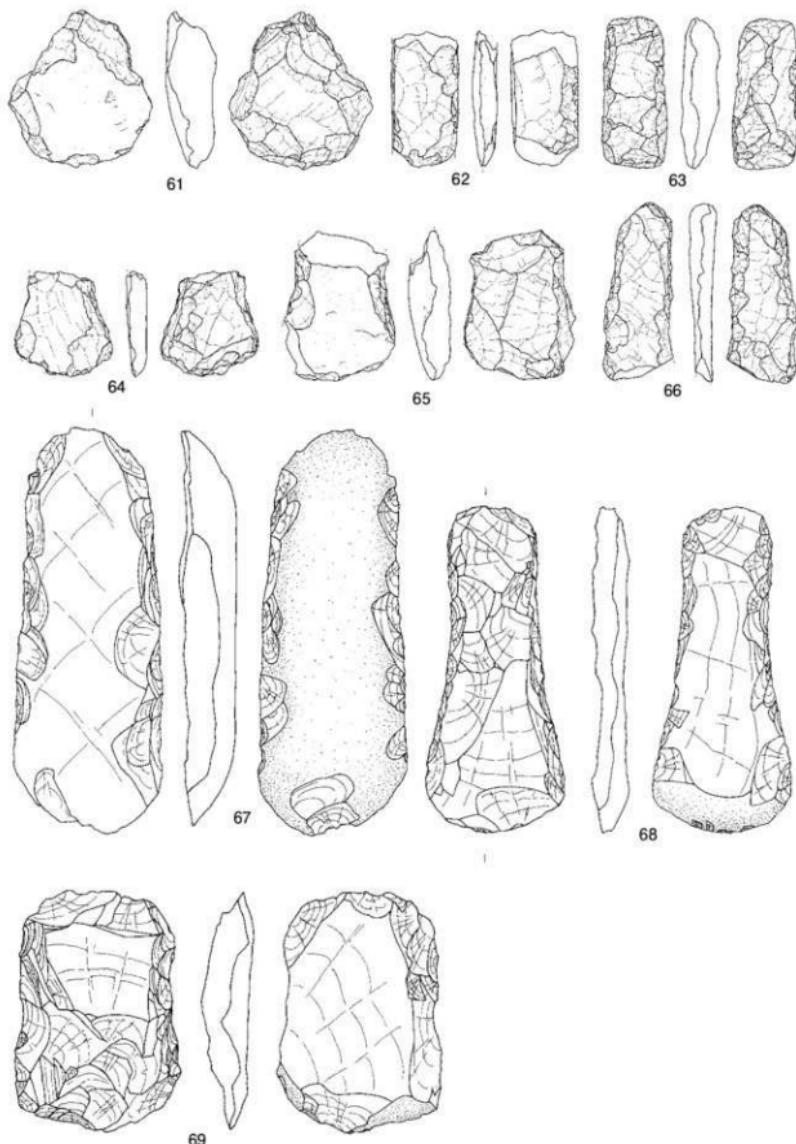
第18図 打製石斧 (2) (1/3)



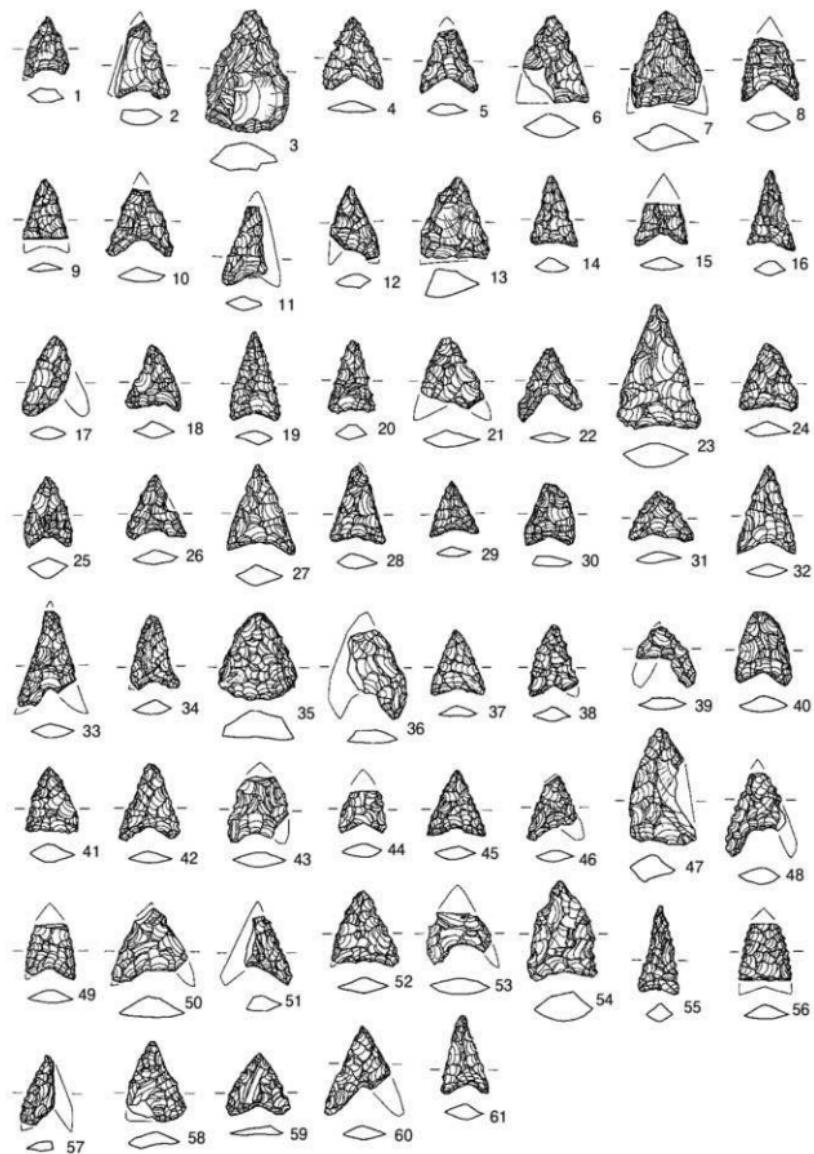
第19図 打製石斧 (3) (1/3)



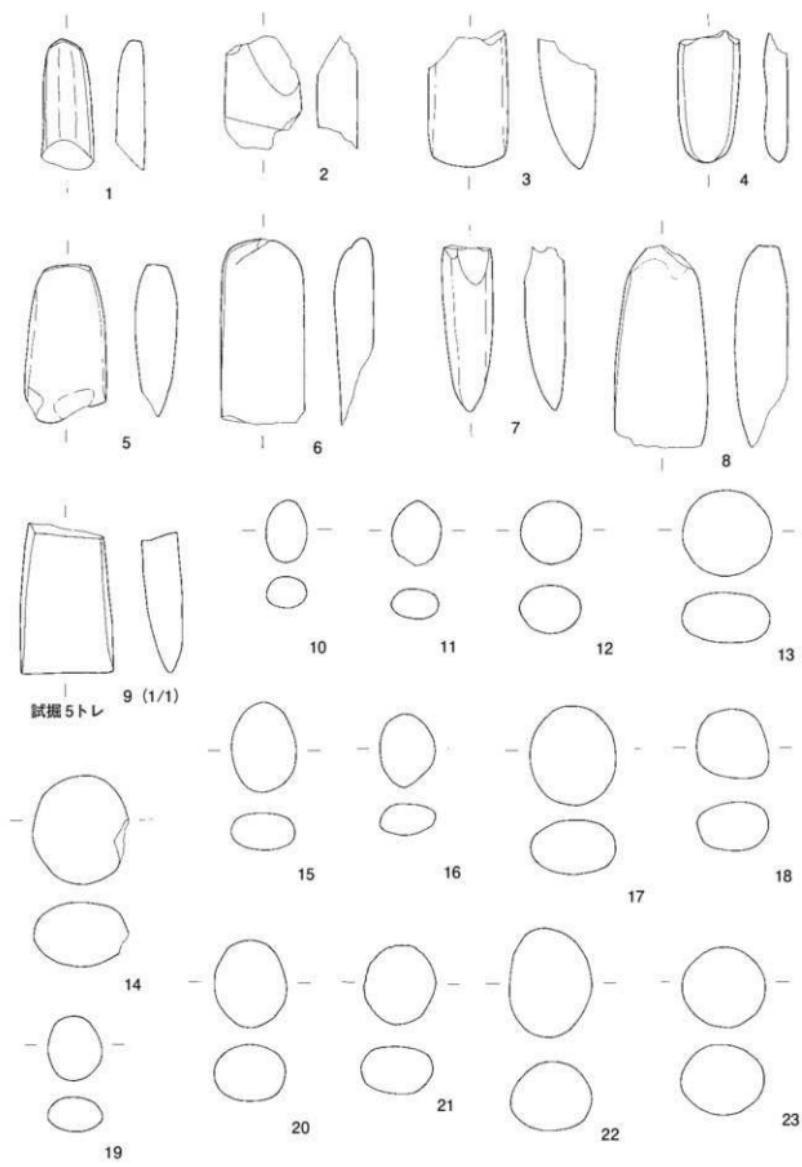
第20図 打製石斧 (4) (1/3)



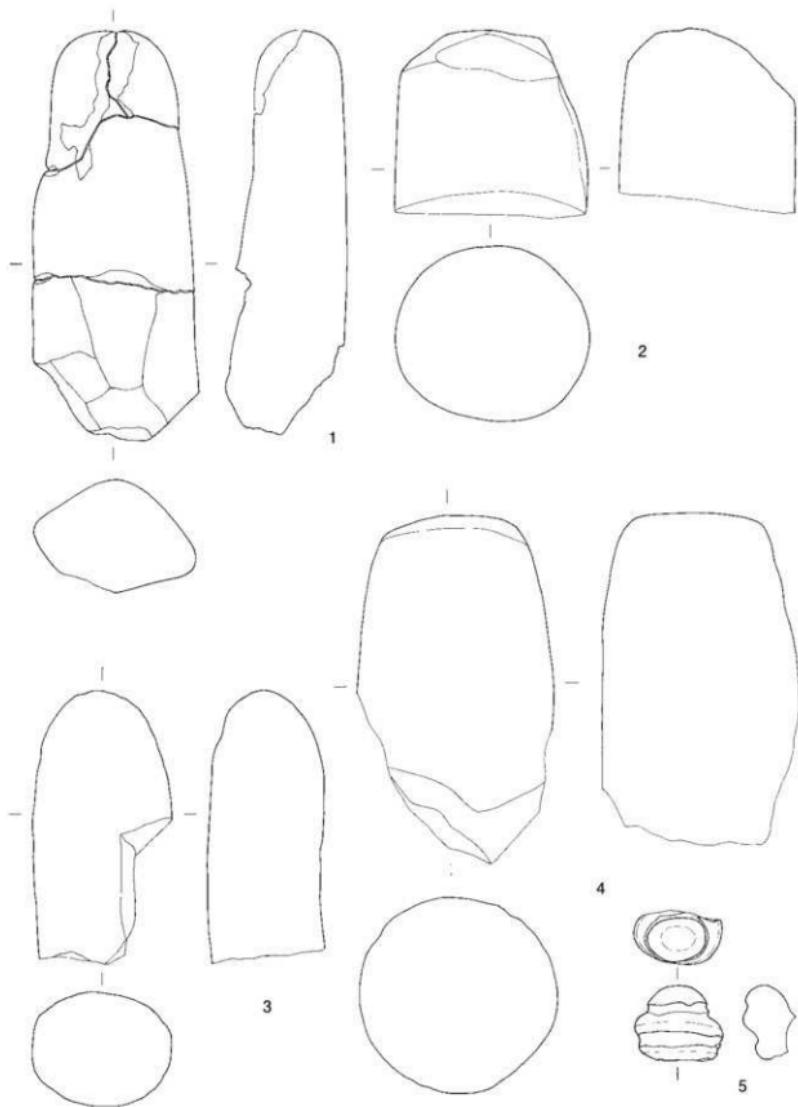
第21図 打製石斧 (5) (1/3)



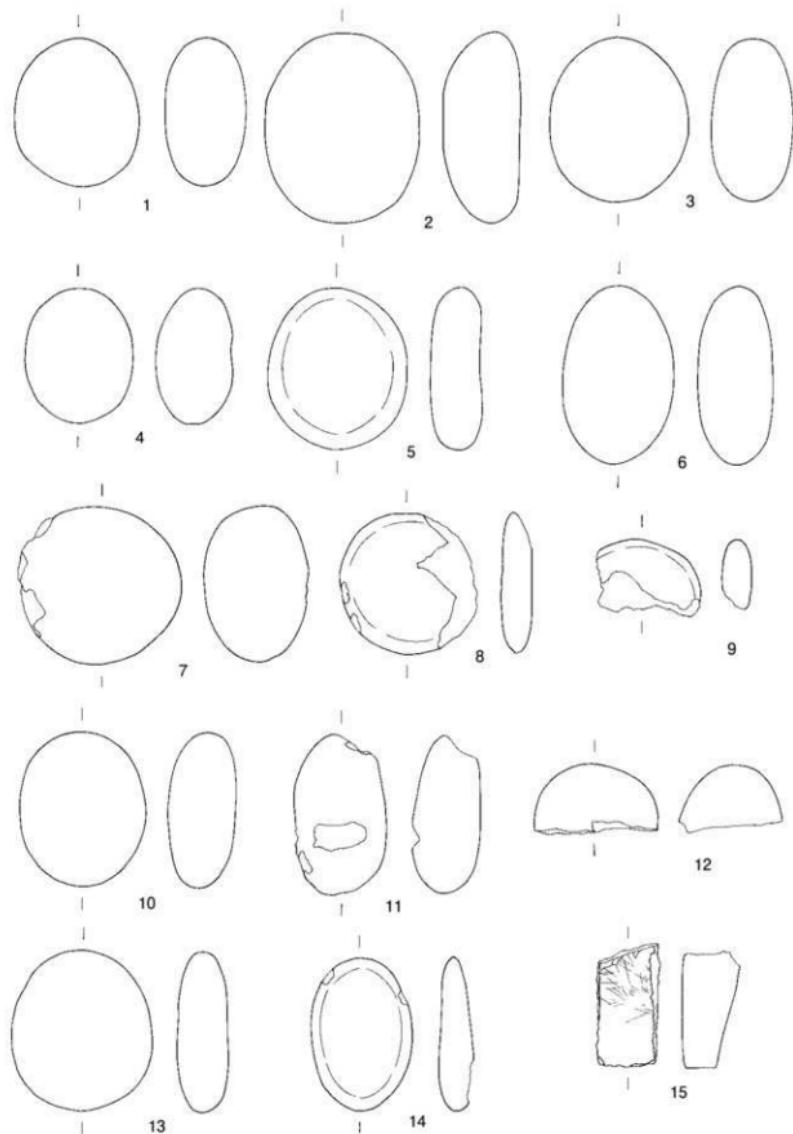
第22図 石鱗 (1/1)



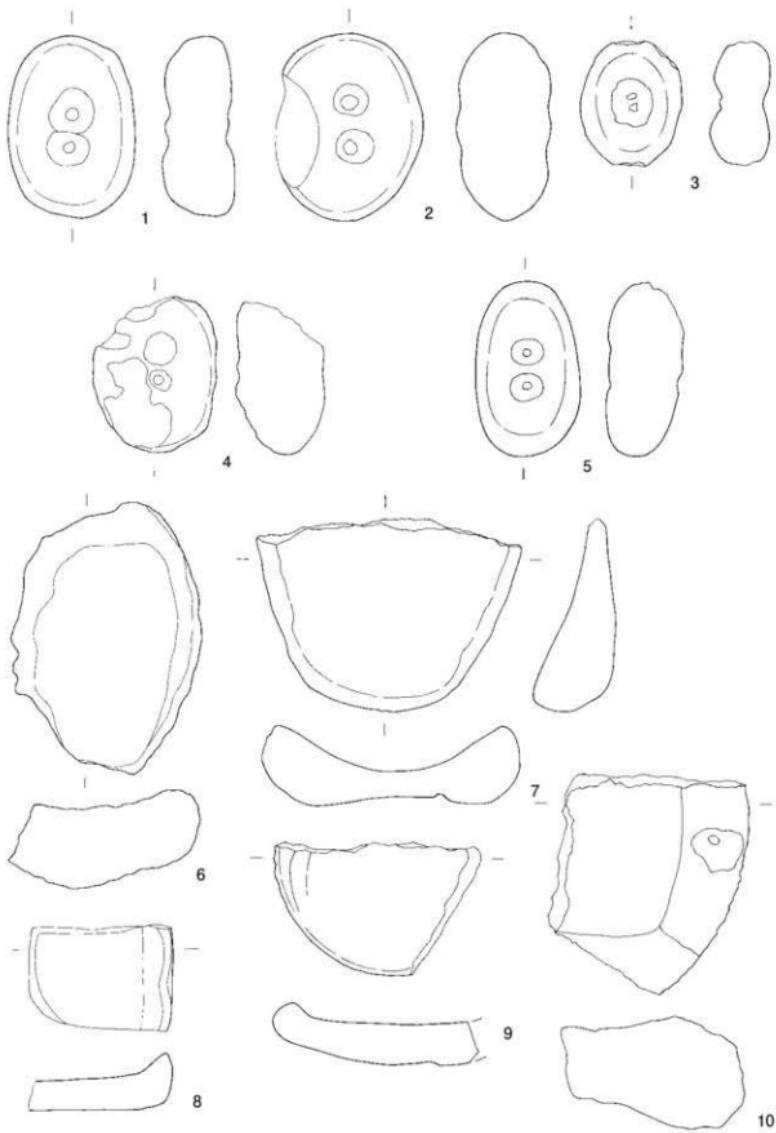
第23図 磨製石斧 (1/3)・丸石 (1/3)



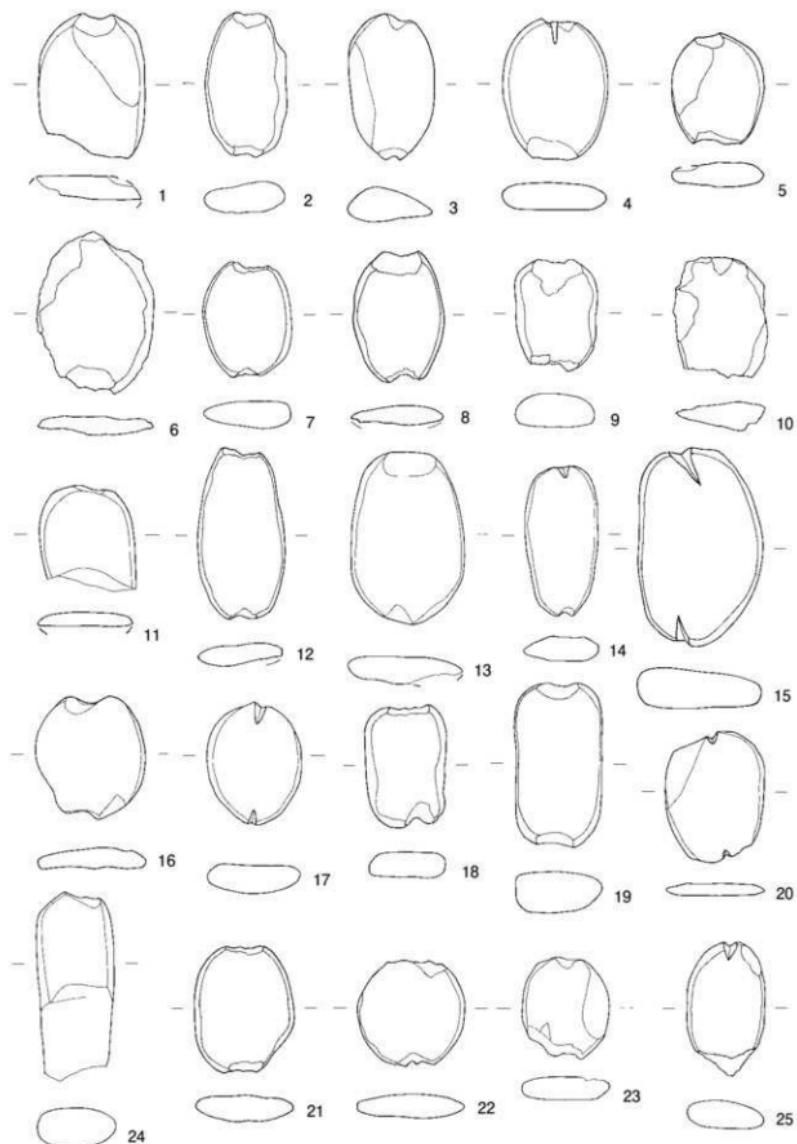
第24図 石棒 (1/4)



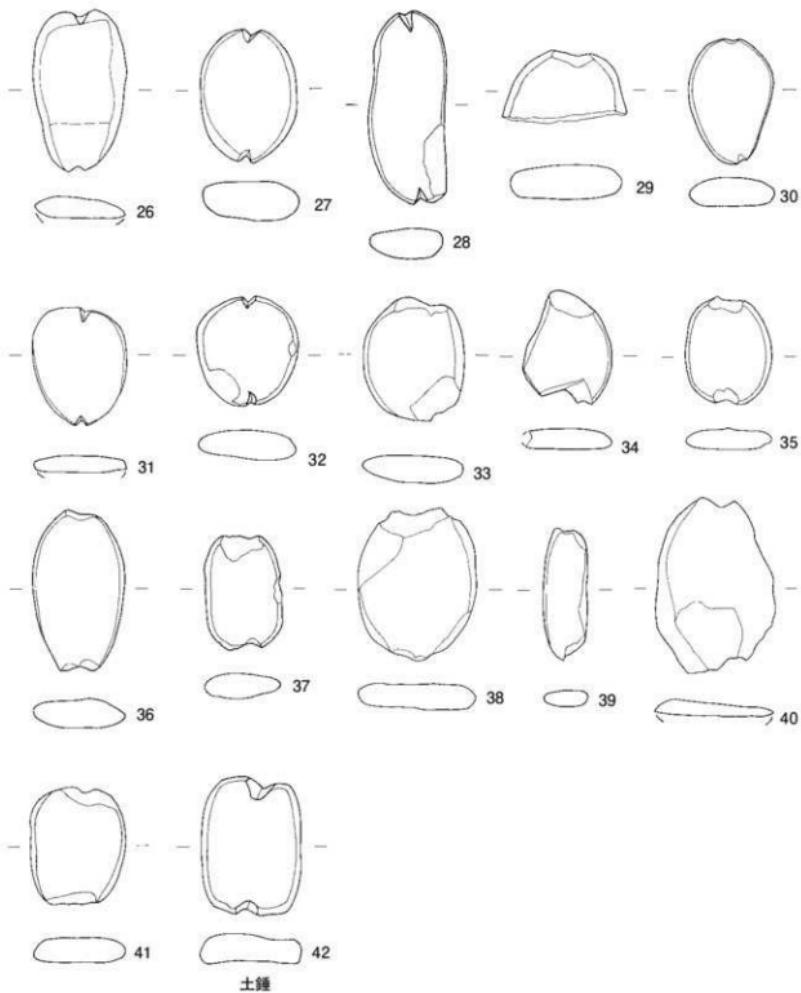
第25図 研り石 (1/3)・砥石 (1/3)



第26図 凹み石 (1/3)・石皿 (1/4)



第27図 石錘 (1) (1/2)



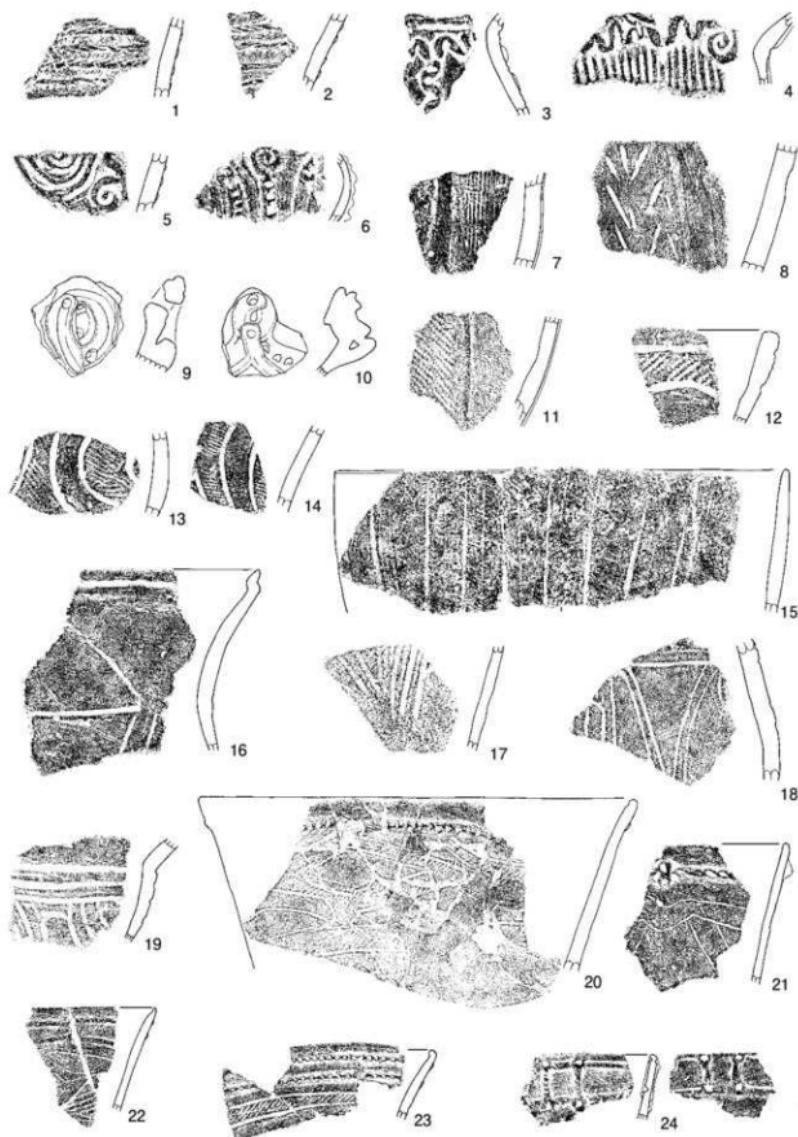
第28図 石錘 (2) (1/2)・土錘 (1/2)

第5表 原間遺跡出土土器觀察表 () は推定復元値、雲=雲母、石=石英、長=長石、赤=赤色粒子

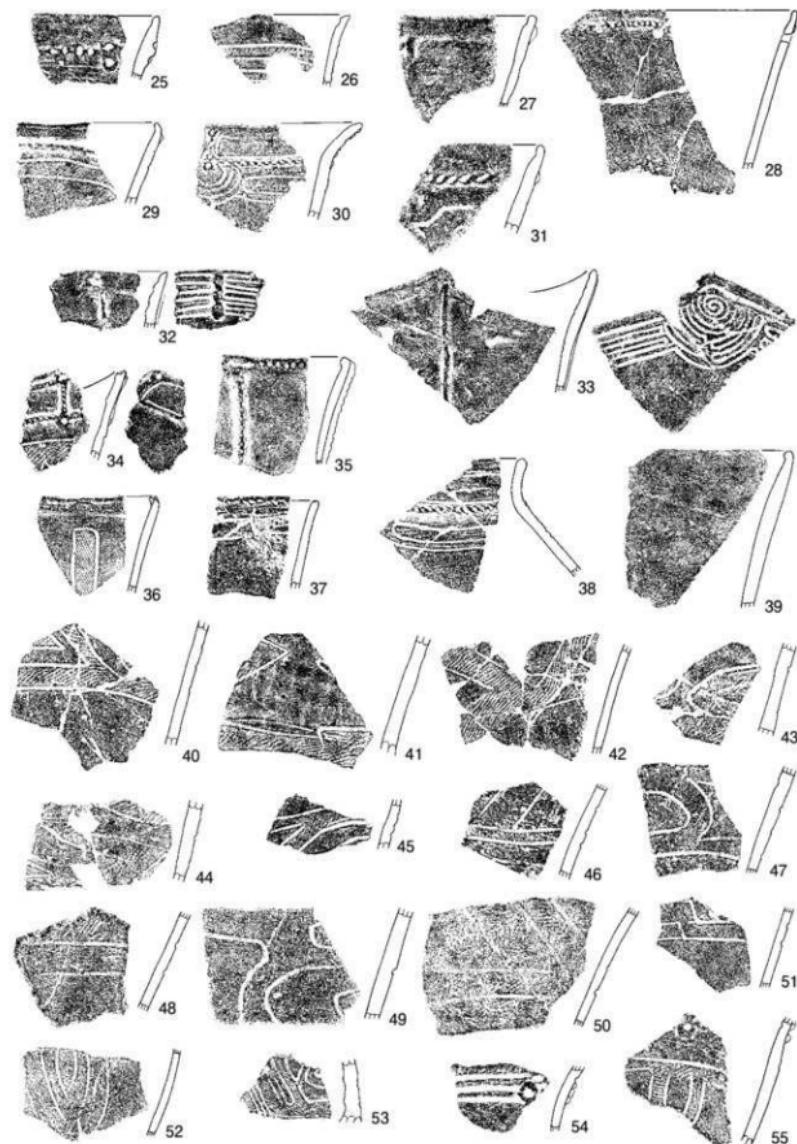
No.	出土地点	種別	時期	器種	口/底/高(cm)	施文・整形技法等	色調・胎土	備考
29 1	G-3・4	縄文	縄文前	深鉢	-/-/-	有刻離帯が構する。	暗褐色・長・雲・赤	前期後葉諸磧式
29 2	E-3	縄文	縄文前	深鉢	-/-/-	有刻離帯が横走る。	黒褐色・雲・長・赤	前期後葉諸磧b式
29 3	E-4	縄文	縄文中	深鉢	-/-/-	波状離帯を施す。	褐色・雲・長・赤	中期後葉曾利1式
29 4	E-4	縄文	縄文中	深鉢	-/-/-	波状離帯。溝状離帯に垂下する沈線を施文。	灰色・長・赤	中期後葉曾利1式
29 5	F-4	縄文	縄文中	深鉢	-/-/-	弧状に離帯を施文。	赤褐色・長・赤	中期後葉曾利1式か
29 6	E-4	縄文	縄文中	深鉢	-/-/-	有刻離帯が垂下する。	褐色・雲・長・赤	中期後葉曾利1式
29 7	G-18	縄文	縄文中	深鉢	-/-/-	離帯と条痕が施文される。	褐色・雲・長・赤	中期後葉曾利1式
29 8	I-16	縄文	縄文中	深鉢	-/-/-	(「」)の字状の沈線を施文。	黄褐色・長・赤	中期後葉曾利V式
29 9	H-4	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	斜穴を施す離帯が強状に施される波頭部。	黄褐色・石・長・赤	後期初頭闊型
29 10	G-3・4	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	斜穴を施す離帯が弧状に施される波頭部。	黄褐色・雲・長	後期初頭闊型
29 11	K-15	縄文	縄文の中	深鉢	-/-/-	半圓端文と垂下する斜窓を施文。	黄褐色・雲・長	中期末葉加曾利E式か
29 12	K-15	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部に、沈線区画内單節縄文を施文。	明褐色・石・長	後期初頭稱名寺式
29 13	E-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	沈線区画内に單節縄文を施文。	褐色・黒・長・赤	後期初頭稱名寺式
29 14	表呂	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	沈線区画内に単節縄文を施文。	褐色・石・長	後期初頭稱名寺式
29 15	G-18	縄文	縄文後	深鉢	(29.0) -/-/-	綱位沈線を施文。	黄褐色・石・長・赤	後期中葉堀之内1式
29 16	G-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口唇部横位沈線、胴部上半斜位沈線を施文。	黄褐色・雲・長・赤	後期中葉堀之内1式
29 17	H-15	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	斜位沈線施文。	褐色・石・長	後期中葉堀之内1式
29 18	G-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴下半斜位斜行沈線を施文。	黄褐色・長・雲・赤	後期中葉堀之内1式
29 19	F-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴下半斜・斜位に浅窓を施文。	明褐色・石・長	後期中葉堀之内1式
29 20	E-2	縄文	縄文後	深鉢	(27.8) -/-/-	口縁部に横位有刻離帯、以下幾何学的モチーフを併行沈線内密着焼成で表出。	赤褐色・長・赤	後期中葉堀之内2式
29 21	D-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部横位有刻離帯、以下併行沈線内密着焼成。	暗褐色・雲・石・長	後期中葉堀之内2式
29 22	E-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部横位有刻離帯、以下併行沈線内密着焼成。	黄褐色・長	後期中葉堀之内2式
29 23	E-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部横位有刻離帯、以下併行沈線内密着焼成。	黄褐色・雲・長	後期中葉堀之内2式
29 24	E-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部裏表とも6字の字状突起、横位離帯を施文。	黄褐色・長	後期中葉堀之内2式
30 25	F-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部横位有刻離帯、8の字状突起以下併行沈線。	褐色・石・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 26	A-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口唇部内面横位沈線、口縁部横位併行沈線、単節縄文。	黄褐色・長	後期中葉堀之内2式
30 27	D-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口唇部内面横位沈線、口縁部横位有刻離帯、8の字状突起。	黄褐色・雲・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 28	E-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口唇部内面横位沈線、口縁部横位有刻離帯。	褐色・雲・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 29	E-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部横位有刻離帯、併行沈線、単節縄文。	褐色・雲・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 30	H-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部横位有刻離帯、8の字状突起、併行沈線。	褐色・雲・長	後期中葉堀之内2式
30 31	D-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部横位有刻離帯、沈線。	明褐色・雲・石・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 32	G-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部外面縱位離帯、内面横位斜位併行沈線。	褐色・雲・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 33	H-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	溝状縄文外面縦位離帯、内面溝状沈線、横位併行沈線。	褐色・雲・石・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 34	G-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	波状口縁部外面縦位離帯の有刻離帯下、横走沈線単節縄文、内面離帯起立沈線が併走。	赤褐色・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 35	I-16	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口唇部斜刺、口縁部有刻離帯垂下。	暗褐色・石・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 36	F-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口唇部押E、口縁部横位併行凹状横離帯内單節縄文施文。	褐色・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 37	E-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口唇部斜刺、口縁部併行沈線施文。	黒褐色・長	後期中葉堀之内2式
30 38	H-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部斜刺離帯と沈線が横走。	褐色・雲・長	後期中葉堀之内2式
30 39	H-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口唇部押返し、口縁部無文。	褐色・長・石・赤	後期中葉堀之内2式
30 40	E-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	脚部、沈線区画内單節縄文施文。	黄褐色・雲・長	後期中葉堀之内2式
30 41	E-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	脚部、沈線区画内單節縄文又無文。	褐色・石・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 42	E-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	脚部、沈線区画内單節縄文又無文。	褐色・長	後期中葉堀之内2式
30 43	G-3・4	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	脚部、沈線区画内單節縄文を施文。	赤褐色・長・赤	後期中葉堀之内2式
30 44	G-3・4	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	脚部、沈線区画内單節縄文を施文。	赤褐色・雲・長・赤	後期中葉堀之内2式

博団 No.	出土地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	施文・整形技法等	色調・胎土	備考
30 45	G-12	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	黄褐色・長	後期中葉壠之内2式
30 46	E-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	黄褐色・雲・石・長・赤	後期中葉壠之内2式
30 47	D-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	黄褐色・石・長	後期中葉壠之内2式
30 48	CIK-桔	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	棕色・雲・長	後期中葉壠之内2式
30 49	D-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	黄褐色・長	後期中葉壠之内2式
30 50	B-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	黄褐色・雲・長・赤	後期中葉壠之内2式
30 51	H-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	黄褐色・雲・長・赤	後期中葉壠之内2式
30 52	E-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	黄褐色・長・赤	後期中葉壠之内2式
30 53	C-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。	黄褐色・長・石	後期中葉壠之内2式
30 54	E-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、横走する沈線に8の字状突起貼付。	棕色・長	後期中葉壠之内2式
30 55	C-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、沈底部内単筋縦文を施文。8の字状突起貼付。	黄褐色・長・石	後期中葉壠之内2式
31 56	H-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、2条の陰帯が横走する。	褐色・雲・長・赤	後期中葉壠之内2式
31 57	A-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縁部、横走する多条の沈線を施文。	黑褐色・雲・長・赤	後期中葉壠之内2式、石神型類型か
31 58	E-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部内沈線横走。口縫部、多条の横走する斜筋を施文。以下、人相文施文。	黄褐色・雲・長	後期中葉壠之内2式、石神型類型か
31 59	E-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、併行沈線による人相文施文。	黑褐色・雲・長	後期中葉壠之内2式、石神型類型か
31 60	I-14	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部、多条細沈線による人相文施文。	黑褐色・長	後期中葉壠之内2式、石神型類型か
31 61	H-17	縄文	縄文後	深鉢	(19.0) -/-/-	口縫部にギザミが造る。口縫部外面、横走する併行沈線に継ぎ区画施文。内面、斜点が造り以下横下す。併行沈線間に斜めの細網刻文施文。	赤褐色・石・長・赤	後期中葉加曾利B1式
31 62	C-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部、刺子状弧状沈線、口縫部穿孔、外面に角形模モチーフと人相形の併行沈線。内面、横位斜矢所に併行沈線。	黄褐色・長・石	後期中葉加曾利B1式
31 63	B-1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部、横走する併行沈線に継ぎ張状沈線を施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉加曾利B1式
31 64	試1	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部穿孔、外側併行沈線、内面併行沈線間に斜位の網目刻文を施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉加曾利B1式
31 65	G-3・4	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部穿孔、外側併行沈線、内面併行沈線間に斜位の網目刻文を施文。	黄褐色・雲・長	後期中葉加曾利B1式
31 66	B-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部穿孔、口縫部外側沈線内に単筋縦文施文。内面併行沈線を施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉加曾利B1式
31 67	B-2	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部8の字状突起、口縫部外面刺突、併行沈線下に単筋縦文施文。内面刺突併行沈線施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉加曾利B1式
31 68	B-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部小沈状を呈す。口縫部外面併行沈線間に斜位網目刻文施文。内面併行沈線を施文。	棕色・雲・長	後期中葉加曾利B1式
31 69	B-2・3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	胴部沈線部内単筋縦文施文。張状沈線で縫合す。	棕色・雲・長・赤	後期中葉加曾利B1式
31 70	C-3	縄文	縄文後	鉢	-/-/-	口縫部並行沈線内に単筋縦文施文。	棕色・雲・長	後期中葉加曾利B1式
31 71	I-2	縄文	縄文後	鉢	-/-/-	口縫部外面無文、内面刺突排列、併行沈線施文。	刺突	後期中葉加曾利B1式
31 72	F-3	縄文	縄文後	深鉢	-/-/-	口縫部外面無文、口縫部内面刺突排列。	棕色・雲・石・長・赤	後期中葉加曾利B1式
32 73	E-1	縄文	縄文後	釣手土器	-/-/-	釣手部、笠形沿唇部に刺突を施す。	棕色・雲・石・長	後期初頭か
32 74	G-3・4	縄文	縄文後	浅鉢	-/-/-	口縫部円錐状の突起、穿孔、外面刺突、内面沈線、刺突施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉壠之内2式
32 75	I-15	縄文	縄文後	浅鉢	-/-/-	口縫部漏巻状の突起、穿孔、外面刺突、内面沈線、刺突施文。	黄褐色・雲・長	後期中葉壠之内2式
32 76	H-2	縄文	縄文後	浅鉢	-/-/-	口縫部漏巻状の突起、穿孔、内面沈線、刺突施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉壠之内2式
32 77	E-2	縄文	縄文後	浅鉢	-/-/-	波紋状穿孔、内面刺突、刺突施文。	褐色・石・長	後期中葉壠之内2式
32 78	I-2	縄文	縄文後	浅鉢	-/-/-	波紋状口縫、穿孔、外面無文、内面環状沈線、刺突施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉壠之内2式
32 79	C-2	縄文	縄文後	浅鉢	-/-/-	突起部欠損、穿孔、外面無文、内面併行沈線、刺突施文。	黄褐色・雲・長	後期中葉壠之内2式
32 80	I-3	縄文	縄文後	浅鉢	-/-/-	口縫部外面無文、内面併行沈線間に斜位網目刻文施文。	黄褐色・雲・長	後期中葉壠之内2式
32 81	E-4	縄文	縄文後	浅鉢	-/-/-	口縫部外面無文、内面併行沈線間に斜位網目刻文施文。	黄褐色・長・赤	後期中葉壠之内2式

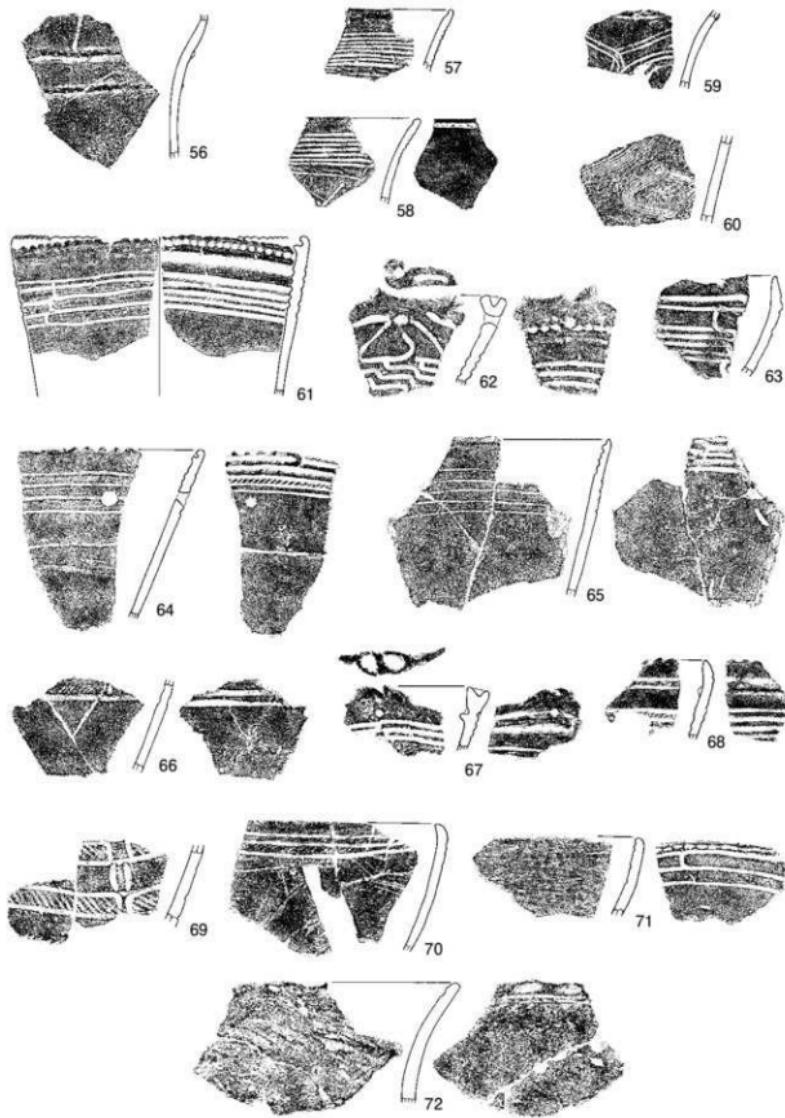
番号	出土地点	種別	時期	器種	口/底/高(cm)	施文・整形技法等	色調・胎土	備考
32	82 H-4	縄文	縄文後	浅跡	-/-/-	口縁部外面無文、内面併行沈線、削次文施文。	褐色・雲・石・長	後期中葉層之内2式
32	83 F-17	縄文	縄文後	浅跡	-/-/-	口縁部孕乳、2付の小突起、外面無文、内面併行沈線、削次文施文。	黒褐色・石・長	後期中葉層之内2式
32	84 F-3	縄文	縄文後	浅跡	-/-/-	口縁部外面削欠、沈線、内面痕状有削次起、併行沈線、削次文施文。	黄褐色・長	後期中葉層之内2式
32	85 H-2	縄文	縄文後	浅跡	-/-/-	口縁部外面削欠、沈線、内面痕状有削次起、併行沈線、削次文施文。	褐色・雲・石・長	後期中葉層之内2式
33	86 E-4	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部部位有削欠暈、8の字状突起、沈縫部内面單面施文。	褐色・石・長	後期中葉層之内2式
33	87 E-4	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	胴部に環状に沈線を施文、沈縫部内面单面施文を施文。	黄褐色・長・赤	後期中葉層之内2式
33	88 G-3・4	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	胴部に併行沈線、微刻起、尾端沈縫を施文、沈縫部内面单面施文。	黒褐色・雲・石・長	後期中葉層之内2式
33	89 G-16	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、端部一帯欠損。	赤褐色・石・長	後期中葉層之内2式か
33	90 G-3・4	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、底部下縫部による円文施文。	棕褐色・雲・石・長	後期中葉層之内2式か
33	91 H-4	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、基部一帯沈線、8の字状突起、端部欠損。	褐色・雲・長	後期中葉層之内2式
33	92 E-2	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、基部一帯沈線、8の字状突起、端部欠損。	黄褐色・雲・長	後期中葉層之内2式か
33	93 G-2	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、端部一帯欠損、基部縫隙が遺る、下端部は三角状を呈す。	褐色・雲・石・長・赤	後期中葉層之内2式か
33	94 B-1	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉
33	95 F-3	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、端部一帯欠損。	褐色・雲・長	後期中葉
33	96 H-15	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、端部欠損。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉
33	97 B-1	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、端部欠損。	赤褐色・雲・石・長	後期中葉
33	98 E-1	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、端部欠損。	黄褐色・長・石	後期中葉
33	99 F-14	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、端部欠損。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉
33	100 F-1	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	注口部、端部欠損。	棕色・雲・長・石	後期中葉
33	101 J-14	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、沈線、削次文を施文。	棕色・雲・長・石	後期中葉層之内2式
33	102 E-3	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、沈線、削次文を施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉層之内2式
33	103 B-2	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、頭頂部の字状隙縫を付す。	黄褐色・長・石・赤	後期中葉層之内2式
33	104 G-16	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、沈線、削次文を施文。	黄褐色・雲・長	後期中葉層之内2式
33	105 H-3	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、沈線が施す。	褐色・長・石・赤	後期中葉層之内2式
33	106 A-2	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手。側面に沈縫による渦巻状チーフ施文。	黄褐色・雲・長	後期中葉層之内2式
33	107 F-3	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、頭頂部に沈縫による渦巻状チーフ施文。	赤褐色・石・長	後期中葉層之内2式
33	108 A-2	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、刺突、沈縫を施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉層之内2式
33	109 E-2	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、沈線、削次文を施文。	明褐色・石・長・赤	後期中葉層之内2式
33	110 F-3	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手。側面に沈縫による渦巻状チーフ施文。	黄褐色・雲・長・石	後期中葉層之内2式
33	111 H-3	縄文	縄文後	注口土器	-/-/-	口縁部に付される環状の把手、頭頂部に刺突。	褐色・長	後期中葉層之内2式
34	112 D-3	縄文	縄文後	深跡	- / (7.4) /	底部外表面代表。	黄褐色・石・赤	後期中葉
34	113 E-1	縄文	縄文後	深跡	- / (8.6) /	底部外表面代表。	褐色・石・長	後期中葉
34	114 AIx焼土	縄文	縄文後	深跡	- / 11.0 /	底部外表面代表。	黄褐色・石・赤	後期中葉
34	115 F-2・3	縄文	縄文後	深跡	- / (10.3) /	底部外表面代表。	褐色・長・石	後期中葉
34	116 A-3	縄文	縄文後	深跡か	- / 9.0 /	底部外表面代表。	黄褐色・石・赤	後期中葉
34	117 A-3	縄文	縄文後	注口土器	- / 6.7 /	底部外表面代表。	黄褐色・石・赤	後期中葉
34	118 E-1	縄文	縄文後	深跡か	- / 11.4 /	底部外表面代表。	黄褐色・雲・石・長・赤	後期中葉
34	119 B-2	縄文	縄文後	不明	- / 8.0 /	底部外表面代表。	褐色・長・石	後期中葉か
34	120 F-3	縄文	縄文後	不明	- / 8.0 /	底部外表面代表。	黄褐色・石・長・赤	後期中葉か
34	121 B-1	縄文	縄文後	不明	- / (10.0) /	底部外表面代表。	黄褐色・雲・赤	後期中葉か
34	122 試1	縄文	縄文後	不明	- / 5.1 /	底部外表面代表。	黒褐色・雲・赤	後期中葉か
34	123 C-3	縄文	縄文中	深跡	- / (6.6) /	底部外表面代表。	黒褐色・雲・長・赤	後期中葉か
34	124 G-2	縄文	縄文後	不明	- / (7.2) /	底部外表面代表。	褐色・雲・石・長・赤	後期中葉か
34	125 E-4	縄文	縄文中	深跡	- / (12.0) /	削欠着し施文・整形技法等不明。	赤褐色・雲・石・長・赤	中期中葉か
34	126 A-24土	不明	不明	高环	- / 4.5 /	削欠着し施文・整形技法等不明。	褐色・雲・石・長・赤	弥生末～古墳初頭



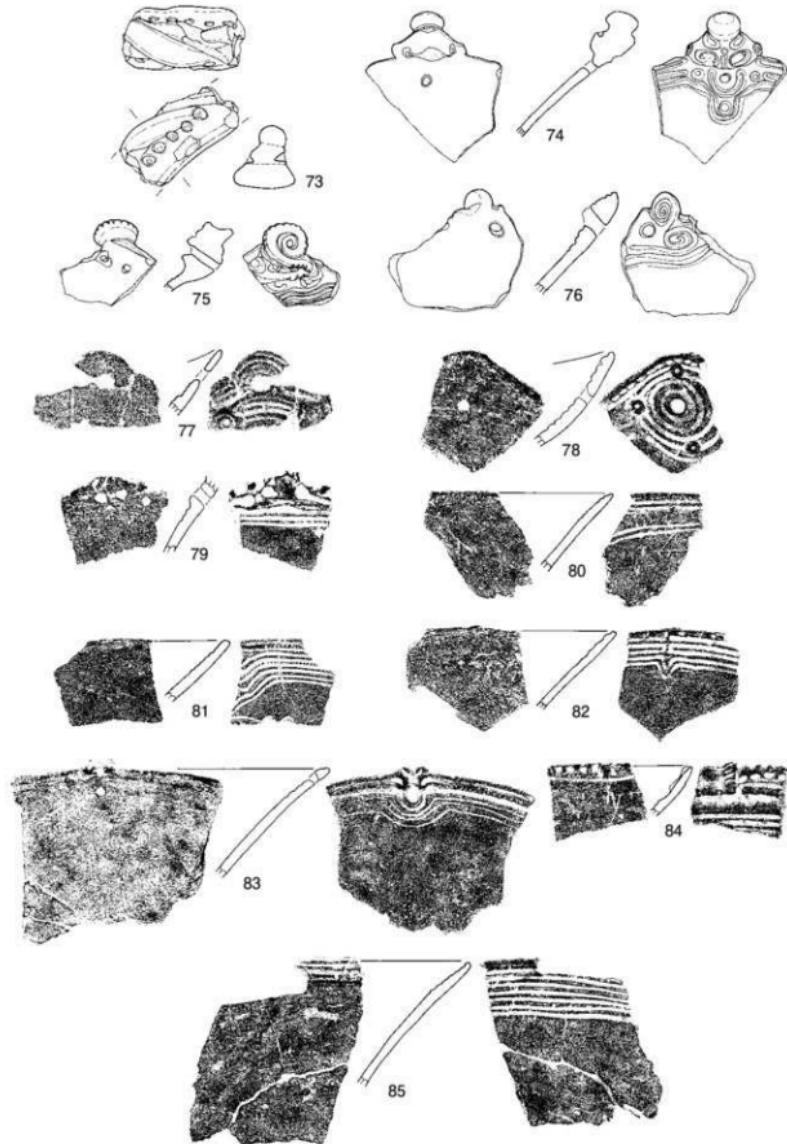
第29図 出土土器 (1) (1/3)



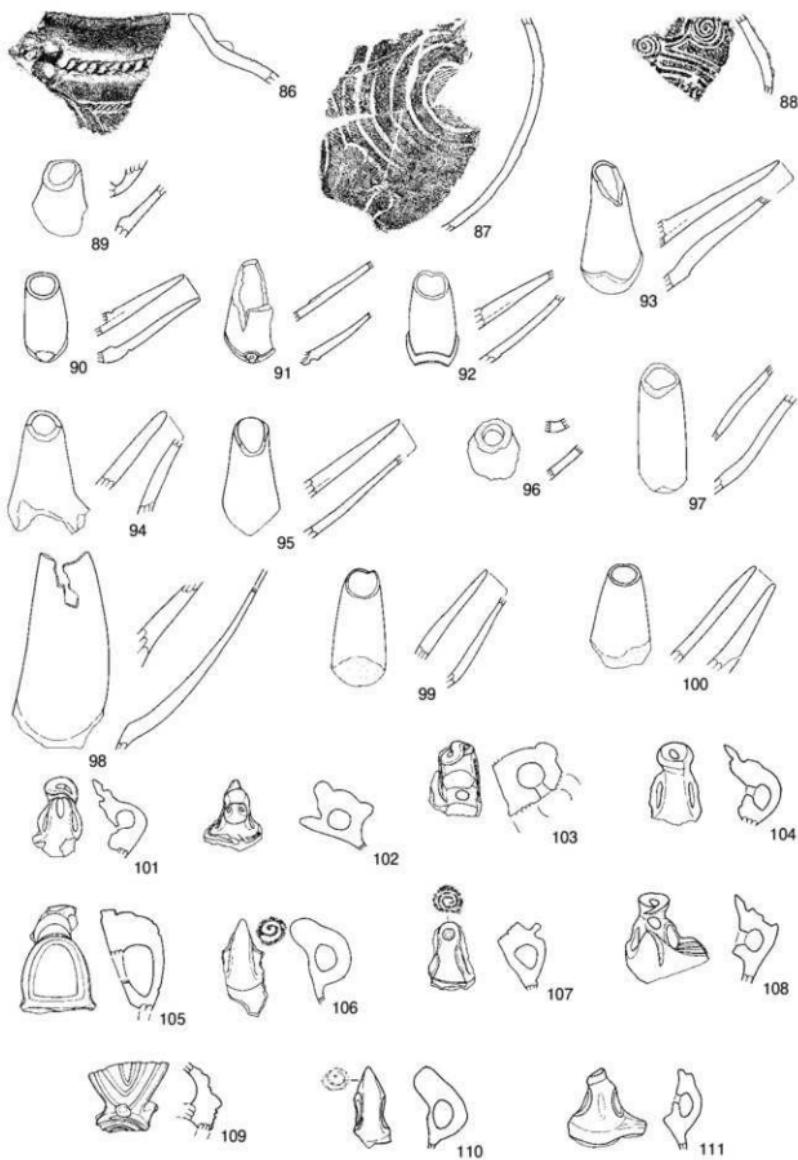
第30図 出土土器 (2) (1/3)



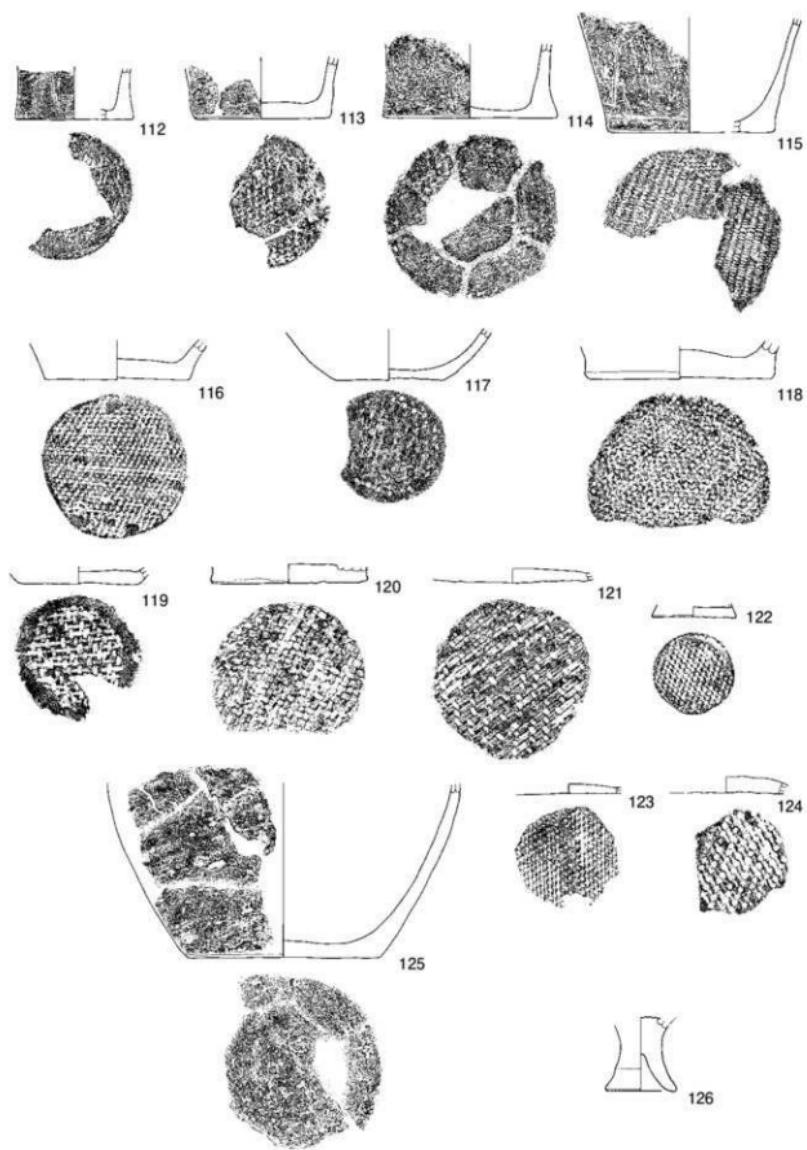
第31図 出土土器（3）(1/3)



第32図 出土土器 (4) (1/3)



第33図 出土土器 (5) (1/3)



第34図 出土土器 (6) (1/3)

ま と め

原間遺跡から出土した石器は、図化することができなかつたものが数多くある。第6表(P60)に示したように、各遺物についてはグリッド別と機種別に出土点数を記載した。グリッド配置図については、第35図(P59、原間遺跡グリッド配置図)で示した。

まず、打製石斧であるが、調査区のA区からの出土が顕著である。C区では、遺構の集中する位置でその分布が認められる。磨製石斧の出土頻度は少ないものの、打製石斧同様にA区での出土が多く広がりを見せてている。

更に出土頻度の少ない石棒については、A区での出土が目立つ。

石錘については44点確認され、そのうち図示したものは41点で、完形品と思われる石錘については16点、残り28点については欠損しているものである。完形品の中で更に分布を見てみると、その多くはA区に存在しており、完形品の16点の内11点がこの地区である。また、A区の土坑内から完形品1点だけであるが出土している。ただしA区では欠損品も多く、13点の出土がある。C区での完形品と思われるものは4点であり、欠損品は6点である。

土錘の出土は、第28図-42に示したように1点だけ確認されている。出土地点は、A区のC-3グリッドで完形品ある。形態としては切目もので、重さ・長さ・幅・厚さなどについては石製品と何ら変わらない。

石鏃については、73点の出土がある。分布については、やはりA区にその集中が認められ44点確認されている。A区はC区に比べ小規模であるが、出土点数は非常に高くほぼA区全体に点在している。C区での出土状況では、H-17グリッドを中心とした広がりが認められる。図示したものは61点であり、形状については、平基のものは9点、凹茎のものは52点である。

磨石の出土は、石錘や石錘の分布とよく似た状況が見られる。A区での出土状況では比較的まとまりを見せているものの、集中しているという状況ではなく、石錘の分布と共通するものがある。また、C区での分布は石錘の出土地点のものと似かよっている。

丸石については、A区の中央から西側にその広がりを見せており、C区では若干の出土が認められる。

四石は、C区では確認されておらず、A区だけその出土が認められ、A区-9土坑内から1点確認されている。

石皿については、出土点数すべてが半分以上欠損している。点数は少ないものの、A区で広く分布している状況がうかがえる。

注口土器は27点を図示し、A区では21点、C区では5点出土し、A区で器種不明(注口土器か)であるが1点確認されている。やはりA区での出土が目立つ。

取り扱い方が適切であるかどうか不明な部分はあるが、石錘の未製品ではないかと思われる石が51点存在している。確認された石錘の総点数は44点で、未製品と思われるものと比較しても点数的にはほぼ変わらない。

未製品と思われる石のその理由についてであるが、1) 形状が似ていること、2) 本来この場所に存在していない石であること、3) 出土分布状況が似ていること、4) 重さについて、などである。

1) 形状について

長丸形や丸形、卵形でやや厚みのあるもの、扁平なものなどが認められる。これらの石に切目や打欠などの加工が施されていたならば、製品としての石錘と何ら遜色はない。

2) 石材について

遺跡周辺からは、石錘の作製に要した材を産出する岩盤などが存在しておらず、河原によく転がっている石材であり、未製品と思われるこれらの石もまた同様である。原間遺跡からやや離れてはいるが、遺跡の東には富士川が南流している。この富士川で採取できる平たく丸みを帯びた石材は、加工しやすいものが多い。実際に採取した石材を利用して五寸釘ではあるが、打欠と切目の石錘製作を試みたところ20~30分程度で完成することができた。

3) 出土分布状況について

製品としての石錘の出土分布については先にも触れたが、狭い調査区の範囲に集中しており、広い調査区である

C区ではH-15グリッドを中心とし、その周辺に存在している。

未製品と思われる石の分布については、製品と同様な状況を窺うことができ、関連する石の可能性もある。

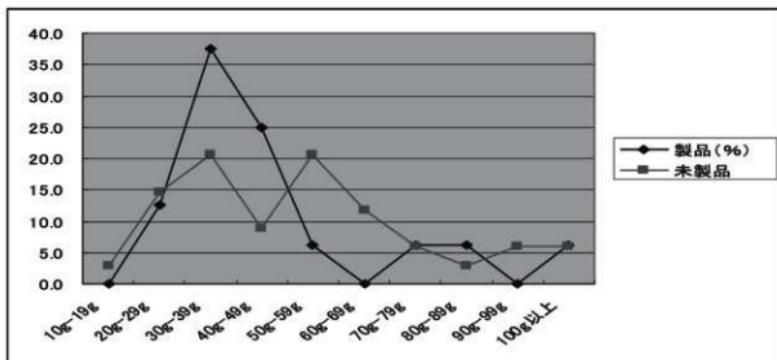
4) 重さについて

重さについては、別表のとおりである。未製品と思われる石材の重量は、最大のものは184gで、その次に129gが続きどれも欠損していない。製品である石錘の重量は、最大で127gの完形品である。

製品である石錘の重量で最小のものは23g、その次に25gと続き、未製品のものは16g、その次に4点見つかった22gが続く。

(グラム別表)

完形品	10 g - 19 g	20 g - 29 g	30 g - 39 g	40 g - 49 g	50 g - 59 g	60 g - 69 g	70 g - 79 g	80 g - 89 g	90 g - 99 g	100 g 以上	合計
製品	0	2	6	4	1	0	1	1	0	1	16点
未製品	1	5	7	3	7	4	2	1	2	2	34点
出土点数率	10 g - 19 g	20 g - 29 g	30 g - 39 g	40 g - 49 g	50 g - 59 g	60 g - 69 g	70 g - 79 g	80 g - 89 g	90 g - 99 g	100 g 以上	
製品 (%)	0.0	12.5	37.5	25	6.3	0.0	6.3	6.3	0.0	6.3	
未製品 (%)	2.9	14.7	20.6	8.8	20.6	11.8	5.9	2.9	5.9	5.9	

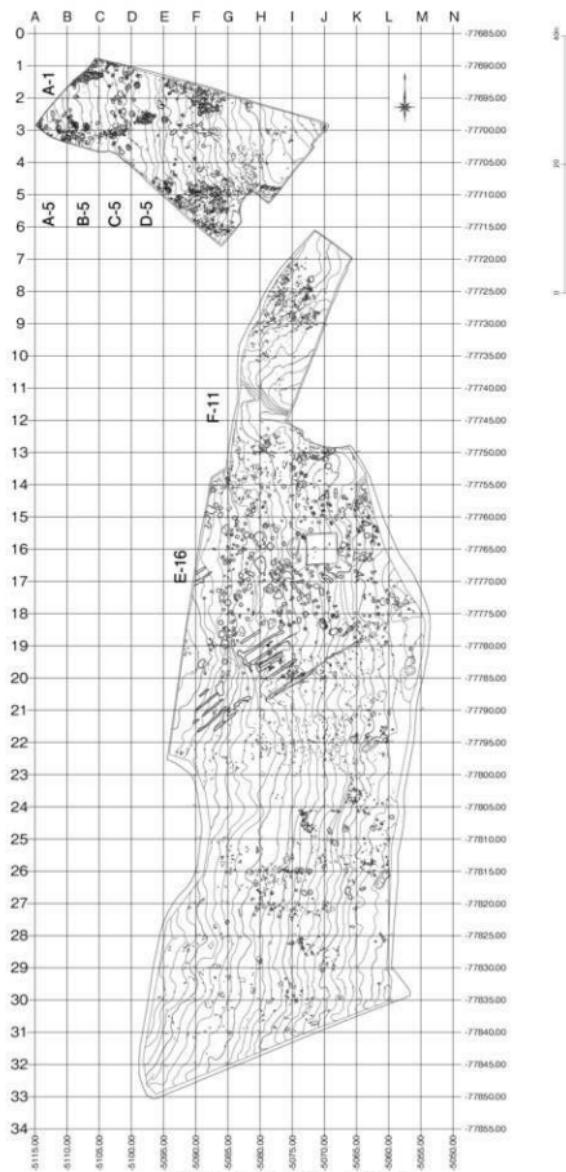


図表のように、製品および未製品と思われる石錘の重量は、おおよそ20gから80gまでの範囲に集中するようである。原間遺跡の更に南に位置する天神堂遺跡（第1図-31）では、石錘の出土数は41点である。その内完形ないしほば完形の点数は34点で、重量については、本遺跡と同様に20gから80gまでの範囲に集中している。また、100gを超える石錘も存在しており、原間遺跡と類似する点も多い。

さて、山梨県内で石錘の出土遺跡数は、45遺跡（注1）に上る。石錘の出土状況などからその用途としては、編物や漁労としての石器が想定されている。しかし、通常の重さが20gから80gまでの範囲については、漁労などに使用された錘と考えられ、80gを超えるような石錘は編物としての機能が高いのではないかと思われる。

出土物全体を検討していかねばならないが、漁労としての石錘は、河原石と接触する確率が非常に高いため、44点の出土の内28点が壊れて出土するのではないだろうか。よって、未製品と思われる石について、石錘を製作するために遺跡に集められたと考えられる。

注1 長沢宏昌2003「山間地の漁労と打欠石錘の用途」『研究紀要19』20周年記念論文集 山梨県立考古博物館
山梨県埋蔵文化財センター



第35図 原間遺跡グリッド番号図

第6表 原間遺跡出土石器分類表

出土位置	打製石斧	磨製石斧	石棒	石錐	石鏟	磨石	丸石	圓石	石頭	注入土器	石錐未
A-1					1					2	
A-2	1										
A-3						1				(1)?	
B-1	4	1		1	1		2			2	2
B-2	10		1		1	1	1			1	3
B-3	5				2		1	1	1		1
C-1	3						1	1			1
C-2	7	1		3	5	1	2				
C-3	2				3	2					
D-1	2				3						1
D-2	2			6	5	2					2
D-3	9				1		1				3
D-4					1						
E-1	5				2	1	2			1	
E-2	7		1	2		2	3			1	1
E-3	7				4						1
E-4	4	1		1		1				2	1
E-5					1						
F-1	4					1					1
F-2	7				1	1					
F-3	8			4	1		1	1		2	1
F-4	2			2	1						1
F-5	1										
G-1	1									1	
G-2	9				1						1
G-3	3			2	2						1
G-4	7									2	
G-3, 4	6				1	3	3	3			1
H-2	1			2	2	2					2
H-3	5	2		1	1			1		2	1
H-4	4	1	1	2	2				1	1	
I-2	3				2	1					
I-3	2					1					
I-4									1		1
E-15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											
26											1
F-13											
14							1				4
15							1				
16											
17	4										
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											
26											
小計	135	6	3	26	44	23	17	6	3	19	29

出土位置	打製石斧	磨製石斧	石棒	石錐	石鑿	磨石	丸石	凹石	石盤	注入土器	石鍬木
F-27											
F-28											
G-8											
9											
10											
11											
12	3						3				
13											
14											
15	1		1								
16	2				1					2	
17											
18					1						
19				1							
20	1										
21											
22											
23	1										
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
H-7											
8											
9											
10											
11	4										
12	5										3
13											
14	1										
15	4	2					1	3		2	1
16	4				2						1
17				1	1	1					
18											
19											
20	1										
21											
22											
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
I-6											
7											
8											
9											
10											
11											
12	1										
13	1										
14	1										
I-15	1			2		2					
小計	31	2	1	4	5	7	3	0	2	3	6

出土位置	打製石斧	磨製石斧	石棒	石錐	石鑿	磨石	丸石	圓石	石皿	注入土器	石錐未
16					2		1				
17						1					1
18						1					
19											
I-20											
21											
22		1									
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
J-12		1			1						
13						1					1
14	2			1			2				1
15	2			1	1		2				
16	2				1						
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29		1									
30											
K-12											
13											
14				2							
15	2			2				1			
16	1										1
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
L-14											
15											
16		2									
17											
18											
19											
小計	14	0	0	6	7	5	2	0	0	1	3

出土位置	打製石斧	磨製石斧	石棒	石錐	石鑿	磨石	丸石	凹石	石盤	注口土器	石錐末
L-20											
21											
22											
23											
24											
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出土位置	打製石斧	磨製石斧	石棒	石錐	石鑿	磨石	丸石	凹石	石盤	注口土器	石錐末
AI区表探	6			3	10	2	1				4
BI区表探	1	1		1							2
C区表探	3			1	4						
AI区土坑	3		1	1		1		1			3
BI区土坑					1						
C区土坑							1				2
2号住	2						1				
原闢表探	2			2	2	1					2

器種別 総点数

打製石斧	197										
磨製石斧		9									
石棒			5								
石錐				44							
石鑿					73						
磨石						41					
丸石							23				
凹石								7			
石盤									5		
注口土器										23+(1)?	
石錐末											51

写 真 図 版



图版 1 土坑 (1)



A区 2号土坑



A区 2号土坑完掘



A区 3号土坑



A区 3号土坑完掘



A区 4号土坑



A区 4号土坑完掘



A区 5号土坑



A区 5号土坑完掘

图版2
土坑
(2)



A区 6号土坑



A区 6号土坑完掘



A区 7号土坑



A区 8号土坑完掘



A区 9号土坑



A区 10号土坑完掘



A区 11号土坑



A区 11号土坑完掘



A区12、13号土坑



A区30号土坑完掘



A区31、32号土坑完掘



A区33号土坑完掘



A区34号土坑



A区35号土坑完掘



A区36号土坑完掘



A区34、37号土坑完掘



A区38号土坑完掘



A区39号土坑完掘



A区焼土遺構



左○内の拡大 中央に土器が埋設



A区焼土遺構完掘



B区1号土坑完掘



C区1号土坑



C区1号土坑完掘



C区 2号土坑



C区 2号土坑完掘



C区 3号土坑完掘



C区 4号土坑



C区 5号土坑完掘



C区 6号土坑完掘



C区 8号土坑完掘



C区 9号土坑完掘

図版 6 土坑（6）・住居跡（1）



C区10号土坑完掘



C区11号土坑完掘



C区12号土坑完掘



C区L-19グリッド土坑-1完掘



C区2号住居を壊した風倒木痕



右斜め上に見えるのはカマド



C区2号住居跡完掘（西から撮影）



2号住居跡掘方の状況（西から撮影）

図版7 住居跡（2）・遺跡調査前風景



2号住居跡カマドの状況（南から撮影）



カマド内の状況（中央に支脚が立つ）



2号住居跡壁溝の状況（南から西壁を撮影）



2号住居跡の広さ（西から撮影）



写真中央のお茶畑が原間遺跡の中心と思われる（中央下は道路建設予定地）



旧石器時代遺物



縄文時代ヘラ状石器



縄文時代打製石斧





縄文時代石鏃



縄文時代磨製石斧



丸石

石棒



右写真の左下石棒の拡大



磨石



凹み石



石皿



石錘



平安時代住居出土のカマ



縄文土器（深鉢）



縄文土器（深鉢）



縄文土器（浅鉢・注口土器）



縄文土器（底部）



高环脚部



平安時代住居跡出土甕

図版 14
調査風景（1）



遺構確認作業



A区遺構掘削作業



A区グリッドの掘り下げ



A区調査作業



B区調査作業



C区 2号住居確認作業（北西から撮影）



C区調査作業



C区 2号住居調査風景（西から撮影）



C区 2号住居跡床面下の調査（西から撮影）



C区 2号住居調査作業（東から撮影）



C区土坑調査作業



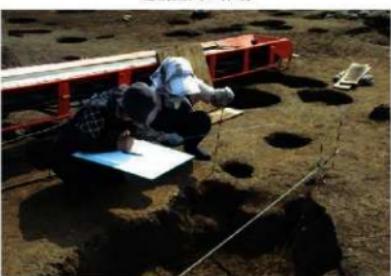
図版16
調査風景（3）



遺物の取り上げ



遺構図面の作成



図面の作成状況



図版 17
遺物出土状況





発掘体験セミナー実施H21年8月9日実施



睦合小学校の課外授業H21年9月1日実施



現地説明会H21年11月23日



ラジコンヘリによる空中撮影（1回目）

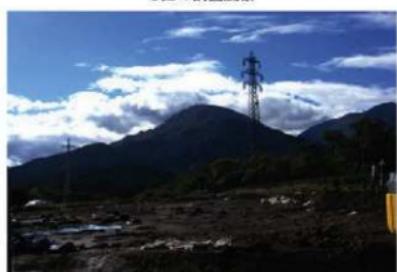


ラジコンヘリによる空中撮影（2回目）

図版 19
調査風景と試掘確認調査風景



C区の調査風景



H21年11月25日片づけ終了



平成20年に実施した原間遺跡の試掘確認調査



原間遺跡全体写真

報告書抄録

ふりがな	はらまいせき							
書名	原間遺跡							
副題	中部横断自動車道建設事業に伴う発掘調査報告							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	279集							
著者名	山本 茂樹・福垣 自由・三田村美彦・保坂康夫							
発行者	山梨県教育委員会・国土交通省関東地方整備局							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016							
発行年月日	2011年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査 原因	
はらま いせき 原間遺跡	山梨県南巨摩 郡南部町本郷 字原間地先	市町村 19366	南都町南 部006	35° 17' 58"	138° 26' 40"	平成21年6月8日～ 11月25日	6,000m ²	道路 建設 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
原間遺跡	集落跡	绳文・ 平安	土坑・焼土遺構・ 平安時代の住居跡1軒	绳文土器・石器・ 平安時代土器	集石土坑内から4分割された石棒が出土			
要約	本遺跡は、中部横断自動車道建設に先立ち発掘調査が実施された。遺跡は、お茶畠に存在し、遺跡の中心は本調査区の西側に存在することが明らかにされた。調査された住居跡軒数は少なかったものの、遺構・遺物から居住区ではなく祭祀場或いは祭祀後の遺跡と考えられる。							

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第279集

原間遺跡

- 中部横断自動車道建設事業に伴う発掘調査報告 -

印刷日 2011年3月22日

発行日 2011年3月25日

編集 山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882

発行 山梨県教育委員会 国土交通省関東地方整備局
印刷 株式会社ヨネヤ

